

秋田県文化財調査報告書第454集

智者鶴遺跡

智者鶴遺跡

—地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—



2010・3

2010・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂(しろざか)遺跡出土
の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

ち
智
しや
者
づる
鶴
遺
跡

—地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010・3

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、県道をはじめとする道路の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに銳意取り組んでおります。

本報告書は、地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線の建設に先立って、平成20・21年度に由利本荘市において実施した智者鶴遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査では、縄文時代後期前葉から晩期中葉までの土坑や配石遺構、掘立柱建物跡などが検出され、遺跡は縄文時代に営まれた集落跡と墓域跡であることが分かりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力をいただきました由利地域振興局建設部、由利本荘市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

秋田県教育委員会

教育長 根 岸 均

例　　言　・　凡　　例

- 1 本報告書は、地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に伴い、平成20・21(2008・2009)年度に行った智者鶴遺跡の発掘調査成果を収めたものである。
- 2 本報告書刊行以前に『年報』『発掘調査資料』などによって概要を公表しているが、内容に相違がある場合、本報告書をもって訂正したものとする。
- 3 発掘調査と整理作業においては、一部の業務を下記の機関に委託した。

水準測量および方眼杭設置：測地環境コンサルタント
空中撮影：エルディコンサルタント株式会社
石器実測・デジタルトレース：株式会社アルカ
土器実測・デジタルトレース：NPO法人歴史・環境・まちづくり
- 4 第5章「自然科学的分析」は、下記の各機間に分析を業務委託した成果報告である。

第1節 花粉分析、植物珪酸体分析、リン・カルシウム分析：パリノ・サーヴェイ株式会社
第2節 黒曜石製石器の産地推定：株式会社パレオ・ラボ
第3節 動物遺体同定：株式会社パレオ・ラボ
- 5 本書の原稿は、第1～3章、第4章第1・2節を加藤朋夏と加藤竜がそれぞれの調査担当年度分について執筆し、第4章第3節、第6章は加藤竜が執筆した。全体の編集は加藤竜が行った。
- 6 本書に使用した地図の原図は、国土地理院発行1/25,000地形図「大琴」「老方」「矢島」「羽後田代」ならびに秋田県由利地域振興局建設部提供の1/1,000工事用図面である。
- 7 挿図中の方位は、世界測地系平面直角座標第X系の座標北を示す。なお、磁北は座標北から西へ7° 50' 偏する。
- 8 土層注記などの土色の色調表記は、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帳』2003年版に準拠した。
- 9 遺構・遺物に使用した略記号は以下の通りである。

SB：掘立柱建物跡 SK：土坑 SKP：柱穴様ピット SQ：配石遺構
RP：土器 RQ・S：石器
- 10 遺跡基本層位にはローマ数字を、遺構内層位には算用数字を使用した。
- 11 遺構から出した礫石器類については、以下のように漢字1文字で省略して種別と分類を示した。

皿：石皿 砥：砥石 磨：磨・凹石類 磨：礫器 棒：石棒 硅：硅化木
- 12 掲載した遺物には挿図ごとに1からの通し番号を付した。また、同一個体と考えられる土器には、1 a・1 b のように数字と小文字アルファベットを合わせて表示した。
- 13 挿図に使用した網掛けについては、挿図毎に凡例を付した。
- 14 写真図版に掲載した遺物の縮尺は以下の通りである。

土器：約1/4 剥片石器類：約1/2 磨製石斧・打製石斧：約1/3 磥石器類：約1/4
土製品・石製品：約1/2
- 15 発掘調査および報告書作成にあたり、以下の方々からご指導・ご協力頂いた(五十音順、敬称略)。

大島直行 中村大 水戸部秀樹 八木勝枝

目 次

序	i		
例言・凡例	ii		
目次	iii		
挿図目次	iv		
表目次	v		
図版目次	vi		
第1章 はじめに	1	3 挖立柱建物跡	35
第1節 調査に至る経過	1	4 柱穴様ピット	35
第2節 調査要項	1	第3節 出土遺物	60
1 繩文土器	60		
第2章 遺跡の環境	2	2 石器	64
第1節 遺跡の位置と立地	2	3 土製品	71
第2節 歴史的環境	3	4 石製品	72
第3章 発掘調査の概要	8	第5章 自然科学的分析	118
第1節 遺跡の概観	8	第1節 花粉分析、植物珪酸体分析、 リン・カルシウム分析	118
第2節 調査の方法	8	第2節 黒曜石製石器の産地推定	123
第3節 調査の経過	11	第3節 動物遺体同定	127
第4節 整理作業の方法と経過	13	 	
第4章 調査の記録	14	第6章 まとめ	129
第1節 基本層序	14	 	
第2節 検出遺構と出土遺物	17	図版	
1 土坑	17	報告書抄録	
2 配石遺構	33	付図	

挿図目次

第1図	遺跡位置図	2
第2図	地形区分図	3
第3図	周辺道路位置図	6
第4図	グリッド配置図	9
第5図	基本土層図	15
第6図	基本土層図成点	15
第7図	遺構配置図	16
第8図	土坑(1) SK11・12・13a・14a・14b・15・24・30a・39a・43・71・83	36
第9図	土坑(2) SK53・54・56・57・58・62・67・70	37
第10図	土坑(3) SK85・88・89・129・130・156a・162・164・165・166・178	38
第11図	土坑(4) SK188・205・213・214・226・237・242・243・244・245・248・251	39
第12図	土坑(5) SK252・266・281・282・283・284・298 配石遺構(1) SQ55・68・69・246・247	40
第13図	配石遺構(2) SQ52	41
第14図	掘立柱建物跡 SB296・297	42
第15図	柱穴様ピット	43
第16図	遺構内出土縄文土器(1)	51
第17図	遺構内出土縄文土器(2)	52
第18図	遺構内出土縄文土器(3)	53
第19図	遺構内出土縄文土器(4)	54
第20図	遺構内出土縄文土器(5)、土製品、剥片石器類(1)	55
第21図	遺構内出土剥片石器類(2)	56
第22図	遺構内出土剥片石器類(3)、礫石器類、石製品	57
第23図	遺構外出土縄文土器(1) I群(後期前葉)深鉢	73
第24図	遺構外出土縄文土器(2) I群(後期前葉)深鉢	74
第25図	遺構外出土縄文土器(3) I群(後期前葉)深鉢	75
第26図	遺構外出土縄文土器(4) I群(後期前葉)深鉢	76
第27図	遺構外出土縄文土器(5) I群(後期前葉)深鉢	77
第28図	遺構外出土縄文土器(6) I群(後期前葉)深鉢	78
第29図	遺構外出土縄文土器(7) I群(後期前葉)深鉢	79
第30図	遺構外出土縄文土器(8) I群(後期前葉)深鉢、浅鉢、壺	80
第31図	遺構外出土縄文土器(9) II群(後期中葉)深鉢	81
第32図	遺構外出土縄文土器(10) II群(後期中葉)深鉢	82
第33図	遺構外出土縄文土器(11) II群(後期中葉)深鉢	83
第34図	遺構外出土縄文土器(12) II群(後期中葉)深鉢	84
第35図	遺構外出土縄文土器(13) II群(後期中葉)深鉢	85
第36図	遺構外出土縄文土器(14) II群(後期中葉)深鉢	86
第37図	遺構外出土縄文土器(15) II群(後期中葉)深鉢	87
第38図	遺構外出土縄文土器(16) II群(後期中葉)深鉢	88
第39図	遺構外出土縄文土器(17) II群(後期中葉)深鉢	89
第40図	遺構外出土縄文土器(18) II群(後期中葉)鉢、浅鉢	90
第41図	遺構外出土縄文土器(19) II群(後期中葉)台付鉢、壺	91
第42図	遺構外出土縄文土器(20) II群(後期中葉)壺、注口、單孔、蓋、多孔底、香炉	92
第43図	遺構外出土縄文土器(21) III群(後期後葉)深鉢	93
第44図	遺構外出土縄文土器(22) III群(後期後葉)鉢、壺、注口 IV群(晚期)深鉢	94
第45図	遺構外出土縄文土器(23) IV群(晚期)深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口 V群(小型土器)	95
第46図	遺構外出土剥片石器類(1) 石繖、石錐、石匙、笠状石器	96
第47図	遺構外出土剥片石器類(2) 楊形石器、嘴状石器、異形石器ほか、不定形石器	97

第48図	遺構外出土剥片石器類(3) 不定形石器、残核	98
第49図	遺構外出土剥片石器類(4) 残核	99
第50図	遺構外出土礫石器類(1) 磨製石斧、打製石斧、石皿	100
第51図	遺構外出土礫石器類(2) 石皿、砾石、磨・凹石類、敲石、穢器、石錐	101
第52図	遺構外出土土製品・石製品	102
第53図	遺構外出土縄文土器重量分布図	104
第54図	遺構外出土縄文土器時期別分布図	105
第55図	遺構外出土石器分布図(1) 剥片石器類、石皿、石錐、石匙	106
第56図	遺構外出土石器分布図(2) 跛状石器、楔形石器、異形石器ほか、不定形石器	107
第57図	遺構外出土石器分布図(3) 剥片、残核、礫石器類、珪化木	108
第58図	遺構外出土石器分布図(4) 磨製石斧、打製石斧、石皿、砾石	109
第59図	遺構外出土石器分布図(5) 鹿・兔石類、敲石、穢器、石錐	110
第60図	遺構外出土土製品分布図 土偶、土製耳飾、土器片円盤、その他土製品	111
第61図	遺構外出土石製品分布図 石棒、円盤状石製品、有孔石製品、その他石製品	112
第62図	植物珪酸体群集	120
第63図	花粉分析プレート内の状況・植物珪酸体	122
第64図	黒曜石产地分布図(東日本)	124
第65図	黒曜石产地推定判別図(1)	126
第66図	黒曜石产地推定判別図(2)	126
第67図	智者鶴遺跡の動物遺体	128
第68図	土坑長幅分散図	129
第69図	遺構の時期別分布	132
第70図	主要土器の出土割合	134
付図1	遺構配置全図	
付図2	遺構配置・遺物分布図(1)	
付図3	遺構配置・遺物分布図(2)	
付図4	遺構配置・遺物分布図(3)	

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	7
第2表	検出遺構一覧	16
第3表	柱穴様ピット一覧(1)	44
第4表	柱穴様ピット一覧(2)	45
第5表	柱穴様ピット一覧(3)	46
第6表	遺構上層記一覧(1) 土坑	47
第7表	遺構上層記一覧(2) 土坑・柱穴様ピット	48
第8表	遺構上層記一覧(3) 柱穴様ピット	49
第9表	遺構上層記一覧(4) 柱穴様ピット	50
第10表	遺構内出土土器・土製品一覧(1)	58
第11表	遺構内出土土器・土製品一覧(2)	59
第12表	遺構内出土石器・石製品一覧	59
第13表	石器の器種別出土点数	103
第14表	石器の分類別出土点数	103
第15表	土製品の種別出土点数	103
第16表	石製品の種別出土点数	103
第17表	遺構外出土土器・土製品一覧(1)	113
第18表	遺構外出土土器・土製品一覧(2)	114
第19表	遺構外出土土器・土製品一覧(3)	115

第20表	遺構外出土土器・土製品一覧(4)	116
第21表	遺構外出土石器・石製品一覧	117
第22表	花粉分析結果	119
第23表	植物珪酸体分析結果	119
第24表	リン・カルシウム分析結果	120
第25表	黒曜石産地(東日本)の判別群名称	124
第26表	分析対象資料および産地推定結果	125
第27表	層位別の産地推定結果	125
第28表	智者鶴遺跡の動物遺体	127
第29表	掲載土器の時期別出土層位対応表	133

図版目次

- 図版 1 遺跡遠景・調査区全景
- 図版 2 検出遺構(1) 土坑(SK11・12・13a・14a・14b・15・24・30a・39a・43・70・71・83)
- 図版 3 検出遺構(2) 土坑(SK53・54・56・57)
- 図版 4 検出遺構(3) 土坑(SK58・67・88・129・130・162) 配石遺構(SQ68)
- 図版 5 検出遺構(4) 土坑(SK156a・164・165・166・188・205・213・214)
- 図版 6 検出遺構(5) 土坑(SK237a・243・244・245・248・251・252・266・281)
- 図版 7 検出遺構(6) 土坑(SK282・283・284・298) 配石遺構(SQ52)
- 図版 8 検出遺構(7) 配石遺構(SQ52・55・246・247)
- 図版 9 遺構内出土縄文土器(1)
- 図版10 遺構内出土縄文土器(2)
- 図版11 遺構内出土縄文土器(3)・土製品・剥片石器類(1)
- 図版12 遺構内出土剥片石器類(2)・縄石器類・石製品
- 図版13 遺構外出土縄文土器(1) I群(後期前葉)深鉢
- 図版14 遺構外出土縄文土器(2) I群(後期前葉)深鉢
- 図版15 遺構外出土縄文土器(3) I群(後期前葉)深鉢
- 図版16 遺構外出土縄文土器(4) I群(後期前葉)深鉢
- 図版17 遺構外出土縄文土器(5) I群(後期前葉)深鉢、浅鉢、壺
- 図版18 遺構外出土縄文土器(6) II群(後期中葉)深鉢
- 図版19 遺構外出土縄文土器(7) II群(後期中葉)深鉢
- 図版20 遺構外出土縄文土器(8) II群(後期中葉)深鉢
- 図版21 遺構外出土縄文土器(9) II群(後期中葉)深鉢
- 図版22 遺構外出土縄文土器(10) II群(後期中葉)深鉢
- 図版23 遺構外出土縄文土器(11) II群(後期中葉)鉢、浅鉢、台付鉢、壺
- 図版24 遺構外出土縄文土器(12) II群(後期中葉)壺、注口、单孔、蓋、多孔底、香炉
- 図版25 遺構外出土縄文土器(13) III群(後期後葉)深鉢、鉢、壺、注口、香炉
- 図版26 遺構外出土縄文土器(14) IV群(晚期)深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口 V群(小型土器)
- 図版27 遺構外出土石器(1) 剥片石器類
- 図版28 遺構外出土石器(2) 剥片石器類、磨製石斧、打製石斧
- 図版29 遺構外出土石器(3) 縫石器類
- 図版30 遺構外出土土製品・石製品

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線は、県道34号線の幅員狭小の解消を目的とし、平成19年から21年にかけて実施された。由利本荘市東由利黒渕字境田を起点として、黒渕字下田面を終点とする、事業延長1,355mの工事である。

事業計画区域内に周知の遺跡である智者鶴遺跡の範囲が含まれていることから、秋田県教育委員会は秋田県由利地域振興局建設部と今後の対応について協議し、2007(平成19)年に2度にわたって試掘による分布調査を実施した。その結果、県道より南西～西側の部分では遺物包含層および遺構面が保存されていることが確認されたため、この部分(約400m²)を調査対象として、2008(平成20)年9月より秋田県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。

発掘調査と並行して市道石高線部分の遺跡の保存状態を調査したところ、道路敷設に伴う搅乱が遺構面まで達しておらず、遺物包含層も良好に保存されていることが判明した。この結果を受けて県教育委員会と由利地域振興局建設部で協議し、市道部分にあたる約64m²についても発掘調査が必要と判断した。これについては2009(平成21)年6月に、埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。

第2節 調査要項

遺跡名 称 智者鶴遺跡(遺跡略号: 6TSD)

所 在 地 秋田県由利本荘市東由利黒渕字境田39-8・10、智者鶴47-3

遺跡状況 水田・畑地・道路

調査期間 平成20年9月1日～10月22日

平成21年6月1日～6月26日

調査面積 334m²(平成20年度270m²・平成21年度64m²)

調査主体者 秋田県教育委員会

調査担当者 平成20年度 加藤 朋夏(秋田県埋蔵文化財センター調査班文化財主任)

佐々木公法(秋田県埋蔵文化財センター調査班調査・研究員)

平成21年度 加藤 竜(秋田県埋蔵文化財センター調査班文化財主任)

草彅裕太郎(秋田県埋蔵文化財センター調査班調査・研究員)

調査総務担当 平成20年度 千田 喜博(秋田県埋蔵文化財センター総務班主査)

高村知恵子(秋田県埋蔵文化財センター総務班主査)

平成21年度 久米 保(秋田県埋蔵文化財センター総務班主査)

高村知恵子(秋田県埋蔵文化財センター総務班主査)

*担当者名・職名は発掘調査時のものである。

調査協力機関 秋田県由利地域振興局建設部 由利本荘市教育委員会

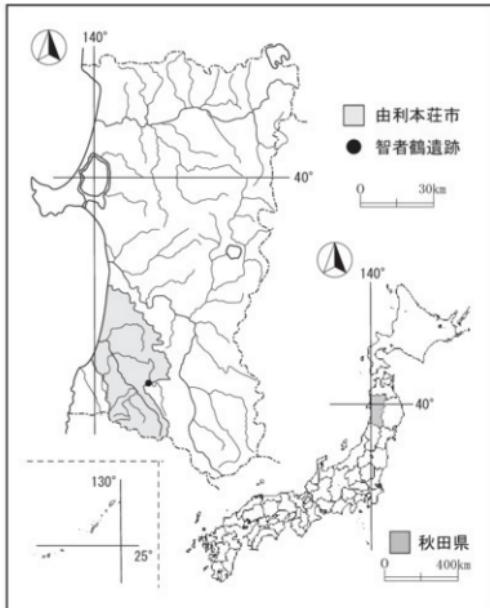
第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

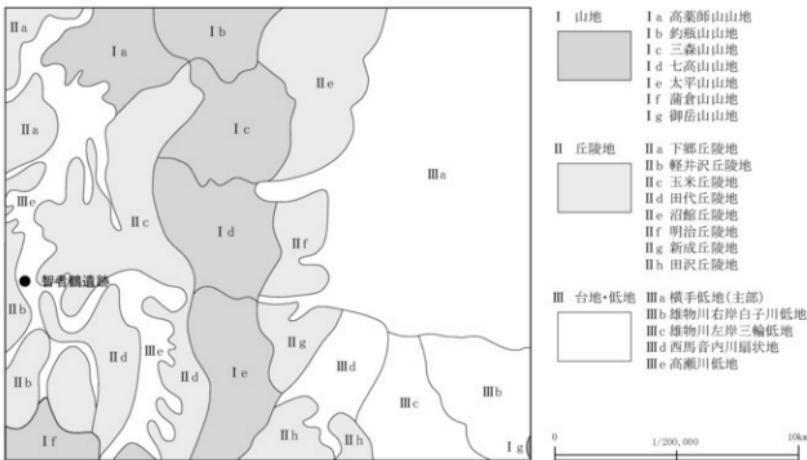
智者鶴遺跡は秋田県由利本荘市東由利黒瀬に所在し、北緯39度14分09秒、東経140度15分21秒に位置する(第1図)。由利本荘市は秋田県の南西部にあり、日本海に面している。平成17年3月に本荘市と由利郡7町(矢島町・岩城町・由利町・西目町・鳥海町・東由利町・大内町)が広域合併し、現在の市域となった。秋田県内では秋田市・大仙市・湯沢市・横手市・雄勝郡羽後町と、また山形県の酒田市・飽海郡遊佐町・最上郡真室川町と接する。平成21年10月現在、人口85,898人、総面積は1,209.08km²である。遺跡は由利本荘市の東部、旧東由利町管内にある。

遺跡のある地域は大きく見て出羽丘陵地東部にあたり、東側に中起伏山地が、西側に八塩山地が南北に連なり、両者の間には丘陵地と高瀬川低地などの河谷低地が分布する(第2図)。高瀬川低地を形成する石沢川(高瀬川)は蛇行しながら北流し、老方付近で強く屈曲して西に流路を変え、最終的に子吉川へ合流する。遺跡は石沢川左岸の河岸段丘上に立地し、標高は183~184m、石沢川河床との比高は3~4mである。調査区は石沢川に向かって北西方向へ下る緩斜面地となっている。調査前の現況は水田・畑地および道路であった。

遺跡周辺に分布する表層地質は、石英安山岩質緑色凝灰岩を主体とする畠村層で構成されており、本層は珪化木を多く含んでいる。詳細は後述するが、遺跡内に多量の珪化木が持ち込まれている現象は、このような周辺の地質環境を反映している可能性が高い。



第1図 遺跡位置図



第2図 地形区分図

第2節 歴史的環境

智者鶴遺跡周辺では縄文時代から中世までの遺跡が確認されており、これらの大部分は石沢川流域の低地や丘陵地に立地している。遺跡の所在する黒渕地区には、狭隘な河谷低地でありながら多数の遺跡が確認されており、由利方面と雄勝方面を中継する重要な交通路として古くから利用されてきた。以下に発掘調査が実施された遺跡を中心として歴史的環境を概観する。なお、文中・挿図中・表中にある(43-1)などの表記は、『秋田県遺跡地図(由利地区版、湯沢・雄勝地区版)』に掲載された遺跡の地図番号と一致する(第3図、第1表)。図幅には主として石沢川中流域に分布する遺跡が含まれている。

図幅に含まれる縄文時代の遺跡は、前期から晩期にかけて計49遺跡が確認されており、これらのほとんどは石沢川両岸の河岸段丘もしくは沖積地上に立地し、山麓の緩斜面上に立地するものもわずかに認められる。

前期の遺跡としては笛山遺跡(43-7)・片符沢II遺跡(43-9)・台山遺跡(43-16)がある。片符沢II遺跡は八塩ダムから発する小川が石沢川に合流する手前的小規模な河岸段丘上に立地し、1979年に発掘調査が行われた。遺構は検出されなかったものの、前期を主体とする土器と石器が出土している。

中期の遺跡としては下松台遺跡(43-5)・野中遺跡(43-6)・向山遺跡(43-11)・台山遺跡・岩坂遺跡(43-21)・高菜師遺跡(43-23)・高橋山II遺跡(67-78)がある。これらの遺跡について発掘調査は実施されていないが、八塩山東縁の水源地を供給源とする小川と石沢川が合流する河岸段丘上に立地する下松台遺跡では、農道工事の際に多量の土器が採取されており、中期初頭大木7a・b式を中心に円筒上層式に比定される土器も確認されている。高菜師遺跡は標高438.8mの高菜師山頂付近に立地していることから、通常の集落遺跡とは考えがたく、祭祀遺跡の可能性が指摘されている。

後期の遺跡としては今回調査した智者鶴遺跡(43-4)のほか、湯出野遺跡(43-①)・下松台遺跡・ボツメキ遺跡(43-3)・片符沢Ⅰ遺跡(43-8)・善徳遺跡(43-15)・橋脇遺跡(43-19)・宮ノ前Ⅰ遺跡(43-24)・三升刈遺跡(43-38)・ヨシヤチ遺跡(43-43)・長戸呂遺跡(67-70)があり、遺跡数は前・中期と比べて飛躍的に増加する。片符沢Ⅰ遺跡は石沢川左岸の低位段丘上に立地しており、1979年に発掘調査が実施された。土坑51基・土器埋設遺構1基が検出され、後期前・中葉の土器を主体に切目石錐などの石器や土偶などの土製品も出土している。土坑は円形もしくは椭円形を呈し、礫を多量に含むといった堆積状況や土製耳飾り・完形土器などの遺物出土状況から、その多くは土坑墓であると推測されている。ボツメキ遺跡は八塩山麓の傾斜変換点にあり、1975年に発掘調査が実施され、後期の土器および石器が少量出土した。なお、遺跡のすぐ近くには周辺地域で使用される上水道の供給源となるほど湧出量豊富な湧水点があり、これに関連する祭祀的な性格をもった遺跡である可能性も指摘されている。図幅には含まれていないが、船木地区にある男清水遺跡・女清水遺跡も、ボツメキ遺跡と同じく山麓の傾斜変換点にある湧水地点に隣接した遺跡で、狭い平坦面から土器・石器が採取されている。男清水遺跡の下方にある小田代遺跡では、耕地整理中に大形石棒が採取されている。

晩期の遺跡としては智者鶴遺跡のほか、湯出野遺跡・宮ノ前Ⅰ遺跡・三升刈遺跡・落合B遺跡(67-62)がある。湯出野遺跡は石沢川とその支流松沢川の合流点付近にあり、松沢川右岸の沖積地上に屈曲部に抱かれた形で立地している。1977年に圃場整備事業に伴い発掘調査が実施され、土坑墓103基・土器埋設遺構8基が検出され、多量の土器・石器が出土した。土坑墓は円形・小判形・隅丸長方形の平面形を呈し、ベンガラの散布が確認された例や、玉類・耳飾り・石鐵などの副葬品が出土した例も確認されている。8基検出された土器埋設遺構のうち5基の土器底部には小さな穿孔が認められ、乳幼児の棺と考えられている。遺物は遺跡中央部にある小規模な沢から多量に出土しており、土器は後期終末から晩期前葉が主体をなし、通常の剥片石器の他に土偶や岩偶・石棒や独鉛石なども數多く確認されている。遺跡はその重要性から土坑墓群が現地保存され、工事も遺物包含層に影響が出ない工法に切り替えられた。1978年に県史跡に指定されている。

弥生時代・古墳時代の遺跡は当地域で確認されていない。秋田県域の大部分について当て嵌まる現象と言えるが、山間部における当該期の遺跡確認例はわずかであり、平野部に生活拠点が移ったことを示すものと考えられる。

平安時代の遺跡としては、岩井堂遺跡(43-14)・宮ノ前Ⅰ遺跡がある。岩井堂遺跡は松沢川上流部の善徳地区にあり、杉苗の植林中に緩い斜面地から焼土と土師器の瓶片のみ出土している。土師器焼成窯の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

中世の遺跡としては石沢川に沿う段丘上や丘陵地上に、水上館(43-10)・玉米館(43-13)・岩館Ⅰ遺跡(43-27)・根城館(43-34)・高館(43-36)・薬沢館(43-44)・薬師館(43-45)・杉沢館(67-69)・九十九沢館(67-81)・明神前館(67-101)・白鳥丹後十郎屋敷(67-103)などの館跡が確認されている。これらの館跡について発掘調査は実施されておらず、築城時期や構造などの諸様相は不明であるが、当地域は由利十二頭が列挙した由利地城と小野寺氏の領地下であった雄勝地域のちょうど境界部分に当たり、各勢力圏が拮抗する場であったと推測される。山間部ではあるが、多くの城館が構築される要素は十分であったと考えられる。

参考文献

- 秋田県農政部農地整備課『出羽丘陵開発実施計画地域 土地分類基本調査 浅舞』 1978(昭和53)年
秋田県農政部農地整備課『出羽丘陵開発実施計画地域 土地分類基本調査 矢島』 1982(昭和57)年
秋田県教育委員会『湯出野遺跡発掘調査概報』秋田県文化財調査報告書第53集 1978(昭和53)年
秋田県教育委員会『片若沢1遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第72集 1980(昭和55)年
秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第86集 1981(昭和56)年
秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(由利地区版)』 2001(平成13)年
秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(湯沢・雄勝地区版)』 2005(平成17)年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第439集 2008(平成20)年
東山利町『東山利町史』 1988(平成元)年
東山利町教育委員会『ボツメキ遺跡緊急発掘調査報告書』 1977(昭和52)年



第3図 周辺遺跡位置図

第1表 周辺遺跡一覧

地図番号	遺跡名	所在地	種別	遺構・遺物
(旧東由利町管内)				
43-①	湯出野	由利本荘市東由利老方字湯出野	遺物包含地	土坑・上部埋設遺構、繩文土器(後期・晚期)・石鏃・石錐・石匙・石器・石棒・磨製石斧・磨石・圓石・異形石器・石棒・鉄鋸石・石冠・岩器・土偶
43-1	周治谷地Ⅰ	由利本荘市東由利黒字周治谷地	遺物包含地	
43-2	周治谷地Ⅱ	由利本荘市東由利黒字周治谷地	遺物包含地	
43-3	ボツメキ	由利本荘市東由利黒瀬字ボツメキ	遺物包含地	プラスコ状ビット・繩文土器(後期)
43-4	智者鶴	由利本荘市東由利黒瀬字城田	遺物包含地	繩文土器片(晚期)・石鏃・石器片など
43-5	下松台	由利本荘市東由利黒瀬字下松台	遺物包含地	繩文土器片(中期・後期)
43-6	野中	由利本荘市東由利黒瀬字野中	遺物包含地	繩文土器片(中期)
43-7	兼山	由利本荘市東由利代字兼山	遺物包含地	繩文土器片(前期)・石器片
43-8	片符沢Ⅰ	由利本荘市東由利代字石高	遺物包含地	土坑墓・埋甕・繩文土器片(後期)・土偶・石鏃・石錐・石匙・石棒・石刀・石器片など
43-9	片符沢Ⅱ	由利本荘市東由利代字片符沢	遺物包含地	繩文土器片(前期)・石鏃・石匙・石器・石斧など
43-10	水上船	由利本荘市東由利船字水上船	船跡	空堀
43-11	向山	由利本荘市東由利船字向山	遺物包含地	繩文土器片(中期)
43-12	五海保	由利本荘市東由利船字芋越	遺物包含地	
43-13	玉米船	由利本荘市東由利船字玉米船	船跡	
43-14	岩井堂	由利本荘市東由利船合字岩井戸山	遺物包含地	土師器(瓶)施成窓・土師器(瓶)
43-15	瀬湯	由利本荘市東由利船合字瀬湯	遺物包含地	繩文土器片(後期)
43-16	台山	由利本荘市東由利老方字台山	遺物包含地	埴輪・繩文土器片・石斧・石鏃・石匙など・土師器・須恵器片
43-17	横山	由利本荘市東由利船字横山	遺物包含地	石器片
43-18	義田船	由利本荘市東由利老方字義田船	船跡	空堀
43-19	櫛橋	由利本荘市東由利老方字櫛橋	遺物包含地	繩文土器片(後期)
43-20	鳥井坂	由利本荘市東由利老方字鳥井坂	遺物包含地	石器片
43-21	岩坂	由利本荘市東由利老方字西ノ坂	遺物包含地	繩文土器片(中期)・石器片
43-22	西ノ浜台地	由利本荘市東由利老方字西ノ浜	遺物包含地	石器片
43-23	高乗業	由利本荘市東由利老方字高乗業	遺物包含地	繩文土器片(中期)・石器片
43-24	宮ノ前Ⅰ	由利本荘市東由利法宇宮ノ前	遺物包含地	繩文土器片(後期・晚期)・石棒・石器片
43-25	宮ノ前Ⅱ	由利本荘市東由利法宇宮ノ前	遺物包含地	石器片
43-26	田子ノ沢	由利本荘市東由利藏子ノ沢	遺物包含地	石器片
43-27	岩館	由利本荘市東由利藏子岩館	船跡	土壙・水濠跡・繩文土器片・石器片
43-28	岩館Ⅱ	由利本荘市東由利藏子岩館	遺物包含地	石器片
43-29	野田	由利本荘市東由利法宇野田	遺物包含地	石器片
43-30	十二ヶ台	由利本荘市東由利法宇十二ヶ台	遺物包含地	石器片
43-31	針ヶ台	由利本荘市東由利法宇下苗代沢	遺物包含地	石器片
43-32	坊主ヶ沢	由利本荘市東由利藏子主ヶ沢	遺物包含地	石器片
43-33	根城	由利本荘市東由利藏子根城	遺物包含地	石器片
43-34	根城館	由利本荘市東由利藏子館の内	船跡	空塗・腰郭
43-35	幡野	由利本荘市東由利前原幡野	遺物包含地	石器片
43-36	高齋	由利本荘市東由利藏子高齋	船跡	空塗
43-37	上ノ台	由利本荘市東由利宿上ノ台	遺物包含地	石鏡
43-38	三升刈	由利本荘市東由利宿下サリマキ	遺物包含地	繩文土器片(後期・晚期)・石器・女陰形石製品
43-39	ヨシヤチ	由利本荘市東由利田中字ヨシヤチ	遺物包含地	繩文土器片(後期)
43-40	農戸船	由利本荘市東由利藏子ノ沢	船跡	
43-45	渠跡	由利本荘市東由利藏子新田	船跡	
(羽後町管内)				
67-62	落合B	雄勝郡羽後町輕井沢字七刈沢	遺物包含地	繩文土器片(晚期)・石器・土偶
67-63	落合A	雄勝郡羽後町輕井沢字十刈沢	遺物包含地	繩文土器片・石器
67-64	釜石田	雄勝郡羽後町輕井沢字釜石田	遺物包含地	石器
67-65	羽瀬	雄勝郡羽後町輕井沢字羽瀬	遺物包含地	繩文土器片・石器
67-66	輕井沢山開拓	雄勝郡羽後町輕井沢字下呂瀬	遺物包含地	繩文土器片・石斧
67-67	向岩瀬	雄勝郡羽後町輕井沢字小屋根向岩瀬	遺物包含地	繩文土器片・弥生土器片・石器
67-68	龍神瀬	雄勝郡羽後町輕井沢字中杉渕川	遺物包含地	繩文土器片
67-69	杉沢船	雄勝郡羽後町輕井沢下杉沢山	船跡	羽・空塗・腰郭・土塁
67-70	長戸呂	雄勝郡羽後町輕井沢字長戸呂	遺物包含地	配石遺構・繩文土器片(後期)・石籠・石斧・石棒・石冠・土偶・石鍬・土師器片・須恵器片
67-71	判官泥山	雄勝郡羽後町上到來字判官泥山	遺物包含地	繩文土器片・石斧
67-72	唐松山	雄勝郡羽後町上到來字古米吉沢山	遺物包含地	繩文土器片
67-73	瀬内沢	雄勝郡羽後町上到來字瀬内沢	遺物包含地	繩文土器片・石器
67-74	唐松山Ⅰ	雄勝郡羽後町上到來字唐松山	遺物包含地	繩文土器片
67-75	唐松山Ⅱ	雄勝郡羽後町上到來字唐松山	遺物包含地	繩文土器片
67-76	樅荷山	雄勝郡羽後町上到來字樅荷山	遺物包含地	繩文土器片
67-77	高橋	雄勝郡羽後町上到來字高橋	遺物包含地	繩文土器片
67-78	高橋山Ⅱ	雄勝郡羽後町上到來字高橋山	遺物包含地	繩文土器片(中期)・燒土遺構・土坑・溝跡
67-79	田麦山	雄勝郡羽後町上到來字田麦沢山	遺物包含地	繩文土器片・石鏡
67-80	田麦沢	雄勝郡羽後町上到來字田麦沢	遺物包含地	繩文土器片・石鏡
67-81	九十九沢鉢	雄勝郡羽後町上到來字九十九沢山	船跡	羽・空塗・土塁
67-101	明神前船	雄勝郡羽後町輕井沢字明神前	船跡	郭・堀切
67-103	白鳥丹後十郎屋敷	雄勝郡羽後町輕井沢字白鳥	船跡	
67-122	戸戸瀬	雄勝郡羽後町輕井沢戸戸瀬	遺物包含地	繩文土器片

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

智者鶴遺跡は、由利本荘市東由利黒瀬に所在し、子吉川水系石沢川の左岸段丘上に立地する。石沢川とは調査区北端から約20mと非常に近い位置関係にあり、調査区の標高は183～184m、石沢川河床との比高は3～4mである。遺跡の現況は水田・畑地とこれらに挟まれた道路となっており、近年の造成によって一見平坦に見えるが、本来の地形は石沢川に向かって南から北へ下る緩斜面地であり、さらに南西側に小さな沢が複数入り込んだ複雑な地形面を形成していたと考えられる。

調査対象区域は県道羽後向田館合線に沿う幅約6m、長さ約60mの道路拡幅部分で、調査区の形状は道路に沿ってカーブを描いている。発掘調査は2か年にわたり、平成20年には市道石高線を挟んだ水田と畑地を対象に、平成21年には市道直下の部分を対象に行った。なお調査の便宜上、平成20年度調査区の北側をA区、南側は段差部分を境に北西側をB区、南東側をC区、平成21年度調査区についてはD区と呼称することにした(第4図)。

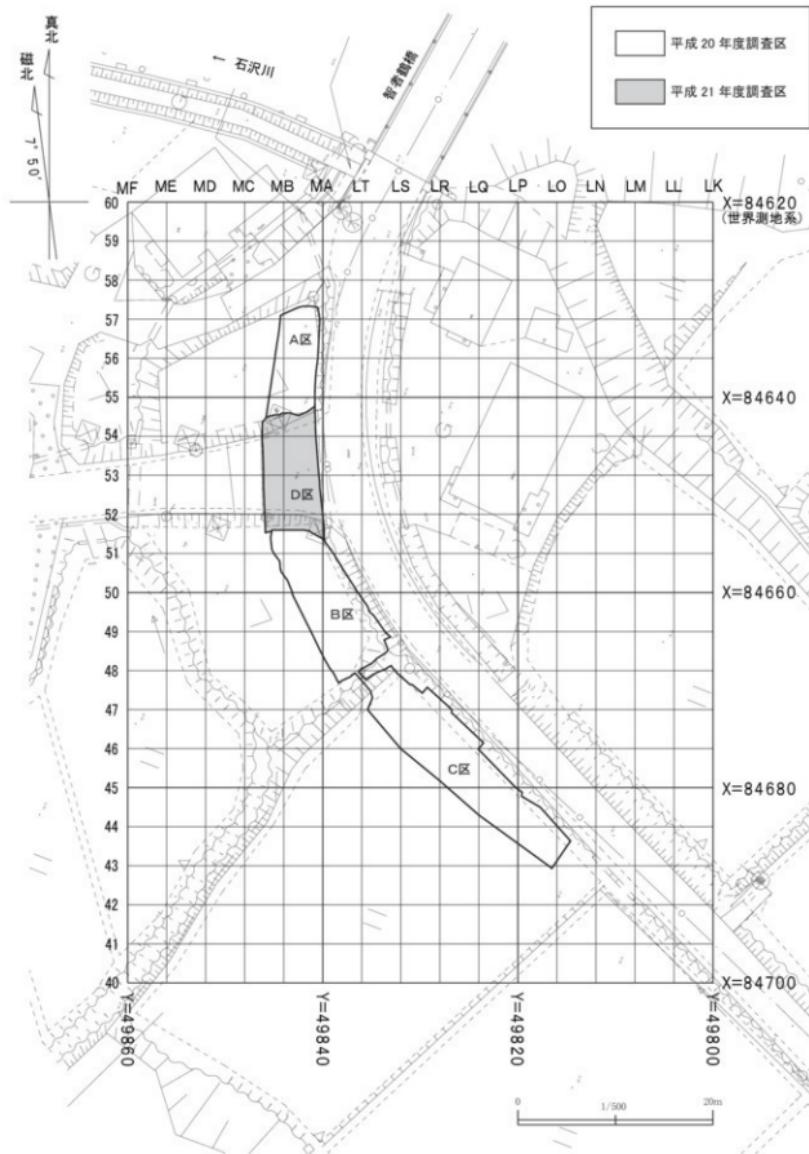
今回の調査では、縄文時代後・晩期の集落跡と墓地を検出した。遺構は掘立柱建物跡・土坑・配石遺構・柱穴様ピットで構成され、削平の著しい南東端を除き、ほぼ全城に分布している。各種遺構について正確な帰属時期を捉えることは困難であるが、傾向として掘立柱建物跡は晩期に、土坑は後期前・中葉を中心に一部後期後葉から晩期に、配石遺構は後期中葉に属するものと考えられる。遺物包含層中には後期前葉から晩期中葉までの遺物が多量に出土しており、その主体となるのは後期前・中葉で、後期後葉・晩期の遺物は少ない。遺物はわずかに窪む沢状地形の中から特に多く出土しており、このような窪んだ箇所に遺物を廃棄することによって、徐々に厚い包含層が形成されたものと推測される。なお遺物包含層は調査区中央部において良好に遺存していたが、調査区南東側半分(C区)および北端部では耕地の造成により地山まで削平され、残っていないかった。

遺跡の正確な範囲は不明であるが、尾根状に高くなっている現県道の直下には遺構がまだ残っている可能性が高く、南西側では、現在水路として使用されている調査区と平行した小さな沢に至るまで、水田や畑地の下に遺物包含層が確実に遺存している。

第2節 調査の方法

1 グリッドの設定方法

調査区には、世界測地系国家座標第X系に整合する任意の点(X=-84660,000 Y=-49840,000)を原点として、X軸・Y軸の方向に4m間隔の方眼を設定した(第4図)。原点を通る南北X軸方向の線をMA、同じく東西Y軸方向の線を50とし、X軸方向の線には西に向かって昇順する2文字のアルファベットを、Y軸方向の線には北に向かって昇順する2桁の数字をそれぞれ付した。X軸方向に付したアルファベットは、繰り返しとなるA～Tまでの20文字を組み合わせて用いた。方眼による4m四方の区画は、南東隅を通過する線の記号を組み合わせ、例えばMA50と呼ぶことにした。



第4図 グリッド配置図

2 遺構の検出と精査

調査区A区北端およびC区全体は耕地造成による削平を受けており、当時の遺構構築面は遺存していないなかつたが、その他の区域では良好に遺物包含層と遺構構築面が遺存していた。そこでC区では、表土（I層）を除去して現れた地山（IV層）で遺構の検出を行った。その他の区域ではI層を除去した段階での遺構検出を試みたが、遺構内堆積土と遺物包含層の土質が近似しており、その識別が困難であつたため、地山面（III層上面）まで掘り下げた段階で遺構の検出を行った。また、遺物包含層の掘り下げ中に検出した礫については、基本的にはその場に残し、土坑の上部に置かれたものか否かを確認するよう努めた。

調査区内には、東西方向に土層観察用のトレンチを設定し、層序を確認しながら掘り下げを行った。また調査区南西側の壁面については、基本上層の記録として図面作成ならびに写真撮影を行った。

遺構名称については、その種別を示す略記号と01からの番号を付し、例えばSK01のように呼称することとした。番号は遺構の種別にかかわらず確認した順に連番で付した。なお確認時に1基の遺構としたが、精査を進める段階で複数遺構の切り合いであることが判明した場合、たとえばSK01a・SKP-01bのようにアルファベット小文字を付して別遺構として取り扱うこととした。精査の結果、遺構と判断されなかつた場合は欠番とした。

遺構の精査は、半蔵もしくは十字に土層観察ベルトを残して掘り下げ、堆積土を観察し、土層断面の写真撮影と実測を行つた。土層は土色・土性・粘性・縮まり・混入物の相違などによって分層し、各層の注記を行つた。

3 遺物の取り上げ方法

調査では、特に遺物包含層（II層）を中心として多量の遺物が出土した。しかし、調査期間が限られていたことから、これらは基本的にはグリッド毎に層位別で取り上げた。なお、遺物包含層が残存している範囲についてはグリッドをさらに2m四方で4分割し、北西にa、北東にb、南西にc、南東にdのアルファベット小文字を付して取り上げた。遺物包含層の掘り下げは厚さ約5cmずつ段階的に進め、土器の完形個体や土製品・石製品・大形礫などを確認した場合は可能な限り出土状況の記録（平面図作成およびレベルの計測）を行つた。位置を記録した遺物については、土器にRP、石器にRQの略記号と通し番号を付して取り上げた。

4 記録

遺構の平・断面図は基本的に1/20で作成した。遺物の出土状況についても1/20で平面図を作成し、レベルを用いて標高を記録した。図面の記録にはA2判のマイラーベースを使用した。

写真撮影は35mm判フィルムカメラを使用し、モノクロフィルムとカラーリバーサルフィルムで撮影した。また、デジタルカメラによる調査状況の記録なども実施した。平成20年度にはパルーンによる空中写真撮影を業務委託し、遺跡全景などをデジタルカメラおよびプロニー版フィルムカメラで撮影した。

第3節 調査の経過

平成20年度の発掘調査経過

発掘調査は、8月21・27日に重機による表土除去、8月28～30日に方眼杭打設などの諸準備を経て、9月1日より開始した。

9月1日(月) 調査を開始。機材搬入・調査区とコンテナハウスヤードの環境整備の後、調査区南側(C区)よりわずかに残存したI層の除去と遺構の検出を開始した。

9月3日(水) 調査区南部(C区)のI層除去が終了した。この日よりB区の調査にも着手。調査区西側壁際にトレンチを入れた。

9月4日(木) C区全体を清掃し、遺構検出を進めた。この時点で土坑と柱穴様ピットを40基あまり確認した。

9月5日(金) C区の遺構精査に着手。土坑を中心として半截作業を進めた。B区ではI層と試掘坑の埋土を掘り上げ、遺物包含層(II層)の掘り下げを開始した。試掘坑の壁にて、土坑や柱穴様ピットを確認。これらの遺構が包含層中より構築されている状況が確認された。

9月11日(木) この日までB区の遺物包含層を5cmほど掘り下げ、複数の配石遺構の存在が明らかとなった。大型の礫が存在する部位を中心に遺構名称を与えた。

9月12日(金) B区の地形が東から西に向かって、さらには中央より北側に向かって傾斜している状況が明らかとなった。東側では既に遺構検出面に到達しているため、遺構確認作業を開始した。

9月19日(金) 遺物包含層をさらに掘り下げた。これによりSQ52を構成する礫と、この配石に閉まれた単孔土器が出土。配石が後期中葉のものであるとの見通しがたった。また、当初は調査対象外としていた用排水路部分に配石や土坑の一部が展開していることが判明したため、調査範囲を拡張する必要性が出てきた。C区では土坑の半截が終了したため、柱穴様ピットの精査に着手した。

9月26日(金) A区の調査に着手。I層の除去を進めた。

9月29日(月) C区の用排水路部分の調査に着手。

10月1日(水) 文化財保護室の五十嵐学芸主事、由利地域振興局建設部の山田氏が来跡。調査状況の確認と、市道石高線下部の遺跡の遺存状態を探る方法について検討を行った。

10月2日(木) A区ではI層の除去が完了した。遺物包含層の厚さを確認するため、調査区西壁際にトレンチを設定し、掘削を進めた。B区では包含層をさらに掘り下げ、配石遺構の全体像や下部土坑のプラン確認を進めた。いずれの配石も同一の生活面に構築されたものであることが明らかとなってきた。

10月3日(金) C区からB区にかけて南北にトレンチを掘削し、地形の確認をした。

10月8日(水) パルーンを使用した空中写真撮影を実施した。B区では配石遺構の半截作業に着手。

10月9日(木) A区の遺物包含層の掘り下げが進み、深鉢3個体が正立している状況が確認された。

10月10日(金) B区とC区の間に存在した用排水路の一部を掘削し、SQ52の全体を検出した。

10月14日(火) SQ52のエレベーション図を作成し、礫の取り外しを開始した。

10月16日(木) 八塩小学校5・6年生(33名)、高瀬小学校5・6年生(37名)が発掘調査の見学に訪れる。

第3章 発掘調査の概要

- 10月17日(金) B区北端部より南北方向にトレンチを入れ、市道石高線下の状況を確認したところ、市道の下部にも遺物包含層および遺構面が良好に保存されていることが明らかとなった。また、調査区全域で遺物包含層の掘り下げを完了し、遺構検出と精査に全作業が移行した。
- 10月18日(土) 遺跡見学会を実施。地域の方々を中心に74名の参加があった。
- 10月20日(月) C区の調査が終了した。
- 10月21日(火) B区西壁にて基本土層図を作成した。
- 10月22日(水) 今年度調査区内の全ての遺構の精査を終了。グリッド杭の撤去を行い、調査を終了した。

平成21年度の発掘調査経過

- 平成21年度の発掘調査は、5月26日に表土除去、5月27～28日に方眼杭打設などの諸準備を経て、6月1日から開始した。
- 6月1日(月) 調査用資材の搬入と周辺の環境整備を行った後、土層確認のために調査区西壁沿いにトレンチを設定し、掘削を開始した。
- 6月4日(火) トレンチの掘削をほぼ終了する。表土下の遺物包含層(II層)については、前年度の調査成果と調和的に3層に細分できる見通しを得た。ただし包含層の厚さは一様ではなく、南側の方が深く、北に向かって浅くなっている、遺物出土量も比例している。
- 6月5日(金) 全面的に表土除去を開始する。調査区中央東端部において、現代の大きな搅乱が認められた。
- 6月8日(月) 表土除去終了。トレンチ内の包含層から出土した遺物の実測を開始する。
- 6月10日(水) 遺物包含層の掘削に着手する。引き続き包含層から出土した遺物の実測を進める。
- 6月16日(火) 調査区北端については包含層下部まで掘削と遺物検出を終了した。
- 6月18日(木) MB53区にて、包含層上で構築された遺構を確認(SK243・244・245・248、SQ246・247)。精査に取りかかる。
- 6月23日(火) 包含層上で確認した遺構の精査を完了し、包含層上部から出土した遺物の取り上げもほぼ終了した。調査区全体について、包含層下部の掘り下げを進める。
- 6月25日(木) 包含層の掘削ならびに遺物取り上げを終了し、地山面(III層上面)で確認された遺構の精査、記録作成を行う。
- 6月26日(金) 検出遺構全てについて、精査と記録を終了。調査区西壁の写真撮影と断面図作成を行い、調査を終了した。

第4節 整理作業の方法と経過

1 室内整理の経過

智者鶴遺跡の出土遺物は、未洗浄の状態で容量18ℓのコンテナに換算し、土器類約125箱(20年度75箱・21年度50箱)、石器類約152箱(20年度77箱・21年度75箱)に及んだ。

平成20年度の整理は調査終了後の11月から、埋蔵文化財センター調査班において開始した。調査記録のうち、配石遺構・土坑・遺物出土状況については加藤朋夏が、柱穴様ピット・掘立柱建物跡・その他については佐々木が第2原図を作成した。出土遺物については洗浄・注記・土器の接合・復元を行い、石器の大まかな分類作業と剥片石器76点の実測委託を実施した。また当年度には遺構堆積土と包含層堆積土を対象として、花粉分析、植物珪酸体分析、リン・カルシウム分析委託も行った。

平成21年度調査分の整理は、調査終了後の7月から開始した。調査記録のうち検出遺構については加藤竜が、遺物出土状況図については草彌が第2原図の作成に当たり、前年度検出分と合わせて草彌がIllustratorを使用してトレースした。出土遺物に対しては前年度と同様の作業を行い、分類・計量作業を経た後、実測・拓本・トレース・写真撮影を行い、報告書の版下を作成した。また当年度には黒曜石の産地推定分析、動物遺体の同定分析、土器20点の実測・トレースを委託により実施した。

2 遺物の注記

遺物の注記は遺跡名(6 TSD)・出土位置(グリッド名もしくは遺構名)・遺物番号・出土層位・出土年月日(081021のような6桁の数字)を記入した。基本的には機械を用いて注記したが、土製品・石製品を中心とした一部の資料にはポスターカラーを使用して注記を行った。注記の際、遺構外出土の資料には白色、遺構内出土資料については黄色のポスターカラーを使用した。なお、機械で注記した資料にも、遺構内出土資料には文字の下に黄色のポスターカラーでマークし、遺構内出土の資料を容易に識別できるようにした。

3 遺物の分類と掲載遺物の選定

基本的には種別毎に形態などにより分類を行った後、掲載資料を選定した。遺構内遺物については時期推定の可能な土器や石器製品を最小限選択した。遺構外出土遺物については、なるべく遺跡全体の様相を反映出来るように、同一分類項目の資料が重複しないように選定した。

4 調査記録の整理と保存

発掘調査時に現地でマイラーベースに記録した遺構平・断面などの第1原図、および報告書掲載用に原図を基として調整した第2原図類は、A2判二つ折り図面ケースに収納した。写真類は概ね撮影順にアルバム類に整理した。35mmモノクロフィルムは4冊のネガアルバムに、35mmリバーサルフィルムはスライドアルバム4冊に収納した。現場で補助的に撮影したデジタルカメラによる写真記録、遺跡の空中写真撮影(デジタル撮影)の成果品、室内で撮影した遺物写真については、CD-R・DVD-Rなどに保存した。その他、調査に関する記録(野帳・遺構調査カードなど)は全て、秋田県埋蔵文化財センターで保管する。

第4章 調査の記録

第1節 基本層序

本調査では試掘調査結果を基として重機により表土層を除去した後、遺物包含層が遺存していないC区を除き、グリッドに沿って東西方向の土層観察用ベルトを残し、部分的に調査区南西・西側壁面に沿ってトレーニングを設定して、土層を観察しながら層序の把握に努めた。最終的な遺構確認面まで掘り下げた結果、調査区の層厚は全体的に北東側県道寄りの方が浅く、南西側に向かって深く落ち込んでいた。そのため、主として調査区南西・西側壁面の土層を重点的に観察・記録し、遺跡全体の層序について相互に比較しながら検討を行った。

観察地点により若干土質に差があるものの、遺跡の層序は以下の様に捉えることができた。記録した土層断面のうち、5か所の断面図(A～E)を第5図に、断面図作成位置を第6図に示した。

I層

近現代の表土である。本層からは縄文時代の遺物と近現代の遺物が混在して出土した。表土は畑耕作土・水田耕作土・道路造成に関わる盛土など、その形成要因は地点によって異なっている。これらの中序については特に調査成果に影響を及ぼさないため、断面図中では観察地点毎に上から順にアルファベットの小文字を付し、その内容を()内に示した。

II層

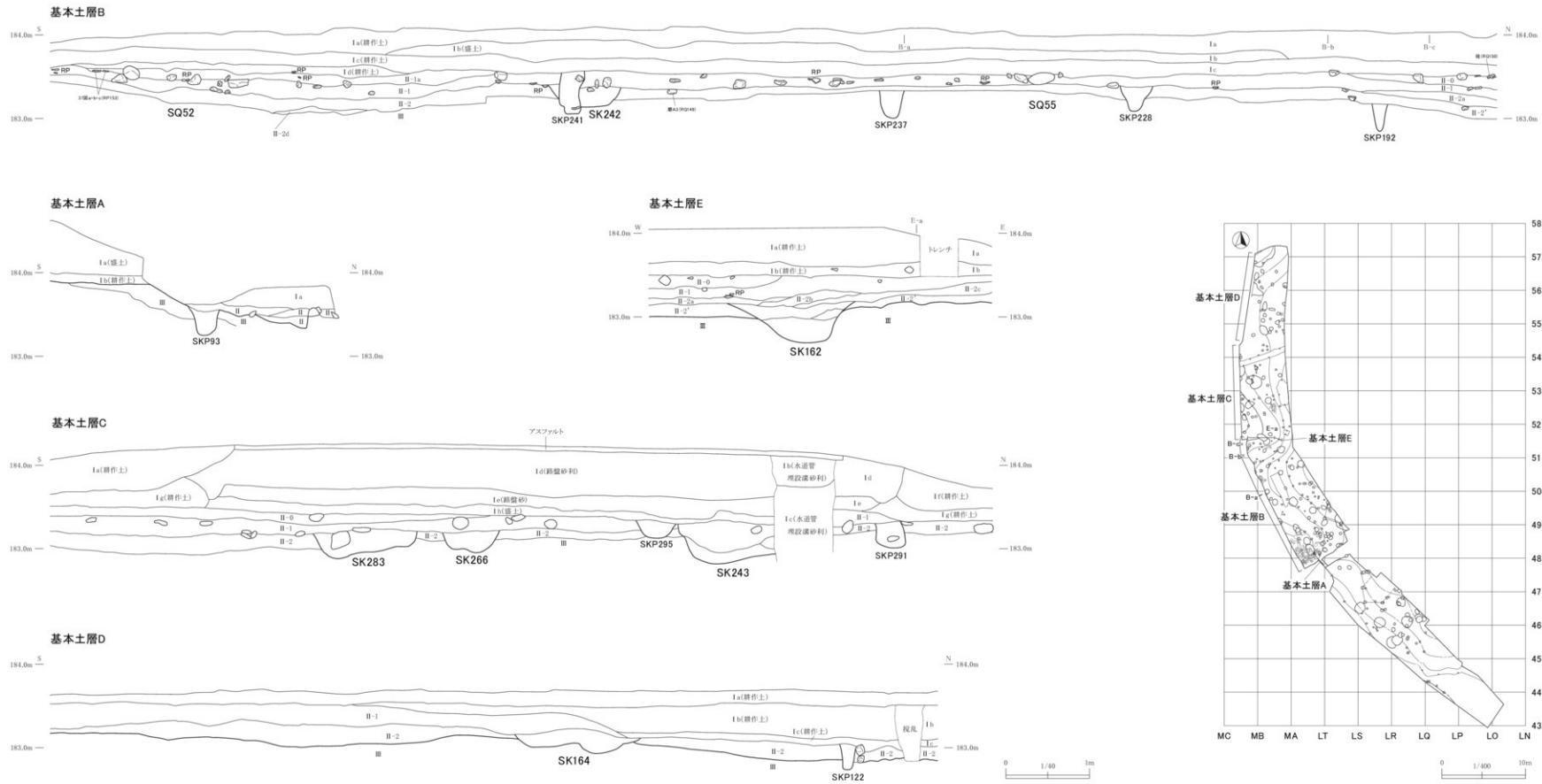
黒～黒褐色を呈する遺物包含層である。削平を受けているC区およびA区の一部を除き、調査区全体でその堆積が確認された。本層からは縄文時代後期前葉～晩期中葉に属する遺物が多量に出土しており、一部の土坑・配石遺構・柱穴柱ビットは本層上面・中位で確認することができた。上部が削平を受けているため本来の層厚は不明であるが、浅いところで30cm程度、深いところで60cmを測る。本層は土質から以下に細分が可能であった。

II-0層

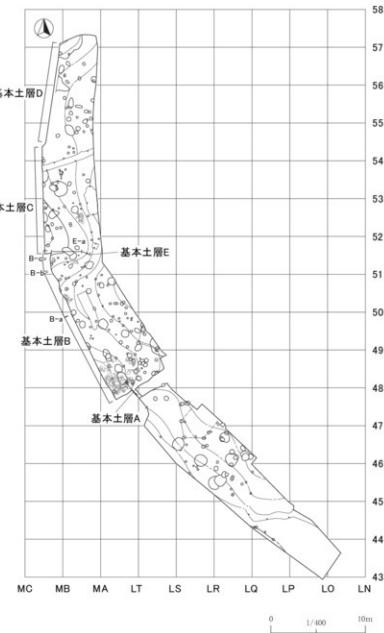
MB51・52区付近の落ち込み上部で確認した。層厚は10～15cmと薄いが、特に黒味が強く、下位のII-1層と明確に区別することができた。本層からは縄文時代後期前・中葉のほか、後期後葉・晩期の遺物も出土している。

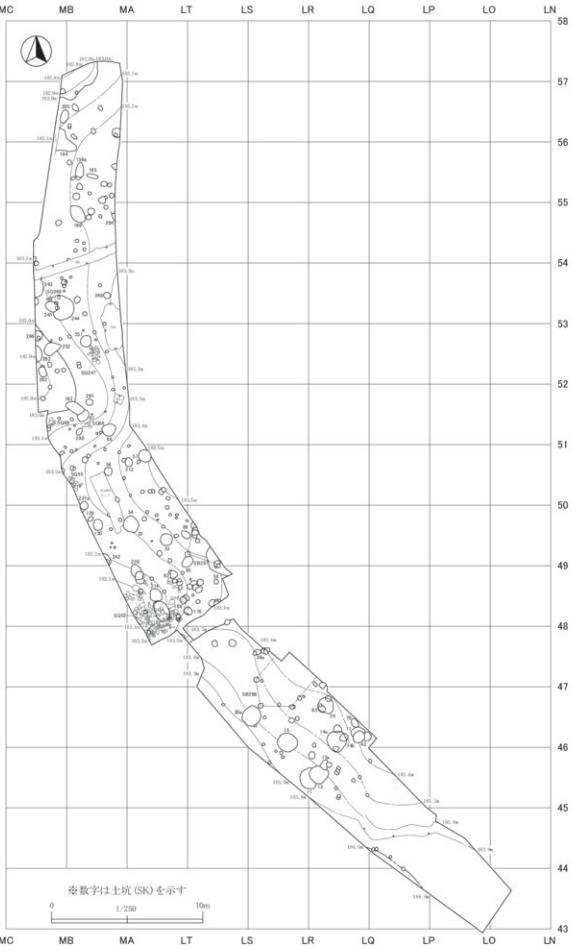
II-1層

調査区全域にわたって確認した。炭化物を多く含み、粘性は弱く、層厚は15～30cmとII層の中では比較的分厚い。本層中からは縄文時代後期前・中葉の遺物が多量に出土している。なお、SQ52配石遺構を確認したLT・MA48区においては、配石上部の堆積土を当初II-1層と判断して遺物の取り上げを行っていたが、後にこの層がII-1層と分離できるより新しい層(II-1a層)であることが判明したため、この地区についてのみ、配石下部に堆積するII-1層に対応した層をII-1・2配石下層と注記して遺物の取り上げを行った。



第6図 基本土層図作成地点





第2表 採出遺構一覧

地層番号	No.	グリッド	確認面	重複開拓(新>旧)		時期	測定番号	出土遺物開載位置	回収率
				長径(m)	短径(m)				
SK 11	1LQ+1R45	IV	SK12>SK11	1.39	1.00	0.18	160R1・20R8	不明	2
SK 12	1LQ45	IV	SK13a>>SK12>SK11	1.27	1.17	0.37	160R2・3・20R19+20	不明	2
SK 13a	1LQ45	IV	SK13b>>SK12>SK12	0.64	0.51	0.39	160R2	不明	2
SK 14a	1LQ45+46	IV	SK14a>SK14b, SK14c+42	1.38	1.24	0.47	160R5, 20R21+23	不明	2
SK 14b	1LQ46	IV	SK14a>SK14b	0.56	0.51	0.26	160R6	不明	2
SK 15	1LQ45+46	IV	—	1.35	1.20	0.32	160R7・8・21R6	不明	2
SK 24	1LQ46	IV	SK24+SK3, SK73+5	1.09	1.00	0.24	160R16	不明	2
SK 30a	1R+1S46	IV	SK30a>>SK30 b	1.25	1.13	0.21	160R9, 21R4+3, 22R3	不明	2
SK 39a	1R47	IV	SK39b>>SK39 a	0.42	0.35	0.20	160R10+11	不明	2
SK 43	1A46	IV	SK43>SK92>SK71	0.81	0.72	0.38	160R12+13, 17R6, 21R4	不明	2
SK 53	1T49	II-1T+II	—	0.80	0.78	0.28	160R14+15, 22R4+7	不明	3
SK 54	MA49+1T49	II-1T+II	—	1.03	0.98	0.46	160R16+18, 21R5+6, 22R9+11	不明	3
SK 56	MA49	II-1T+II	—	0.54	0.50	0.15	160R17+18	不明	3
SK 57	1T50	III	—	0.88	0.79	0.15	160R18+19	不明	3
SK 58	1R+1S49	III	SK910+>SK58+SK95+194	2.04	1.80	0.25	160R20+21	不明	4
SK 62	1T49	III	SK62>SK1299	0.51	0.48	0.21	160R21	不明	4
SK 67	MA51	III	SK162>SK687	0.83	0.71	0.34	160R25	不明	4
SK 70	1LQ46	IV	—	0.64	0.42	0.23	160R26	不明	2
SK 71	1A46	IV	SK43>SK92>SK71	0.93	0.68	0.30	160R26	不明	2
SK 83	1A46	SK24(底面)	SK24>SK93+5	0.50	0.44	0.31	160R27	不明	2
SK 85	1S48+49, 1T48+49	III	SK974>SK985	0.83	0.60	0.37	160R8	不明	2
SK 88	MA51	II-1T+II	—	0.90	0.86	0.50	160R8, 21R7	不明	4
SK 89	1S+1T49	II	—	0.65	0.44	0.18	160R8	不明	4
SK 129	MA49	III	—	0.40	0.30	0.12	160R9	不明	4
SK 130	MA49	III	—	0.72	0.61	0.14	160R9	不明	4
SK 196a	MA55	III	SK156a>SK156b	0.98	0.54	0.18	160R10+11	不明	5
SK 162	MA51+M651	III	SK162>SK67	1.20	0.60	0.47	160R10	不明	4
SK 164	MA55+56, M655+56	III	—	1.66	1.40	0.15	160R12+13	不明	5
SK 165	MA55	III	—	0.76	0.27	0.20	160R12	不明	5
SK 166	MA54	III	—	1.29	0.60	0.45	160R12	不明	5
SK 178	1S+1T48	III	—	0.54	0.50	0.13	160R16	不明	5
SK 188	1T48	III	SQ52>SK188	1.42	0.91	0.45	160R16	不明	5
SK 205	MC+M656	III	—	0.90	0.49	0.10	160R17	不明	5
SK 212	1T+MA50	III	—	0.60	0.40	0.18	160R17	不明	5
SK 214	1S48	III	—	0.63	0.38	0.18	160R17	不明	5
SK 226	1T48+49	III	SKP231>SK226	0.88	0.67	0.25	160R14+16	不明	5
SK 237a	MA49+50	III	SK237a>SK237b	0.58	0.52	0.28	160R15	不明	6
SK 242	MA49	II-2	SKP241>SK242	(0.85)	—	0.24	160R15	不明	6
SK 243	M653	II-1	—	(1.24)	—	0.32	160R17	不明	6
SK 244	MA+M653	II-1	SK243>SKP249>SK244>SKP270+274	1.75	1.34	0.12	160R17+22	不明	6
SK 245	M653	II-1	SK245>SKP249>SK244, SKP270	0.83	0.60	0.12	160R17+2	不明	6
SK 248	MA53	III	—	0.46	0.41	0.06	160R18	不明	6
SK 251	MA52	III	—	0.78	0.72	0.14	160R18	不明	6
SK 252	M652	III	—	1.17	0.78	0.13	160R6+8	不明	6
SK 266	M652	III	SK266>SKP267	0.67	0.61	0.15	160R6	不明	6
SK 281	MA51	III	—	0.47	0.41	0.14	160R7	不明	6
SK 282	M652	III	SK282>SKP294	0.67	0.44	0.19	160R7	不明	7
SK 283	M652	II-2	—	(1.14)	—	0.37	160R7	不明	7
SK 284	MA54	III	—	(0.98)	—	0.12	160R9+10	不明	7
SK 298	MA51	III	—	0.51	0.34	0.11	160R9	不明	7

配石遺構 : 6基

地層番号	No.	グリッド	確認面	重複開拓(新>旧)	時期	測定番号	出土遺物開載位置	回収率
SQ 52	1T47+48+MA48	II-1	SQ52>SK188, SKP174+175+184+185+186+187+222+223+238	未確認中壘	13R6	22R8		7+8
SQ 55	MA50	II-1	—	未確認中壘	12R6			8
SQ 69	M651	II-1	—	未確認	12R6			4
SQ 246	M653	II-1	—	未確認	12R6			8
SQ 247	MA52	II-1	—	後期開拓	12R6			8
SI 296	LB46+47	IV	SK296>SKP27b	未確認	14R6			7+8
SI 297	1S48+49, 1T49	III	SKP195>SK58+SK297>SK85, SKP87+194	後期中壘	14R6			8

II - 2 層

II - 1 層の下位にあり、調査区全域にわたって確認した。上位 II - 1 層との境界は不明瞭であるが、本層の方が比較的粘性が強く、炭化物や遺物の混入量が少ない。本層も II - 1 層と同様、地点によりさらに細分が可能で、堆積環境が一様ではないことを示している。例えば基本土層断面 B の II - 2 d 層としたものは最下部の無遺物層で、遺物包含層形成以前の旧表土と考えられる。また基本土層断面図 E および B 北端については、上部が II - 2 a・b・c 層、下部を II - 2' 層に分層した。II - 2 b 層は地山由来土を多量に含む単発的な間層で、これを挟む II - 2 a・c 層は同質の堆積土である。ただしこれらの細分層位を平面的に把握しながら本層を掘り下げることは困難であったため、遺物の取り上げについては II - 2 層で一括して行った。

III 層

褐灰～灰黄褐色を呈する地山粘土である。遺物は含んでいない。II 層との境界は漸移的に変化している。遺構の大半は本層の上面で検出した。

IV 層

灰オリーブ～暗オリーブ色を呈する地山粘土である。C 区においては上位の III 層が耕地造成のため削平されており、遺構確認は本層上面で行った。なお、遺構底面などで本層の下に砂質土が堆積する地点や、地山上面に砂礫が露出した地点が確認されている。本層下部までの層厚や堆積状況は未確認であるが、基本的に本層下位には基盤段丘礫層に連続する砂礫層が存在するものと考える。

第 2 節 検出遺構と出土遺物

2か年の調査により、土坑 50 基、配石遺構 6 基、掘立柱建物跡 2 棟、柱穴様ビット 214 基を検出した(第 7 図、第 2 表)。これらの遺構は南東端部を除き、調査区のはば全域に分布している。検出遺構の平面面図は第 8 ～ 15 図に、遺構の土層注記は第 6 ～ 9 表に一覧を掲載し、遺構内出土遺物は第 16 ～ 22 図に実測図を、第 10 ～ 12 表に掲載遺物の一覧を示した。なお、遺構記述中にある石器の分類については第 4 章第 3 節を参照されたい。

1 土坑

土坑は調査区全域に分布しており、50 基を検出した。直径 1 m 前後の円形平面を呈する土坑が多く見受けられ、上部に礫群を伴う土坑も確認されている。なお径 50cm 程度の極めて小型の土坑は平面的に柱穴様ビットとの判別が困難であるが、壁の立ち上がりが緩やかで比較的浅いものについては土坑と認定した。

SK11(第 8 図、図版 2)

【位置】 LQ・LR45 グリッドに位置する。

【検出状況】 I 層の除去後、地山(IV 層)面で連なった複数の円形プランを確認した。このうち最も西側で規模の大きな黒褐色土のプランを SK11、これより東へ順に SK12・13 として精査を開始した。

【概要】 SK12 に切られる。残存部は長径 1.39m、短径 1.05m のほぼ円形を呈する。確認面からの深

さは0.18mである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] 3層に分層した。いずれの土層にも炭化物や地山由来の灰黄褐色土粒を多く含む。

[出土遺物] 繩文土器破片59点(16図1)、残核1点(20図18)、剥片7点、石皿1点(A1類)、珪化木1点が出土した。

[時期] 出土遺物から繩文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK12(第8図、図版2)

[位置] LQ45グリッドに位置する。

[検出状況] I層の除去後、地山(IV層)面で連なった複数の円形プランを確認した。このうち中央に位置する黒褐色土の円形プランをSK12として精査を開始した。

[概要] SK11を切り、SK13aに切られる。長径1.27m、短径1.17mの円形を呈する。確認面からの深さは0.37mである。底面はほぼ平坦で、壁は底面から開口部にかけて緩やかに湾曲する。

[堆積土の特徴] 炭化物や地山由来の灰黄褐色土塊の混入の度合いによって4層に分層した。特に2層中央部には炭化物塊の混入が顕著である。

[出土遺物] 底面中央部東寄りに比較的大型の自然礫が、西側壁際には大型の被熱礫が配置されていた。このほか、繩文土器破片106点(第16図2・3)、不定形石器2点(20図19・B3a類)、残核1点(20図20)、剥片8点、磨・凹石類2点(A1・B2類)、石皿2点(A1類)、石棒1点(B3類)、珪化木1点が出土した。

[時期] 出土遺物から繩文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK13a(第8図、図版2)

[位置] LQ45グリッドに位置する。

[検出状況] I層の除去後、地山(IV層)面で連なった複数の円形プランを確認した。このうち最も東側に位置する黒褐色土の円形プランをSK13として精査を開始した。精査が進んだ段階で、東側で柱穴様ピットと切り合うことが判明し、土坑をSK13a、柱穴様ピットをSKP13bとした。

[概要] SKP13bに切られ、SK12を切る。長径0.64m、短径0.51mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.39mである。底面は南側が若干高く段差が付いており、壁は急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 炭化物や地山由来土の混入程度から、5層に分層した。黒褐色土を主体とし、特に下部堆積土には径の大きな地山土塊を多く混入しており、埋め戻しによる堆積と考えられる。

[出土遺物] 繩文土器破片63点(16図4)、不定形石器3点(D7b・D8c・C10d類)、剥片8点、珪化木3点が出土した。

[時期] 出土遺物から繩文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK14a・b(第8図、図版2)

[位置] LQ45・46グリッドに位置する。

[検出状況] I層の除去後、地山(IV層)面で輪郭の不明瞭な黒褐色土プランを確認した。十字に土層観察ベルトを設定してこれに沿うサブトレチングを掘削し、壁の状況や堆積状況を観察した結果、2基の土坑と1基の柱穴様ピットが重複したものであることが判明した。この段階で、規模が大きい土坑をSK14a、小さな土坑をSK14b、柱穴様ピットをSKP14cとし、精査を進めた。

[概要] <SK14a>SK14b・SKP14c・42を切る。長径1.38m、短径1.25mのほぼ円形を呈する。

確認面からの深さは0.47mである。底面は中央部南側が一段深くなっている、壁は緩やかに立ち上がる。<SK14b>SK14aに切られる。長径0.56m、短径0.51mのほぼ円形で、確認面からの深さは0.26mである。底面は緩やかに湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴]<SK14a>6層に分層した。1・2層には特に地山由来の黄褐色土塊が多く混入している。<SK14b>青灰色土の單一層である。グライ化した地山と色調が酷似しており、壁と底面の検出は困難であったが、わずかに炭化物を含み縮まりが弱い部分を堆積土と判断した。

[出土遺物]遺物は殆どがSK14aに属するもので、縄文土器破片215点(16図5・6)、石錐1点(20図22)、楔形石器1点(20図21)、不定形石器5点(20図23・B2類2点・D3a類・C9d類)、残核1点(A類)、剥片12点、硅化木小破片3点が出土した。

[時期]詳細は不明であるが、出土遺物から縄文時代晚期前葉以降に埋没したものと考えられる。

SK15(第8図、図版2)

[位置] LR45・46グリッドに位置する。

[検出状況] I層除去後、分布調査時の試掘坑の埋め戻し土を取り除いたところ、灰色土の明瞭な円形プランを確認した。

[概要]上部が削平されているため本来の規模は不明であるが、開口部は長径1.35m、短径1.23mの円形を呈し、確認面からの深さは0.32mを測る。底面は直径1.39m、短径1.30mを測り、ほぼ平坦である。壁は西側を除いて全体的にオーバーハングしており、緩やかに内傾しながら立ち上がる。

[堆積土の特徴]3層に分層した。いずれの層にも地山由来のシルトを含み、特に3層はこれを主体とする。人為的に埋め戻された可能性が高い。

[出土遺物]縄文土器破片84点(16図7・8)、石錐1点(21図1)、剥片6点、磨・凹石類2点(B1・2類)、硅化木小破片2点が出土した。

[時期]出土遺物から縄文時代晚期初頭以降に埋没したものと考えられる。

SK24(第8図、図版2)

[位置] LQ46グリッドに位置する。

[検出状況] I層の除去後、IV層にて黒褐色土の円形プランを確認した。当初、県道に沿って存在した用排水路部分は調査対象区域外としていたが、本土坑の約半分が水路下へと展開していたため、調査対象区域を県道際まで拡張し、全体を検出した。本土坑の精査終了後、壁面および底面で重複するSK83、SKP73を確認した。

[概要]SK83、SKP73と重複する。上記のような検出状況のため新旧関係は不明だが、SK24はこれらを切っていた可能性が高い。長径1.09m、短径1.00mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.24mを測る。底面から壁にかけて緩やかに湾曲する。

[堆積土の特徴]2層に分層した。黒褐色土を主体として特に下部の2層は地山土塊を多く混入しており、人為的な埋め戻しによるものと考えられる。

[出土遺物]縄文土器破片26点、土器片円盤1点(20図16)、不定形石器1点(D8b類)、剥片3点、硅化木小破片1点が出土した。

[時期]出土遺物から縄文時代晚期以降に埋没したものと考えられる。

SK30a(第8図、図版2)

[位置] LR・LS46グリッドに位置する。

[検出状況] I層除去後、IV層にて黒褐色土の明瞭な円形プランを確認した。半截時に底面が砂層となり周囲の地山と様相が異なったため、土層観察位置に沿ってサブトレンチを掘削した。これにより、砂層がプラン外にも一樣に堆積している状況が確認できたため、2層下面を底面と判断した。

[概要] SKP30bを切る。長径1.25m、短径1.18mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.21mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに湾曲して立ち上がる。

[堆積土の特徴] 2層に分層した。黒褐色土を主体とし、1層には炭化物を、2層には地山土塊を多く混入する。埋め戻しによる堆積と推測される。

[出土遺物] 繩文土器破片121点(16図9)、不定形石器2点(21図2・D3a類)、残核1点(21図3)、剥片6点、石皿1点(A1類)、礫器2点(22図3・A類)、硅化木3点が出土した。1層下位から2層上位にかけては土器破片が中心で、2層下位から底面にかけては比較的大型の自然礫が4点出土しており、意図的に埋められたものと考えられる。

[時期] 出土土器は同一個体の大型破片が多く、埋め戻しに伴い意図的に投入されたものと考えられる。本土坑は繩文時代晚期前葉(大洞BC式期)に属する可能性が高い。

SK39a(第8図、図版2)

[位置] LR47グリッドに位置する。

[検出状況] I層除去後、IV層にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。1基の遺構であると予測し、長軸方向で半截したところ、上半を欠損した深鉢形土器底部が正位の状態で出土した。土層の観察から、この土器を埋納した土坑とこれを切る柱穴様ピットが重複したものと判断し、前者をSK39a、後者をSKP39bとして精査した。

[概要] 長径推定0.42m、短径0.35mの円形を呈する。確認面からの深さは0.20mである。底面は平坦で、壁は比較的急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土に地山土塊を含む單一層で、埋め戻しによる堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 繩文土器破片39点(16図10・11)、剥片1点が出土した。出土土器破片の殆どが同一個体と推測される。

[時期] 球根土器の時期から、繩文時代後期前葉に属する可能性が高い。

SK43(第8図、図版2)

[位置] LQ46グリッドに位置する。

[検出状況] I層除去後、IV層にて調査区北東側壁に接する半円状の黒褐色土プランを確認した。当初調査対象区域外としていた県道に沿う用排水路部分にも遺構が展開することが判明したため、調査対象地区を県道際まで拡張した。全体を検出したところ、本土坑に重複するプランが確認されたため、それぞれSK71、SKP82として精査を進めた。

[概要] SK71、SKP82を切る。長径0.81m、短径0.72mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.38mである。底面はやや凹凸があるものの概ね平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 2層に分層した。地山土塊を含む2層は、底面付近に4cm堆積するのみである。人为的に埋め戻されたものと考えられる。

[出土遺物] 繩文土器破片109点(16図12・13)、不定形石器1点(21図4)、剥片6点、磨・凹石類1点(B1類)が出土した。このほか、底面北東側に人頭大の礫が配置されていた。

[時期] 出土遺物から縄文時代晩期中葉(大洞C1式期)以降に埋没したものと考えられる。

SK53(第9図、図版3)

[位置] LT49グリッドに位置する。

[検出状況] II層を5cmほど掘り下げた段階で、人頭大の礫が5点ほど集中している地点を確認した。意図的に配置された可能性を考えSQ53として精査を開始したが、周囲をさらに掘り下げたところ、III層上面にてこれらの礫を取り開む黒褐色土の円形プランを確認したため、土坑と判断した。

[概要] 挖り込みは長径0.80m、短径0.78mの円形を呈する。確認面からの深さは0.28mである。底面は緩やかに湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。土坑の上面には拳～人頭大の礫が平坦な面を下にしてほぼ同じ高さにまとめられていた。東側に配置された長さ20cmほどの珪化木は直立した状態であった。

[堆積土の特徴] 混入する炭化物粒の大きさや混入の度合いから2層に分層した。

[出土遺物] 堆積土中から縄文土器破片99点(16図14・15)、剥片1点が出土したほか、上部礫群には石皿2点(22図5・A1類)、磨・凹石類7点(22図4・6・7・A1類・A2類2点・A3類)、珪化木1点が含まれていた。

[時期] 出土土器のうち時期の判別できるものは後期中葉が主体であり、当該時期の大型破片(16図14)も含まれていることから、本土坑は後期中葉に属する可能性が高い。

SK54(第9図、図版3)

[位置] LT・MA49グリッドに位置する。

[検出状況] II層を5cmほど掘り下げた段階で、人頭大の礫が数点集中している箇所を確認した。中でも大きな2点の礫が立った状態であり、この周間に数点の礫が露出していたため、礫群全体の検出を行ったところ、大小の礫が円形の範囲に散き詰められたような状態で確認された。当初は配石遺構の可能性を考え、SQ54として精査を開始したが、分布調査時の試掘トレンチ壁面で礫群の下に掘り込みがあることを確認したため、これを土坑と判断した。

[概要] 他遺構との切り合は無いが、北側は壁の一部が風倒木により搅乱されている。掘り込みは残存部で長径1.03m、短径0.98mの円形を呈する。確認面からの深さは0.46mである。底面は平坦で、壁は直線的に外傾する。土坑上部には直径約1mの範囲に大小の礫が分布している。礫群は南側でプランの外側まで及んでおり、土坑本来の開口部はより広く、高い位置から掘り込まれていたと推測される。礫群北側にある2点の礫は立っており、他の礫から頭が飛び出した状態であった。また礫群の中央部には珪化木が配置されていた。

[堆積土の特徴] 3層に分層した。礫は確認面から3層上面まではほとんど隙間無く含まれていた。上面の礫群と比較すると、2層中では壁際に人頭大の礫を、中央部には拳大程度の礫が集中している状態が確認できた。

[出土遺物] 堆積土中から縄文土器破片35点(16図16～18)、不定形石器1点(21図5)、残核1点(21図6)、剥片2点、磨製石斧1点(B1類)、石棒1点(22図11)、珪化木小破片1点が出土したほか、礫群には石皿10点(A1類3点・B1類4点・D類3点)、磨・凹石類10点(22図9・A1類5点・

A 2類1点・A 3類2点・B 2類1点)、硅化木3点が含まれていた。

[時期]出土遺物から、縄文時代後期前葉に属する可能性が高い。

SK56(第9図、図版3)

[位置]MA50グリッドに位置する。

[検出状況] II層を5cmほど掘り下げた段階で、人頭大の礫1点とこれよりやや小さな礫3点が集中しているのを確認した。礫の周間に黒褐色土の円形プランが確認されたため、これを土坑と判断した。

[概要]掘り込みは長径0.54m、短径0.50mの円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。上部には礫6点が人頭大のものを中心に配置されていた。

[堆積土の特徴] 3層に分層した。2層以下はにぶい黄褐色土で地山に近い色調と土質である。

[出土遺物]縄文土器破片12点(17図1～3)、剥片1点、石皿1点(B 1類)、磨・凹石類1点(A 2類)が出土した。

[時期]出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK57(第9図、図版3)

[位置]LT50グリッド調査区境界に位置する。

[検出状況] I層を除去した段階で、拳よりやや大きく扁平な礫8点のまとまりを確認した。礫はそれぞれ礫群の中心に向かって傾いており、下部に土坑の存在が予測された。周囲を精査したところ黒褐色土の円形プランを検出したため、これを土坑と判断した。

[概要]長径0.88m、短径0.79mの円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。土坑の上面に礫が分布しているが、その配置に規則性は見出せない。

[堆積土の特徴] 黒褐色土の單一層である。

[出土遺物]堆積土中から、縄文土器破片82点(17図4)、剥片1点、硅化木小破片1点が出土したほか、上部および底面の礫群には石皿1点(A 2類)、磨・凹石類3点(A 1類2点・B 2類)、礫器1点(A類)、硅化木1点が含まれていた。

[時期]出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK58(第9図、図版4)

[位置] LS 48・49グリッドの調査区境界に位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の半円形プランを確認した。また、精査の段階で3基の柱穴と切り合いをもつことが確認された。

[概要] SKP195に切られ、SKP59・194を切る。北東側が調査区外へ続くため全体規模は不明であるが、検出した部分で最大径2.24mを測り、楕円形を呈すると推測される。確認面からの深さは0.25mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] 2層に分層した。黒色土を主体として炭化物粒を比較的多く含む。

[出土遺物]縄文土器破片39点、剥片3点、磨・凹石類1点(A 3類)が出土した。

[時期]出土遺物から後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK62(第9図)

[位置] LT 48グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

[概要] SKP299を切る。長径0.51m、短径0.48mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.21mである。底面は中央が一段低く窪んでおり、壁は比較的急傾斜で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土に炭化物や地山土塊を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK67(第9図、図版4)

[位置] MA51グリッドに位置する。

[検出状況] II層を10cmほど掘り下げた段階で、4点の礫が方形に組まれた状態を確認した。人為的に配置されたものと考え、配石遺構として精査を開始した。礫の周囲を精査した際には掘り込みプランは確認できなかったが、サブトレニチを設定して土層断面を観察したところ、掘り込みの底面と壁の立ち上がりを確認したため、土坑と判断した。

[概要] SK162に切られる。掘り込みは長径0.83m、短径推定0.71mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.34mである。底面は緩やかに湾曲しており、壁は湾曲しながら比較的急角度で立ち上がる。上部には4点の大型礫が方形に組まれている。特に南東側は扁平な礫を立てた状態で据えている。石組みの中や礫の下からは、薄く剥離した同一個体の礫がまとまって出土している。

[堆積土の特徴] 3層に分層した。1層は暗オリーブ褐色土で、石を据えるために被せたものと考えた。3層は土坑の埋め戻し土で、わずかに炭化物を含む。

[出土遺物] 繩文土器破片53点(17図5)、剥片6点、礫破片35点が出土した。

[時期] 出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK70(第9図、図版2)

[位置] LQ46グリッドに位置する。

[検出状況] SK43の精査に伴い、調査区を北東側へ拡張したところ、地山(IV層)面にて大型礫2点とそれを取り囲む不明瞭な楕円形プランを確認した。

[概要] 長径0.64m、短径0.42mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.23mである。底面は南西側が一段低く窪んでおり、壁は急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 地山土に似たオリーブ灰色土の單一層で、混入物は殆ど見られない。

[出土遺物] 磨・凹石類1点(A1類)が出土した。

[時期] 時期の判定できる遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

SK71(第8図、図版2)

[位置] LQ46グリッドに位置する。

[検出状況] SK43の全体を検出するために調査区を拡張したところ、これに重複する2基のプランを確認した。このうち、北側に位置するものをSK71とした。

[概要] SK43、SKP82に切られる。このため遺構全体の規模は不明であるが、残存部で長径0.93m、短径推定0.68mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.30mで、SK43よりやや浅い。底面は平坦で、壁は直線的に急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 2層に分層した。ともに地山土塊を混入しており、埋め戻し土と判断できる。

[出土遺物] 縄文土器破片14点(17図6)、剥片1点が出土した。6はSK43出土土器との接合資料である。

[時期] 出土遺物から縄文時代晚期以降に埋没したものと考えられる。

SK83(第8図、図版2)

[位置] LQ46グリッドに位置する。

[検出状況] SK24を完掘した際、底面にオリーブ黒色土の円形プランを確認した。

[概要] SK24と重複する。新旧関係は不明であるが、SK24に切られていた可能性がある。残存部は長径0.50m、短径0.44mの円形を呈する。確認面からの深さは0.31mである。底面は緩やかに湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 径の大きな地山土塊を多量に含むオリーブ黒色土の単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

[出土遺物] 縄文土器破片4点(17図7)が出土した。

[時期] 出土遺物から縄文時代晚期以降に埋没したものと考えられる。

SK85(第10図)

[位置] LS・LT48、LS・LT49グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

[概要] SKP84に切られる。長径0.83m、短径0.60mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.37mである。底面は中央部が一段低く窪んでおり、壁は比較的急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴] 炭化物や地山土の混入程度から3層に分層した。黒褐色土を主体とし、上部に炭化物を、下部に地山土粒を少量混入する。

[出土遺物] 縄文土器破片2点が出土した。

[時期] 出土土器に時期判定可能なものが無いため、帰属時期については不明である。

SK88(第10図、図版4)

[位置] MA51グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げる段階で比較的大型の礫が集中する地点を確認した。この段階では周囲にプランは確認できなかつたため、礫を残したまま周囲を掘り下げたところ、礫群を取り囲む不整円形の黒褐色土プランが検出されたため、土坑と判断した。

[概要] 掘り込みは長径0.90m、短径0.80mの歪な円形を呈する。確認面からの深さは0.50mである。土坑の上部には、人頭大の礫2点と拳より大きな礫数点が集中していた。人頭大礫の一つは扁平で直立した状態で据えられていた。

[堆積土の特徴] 2層に分層した。黒褐色土を主体として炭化物を少量含み、下部の方が粘性が強い。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器破片37点(17図8)、不定形石器1点(21図7)、剥片1点が出土したほか、上部礫群には磨・凹石類2点(A3類・B1類)、礫器1点(A類)が含まれていた。

[時期] 出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK89(第10図)

[位置] LS・LT49グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて暗褐色土の楕円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.65m、短径0.44mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕暗褐色土を主体とした單一層で、炭化物を少量、地山土塊を多量に含む。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

〔出土遺物〕繩文土器破片1点、珪化木小破片1点が出土した。

〔時期〕出土土器に時期判定可能なものが無いため、帰属時期については不明である。

SK129(第10図、図版4)

〔位置〕MA49グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.40m、短径0.30mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面は緩やかに湾曲し、壁は急角度で立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物を多量に、径の大きな地山土塊を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

〔出土遺物〕繩文土器破片13点、剥片1点が出土した。

〔時期〕出土土器に時期判定可能なものが無いため、帰属時期については不明である。

SK130(第10図、図版4)

〔位置〕MA49グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.72m、短径0.61mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物と地山土塊を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕繩文土器破片13点(17図9)、磨・凹石類1点(A1類)が出土した。

〔時期〕出土遺物から繩文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK156a(第10図、図版5)

〔位置〕MA55グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。当初1基の土坑と考えたが、半蔵して土層を観察した結果、土坑と柱穴様ピットが切り合ったものであることが判明した。このため、土坑をSK156a、柱穴様ピットをSKP156bとして精査を行った。

〔概要〕SKP156bを切る。長径0.98m、短径0.54mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物と地山土塊を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕繩文土器破片56点(17図10・11)、剥片1点、磨・凹石類1点(A1類)が出土した。

〔時期〕出土遺物から繩文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK162(第10図、図版4)

[位置] MA・MB51グリッドに位置する。調査区B区とD区の境界部分に相当する。

[検出状況] B区北端部においてII層掘り下げの後、地山(IV層)面でSK67を切る黒褐色土のプランを確認した。北端部壁面の土層を再度観察したところ、II層中から掘り込まれていることが判明した。

[概要] SK67を切る。長径1.20m、短径0.65mの楕円形を呈する。壁面で観察された、掘り込み面からの深さは0.47mである。底面は緩く窪み、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] 3層に分層した。全体的に黒色土を主体として炭化物を少量含むが、中位に堆積する2層は地山土塊を多量に混入する。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 遺物の出土が無いため帰属時期は不明であるが、SK67との切り合い関係から、縄文時代後期中葉を遡らない時期に埋没したものと考えられる。

SK164(第10図、図版5)

[位置] MA・MB55、MA・MB56グリッドの調査区境界に位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の不整形プランを検出した。掘り込みは西側の調査区域外にまで広がっている。

[概要] 全体形状及び規模は不明であるが、検出した範囲では最大径1.66m、短径1.46mの不整形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面は北側が一段低くなっている他、全体的に緩く湾曲しており、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土に炭化物と地山土塊を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

[出土遺物] 縄文土器破片97点(17図12・13)、剥片4点が出土した。

[時期] 出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK165(第10図、図版5)

[位置] MA55グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の不整形プランを検出した。

[概要] 長径0.76m、短径0.27mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20mである。東側がわずかに一段低くなっているが、全体としては平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 出土遺物が無いため、帰属時期は不明である。

SK166(第10図、図版5)

[位置] MA54グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

[概要] 長径1.29m、短径0.86mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.45mである。底面は中央部が一段深く窪んでおり、壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕炭化物の混入量および締まり・粘性の違いから2層に分層した。黒褐色土を主体として径の大きな炭化物を少量含み、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK178(第10図)

〔位置〕LS・LT48グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.54m、短径0.50mの円形を呈する。確認面からの深さは0.13mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK188(第11図、図版5)

〔位置〕LT48グリッドに位置する。

〔検出状況〕SQ52の構成礫を取り外してII層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

〔概要〕長径1.42m、短径0.91mのほぼ楕円形を呈する。確認面からの深さは0.45mである。底面はほぼ平坦で壁は急角度で立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土を主体とし、炭化物や地山土塊の混入程度から3層に分層した。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

〔出土遺物〕出土遺物は無い。

〔時期〕遺物の出土が無いため帰属時期は不明であるが、上部に位置するSQ52が縄文時代後期中葉以降に構築されたと推測されることから、縄文時代後期中葉以前に埋没したものと考えられる。

SK205(第11図、図版5)

〔位置〕MA・MB56グリッドに位置する。

〔検出状況〕I層の除去後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.90m、短径0.49mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK213(第11図、図版5)

〔位置〕LT・MA50グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層の除去が全て終了した段階で、拳大の礫が集中した地点を確認した。念の為に礫群の平面図を作成した後に半截したところ、礫の下部に掘り込みが存在することが判明したため、こ

れを土坑と判断した。

[概要] 挖り込みは長径0.58m、短径0.49mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面は緩やかに湾曲し、壁も緩やかに立ち上がる。土坑上部には拳大の礫15点が平面的にまとまっている、故意に置かれたものと考えられる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK214(第11図、図版5)

[位置] LT 48グリッドに位置する。

[検出状況] SQ52の構成礫を取り外してII層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

[概要] 長径0.93m、短径0.78mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.34mである。底面には若干凹凸が認められるがほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土を主体とし、炭化物や地山土塊の混入程度から2層に分層した。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

[出土遺物] 繩文土器破片19点(17図14~16)、不定形石器1点(C10c類)、剥片1点、珪化木1点が出土した。

[時期] 出土土器のうち時期判定の可能なものは後期前葉に属するため、本土坑は縄文時代後期前葉に属する可能性が高い。

SK226(第11図)

[位置] LT 48・49グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて南北に連なる複数の円形プランを確認した。トレンチを設定して土層断面を観察した結果、土坑1基と柱穴様ピット2基が切り合ったものと判断した。北側の土坑をSK226、中央部と南側の柱穴様ピットをそれぞれSKP231・227として精査を行った。

[概要] SKP231に切られる。全体規模は不明であるが、長径推定0.88m、短径0.67mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.25mである。底面から壁にかけて、緩やかに湾曲して立ち上がる。

[堆積土の特徴] 黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK237a(第11図、図版6)

[位置] MA49・50グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて南北に連なる不整形プランを確認した。半蔵した後土層断面を観察したところ、土坑1基と柱穴様ピット1基が切り合ったものと判断し、北側の土坑をSK237a、南側の柱穴様ピットをSKP237bとして精査を行った。

〔概要〕SKP237bを切る。長径0.58m、短径0.52mの円形を呈する。確認面からの深さは0.28mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK242(第11図)

〔位置〕MA49グリッドの調査区境界に位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黑色土の円形プランを確認した。プランは調査区の西側へと続いており、壁面の土層を再度確認したところ、II-2層上面から掘り込まれていることが判明した。

〔概要〕SKP241に切られる。全体規模は不明であるが、検出部の最大径は0.85mを測り、楕円形を呈するものと考えられる。掘り込み面から底面までの深さは0.24mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に炭化物を少量含む單一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK243(第11図、図版6)

〔位置〕MB53グリッドの調査区境界に位置する。

〔検出状況〕II層を10cmほど掘り下げた段階で、数点の礫のまとまりとそれを取り囲む不明瞭な円形プランを確認した。調査区境界に沿ってトレンチを設定し掘り下げたところ、土坑の壁面および底面を確認し、併せてII-1層から掘り込まれていることが判明した。

〔概要〕北側が水道管理設備に搅乱されている。土坑の掘り込みは調査区西側へ続くため全体規模は不明であるが、検出部で最大径1.24mを測り、楕円形を呈すると考えられる。掘り込み面からの深さは0.52mである。底面は緩く湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕3層に分層した。全体的に炭化物を若干混入し、特に3層には地山土塊を多く含み、人為的な埋め戻し土と判断できる。2層は特に粘性の強い土で、これも埋め戻しの際に故意に入れた可能性が高い。礫は確認面で数点認められる他は堆積土の中位レベルにまとまっており、径30cmを超える大きな礫が底面に接した状態で出土している。

〔出土遺物〕堆積土から縄文土器破片224点(17図17~22)、不定形石器1点(C9d類)、剥片3点が出土したほか、出土礫には石皿2点(A1・B1類)、磨・凹石類7点(A1類4点・A2類2点・A3類)、珪化木1点が含まれていた。

〔時期〕時期判定の可能な土器のほとんどが縄文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋設した可能性が高い。

SK244(第11図、図版6)

〔位置〕MA・MB53グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を10cmほど掘り下げた段階で、II層中で不明瞭な不整円形プランを確認した。複数

の遺構が切り合っている可能性を考慮して、長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、2基の土坑が切り合ったものと判断した。このうち、規模の大きい方をSK244として精査した。

[概要] SK245・SKP249に切られ、SKP270・274を切る。長径1.75m、短径1.54mの不整円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面は若干凹があるもののほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] II層に類似したシルト質土に炭化物を若干含む単一層である。

[出土遺物] 繩文土器破片490点(17図23～28)、不定形石器2点(B2・C10b類)、剥片2点が出土した。

[時期] 時期判定の可能な土器のほとんどが繩文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

SK245(第11図、図版6)

[位置] MB53グリッドに位置する。

[検出状況] II層を10cmほど掘り下げた段階で、II層中で不明瞭な不整円形プランを確認した。複数の遺構が切り合っている可能性を考慮し、長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、2基の土坑が切り合ったものと判断した。このうち、規模の小さい方をSK245として精査した。

[概要] SK244、SKP249・270を切る。長径0.83m、短径0.65mの梢円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] II層に類似したシルト質土に炭化物を若干含む単一層である。

[出土遺物] 繩文土器破片92点(18図1・2)、剥片1点、硅化木小破片1点が出土した。

[時期] 時期判定の可能な土器の殆どが繩文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

SK248(第11図、図版6)

[位置] MA53グリッドに位置する。

[検出状況] II層を10cmほど掘り下げた段階で、II層中で扁平な大型礫が重なった状態で出土した。当初は配石遺構の可能性を考えたが、地山(III層)面まで掘り下げて精査した結果、これらを取り囲む円形プランを確認し、土坑と判断した。

[概要] 堀り込みは長径0.46m、短径0.41mの円形を呈し、確認面からの深さは0.06mである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。本来は礫上面より上のレベルから堀り込まれていたと考えられ、平面規模は一回り大きく、深さも30cm以上あったものと推測される。礫は底面からわずかに浮いたレベルで密着した状態で出土しており、土坑内に人為的に据えられたと考えられる。

[堆積土の特徴] 地山上土を比較的多く含む黒褐色土の単一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

[出土遺物] 堆積土中からの出土遺物は無いが、出土した2点の大型礫はいずれも石皿(A1・B1類)である。

[時期] 時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本土坑の帰属時期は不明である。

SK251(第11図、図版6)

[位置] MA52グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒色土の明瞭な円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.78m、短径0.72mの円形を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒色土に地山由来土と炭化物を少量含む單一層で、中心部の底面から確認面にかけて大型の礫が集中している。

〔出土遺物〕堆積土から縄文土器破片96点(18図3～5)、残核1点(A類)、剥片2点が出土したほか、礫群には磨・凹石類1点(A1類)、硅化木1点が含まれていた。なお、土坑を検出する以前にII層中において、ほぼ完形の縄文時代晚期蓋形土器(45図8)が口縁部を上にして潰れた状態で出土している。本土坑埋め戻しの際、上部に意図的に置かれた可能性もあるが、明確ではない。

〔時期〕詳細は不明であるが、出土遺物から少なくとも縄文時代後期中葉以降に埋没したものと推測され、晩期に属する可能性もある。

SK252(第12図、図版6)

〔位置〕MB52グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて人頭大の礫とともに黒褐色土の明瞭な梢円形プランを確認した。

〔概要〕北側で風倒木痕を切っている。長径1.17m、短径0.78mの不整梢円形を呈する。確認面からの深さは0.13mである。底面から壁にかけて緩く湾曲しながら立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕径の大きな地山土粒や炭化物を少量含む黒褐色土の單一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。中央部には大型礫1点と小型礫2点がまとまっていた。

〔出土遺物〕縄文土器破片110点(18図6～8)、不定形石器1点(A8a類)、磨製石斧1点(A類)、石皿1点(A1類)が出土した。

〔時期〕時期判定の可能な土器のほとんどが縄文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

SK266(第12図、図版6)

〔位置〕MB52グリッドの調査区境界部に位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の不明瞭な円形プランを確認した。

〔概要〕SKP267を切る。掘り込みは調査区西側へ続くため全体規模は不明であるが、検出部は長径0.67m、短径推定0.61mの円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面は平坦で壁は急角度で立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕径の大きな地山土粒や炭化物を少量含む黒褐色土の單一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため帰属時期は不明であるが、本土坑に切られるSKP267が縄文時代後期中葉以降に属すると考えられるため、少なくとも後期中葉を過らない時期に埋没したものと推測される。

SK281(第12図、図版6)

〔位置〕MA51グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の明瞭な円形プランを確認した。

[概要]長径0.47m、短径0.41mの円形を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴]径の小さな地山土粒や炭化物をわずかに含む黒褐色土の単一層である。

[出土遺物]遺物は出土しなかった。

[時期]遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK282(第12図、図版7)

[位置]MB52グリッドに位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて比較的大型の礫とその周辺に黒褐色土の明瞭な楕円形プランを確認した。

[概要] SKP294を切る。長径0.67m、短径0.44mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.19mである。底面はほぼ平坦で壁は急角度で立ち上がる。

[堆積土の特徴]径の大きな地山土粒や炭化物を少量含む黒褐色土の単一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

[出土遺物]縄文土器破片5点が出土した。

[時期]時期判定の可能な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、本土坑に切られるSKP294が縄文時代後期前葉以降に属すると考えられるため、少なくとも後期前葉を遡らない時期に埋没したものと推測される。

SK283(第12図、図版7)

[位置]MB52グリッドの調査区境界に位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒色土の明瞭な楕円形プランを確認した。プランは調査区西側へと続いており、調査区境界の壁面を再度観察した結果、II-2層上面から掘り込まれていることが確認された。

[概要]全体規模は不明であるが、検出部の最大径は1.14mを測り、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは0.37mである。底面は凹凸が著しく、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴]径の大きな地山土粒や炭化物をわずかに含む黒色土の単一層である。

[出土遺物]縄文土器破片2点、礫器1点(A類)が出土した。

[時期]時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本土坑の帰属時期は不明である。

SK284(第12図、図版7)

[位置]MA54グリッドの調査区境界に位置する。

[検出状況] II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の明瞭なプランを確認した。プランは調査区東側へと続いている。なお北側はA区・南側はD区にまたがっており、A区にかかる部分について検出することができなかった。

[概要]全体規模は不明であるが、残存部では最大径0.58mを測り、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは0.12mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴] 2層に分層した。黒～黒褐色土に径の小さな地山土粒や炭化物をわずかに含む。

[出土遺物]縄文土器破片17点(18図9・10)が出土した。

〔時期〕出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK298(第12図、図版7)

〔位置〕MA51グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層を掘り下げた後、地山(III層)面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

〔概要〕長径0.51m、短径0.34mの楕円形平面を呈する。確認面からの深さは0.11mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土の特徴〕黒褐色土に径の小さな炭化物粒を含む單一層である。

〔出土遺物〕遺物は出土しなかった。

〔時期〕遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

2 配石遺構

智者鶴遺跡では遺物包含層中および遺構検出面から大小の礫が多量に出土している。同様の礫は地山土中に殆ど含まれていないことから、その大部分は石沢川河床などから遺跡に持ち込まれた搬入礫であると推測される。礫は単独で出土するほか、礫群として平面的にまとまっている場合があり、特に大型礫で構成される礫群のうち、人為的に集積されたと考えられるものについて配石遺構とした。人為的な集積は、1) 平面的に密接している、2) 矽の上面もしくは下面レベルが揃っている、3) 整った形に配置されている、などの状況から判断した。その結果6基を配石遺構と認定した。これらの配石遺構は調査区中央部の、遺物包含層が比較的厚く堆積する沢状の落ち込み付近に分布している。

SQ52(第13図、図版7・8)

〔位置〕LT47・48、MA48グリッドに位置する。

〔検出状況〕II層上部(II-1a層)を掘り下げたところ、大小の礫が平面的に密接した状態で確認された。礫は東西約3m、南北約2mの範囲に特に集中しているが、全体として何かを形作っているもののかは不明である。礫のサイズは、北半部では人頭大の、南半部では拳大のものが中心である。礫群は調査区境界部にあり、西側の調査区外へとさらに広がるものと考えられる。なお、礫群北側には、被熱した動物骨の小破片が直径約1mの範囲から集中して出土している。これについては第5章第3節を参照されたい。礫群の長短軸方向で断ち割りを行ったが、下部に礫群と対応する掘り込みは認められなかった。礫群の下には遺物包含層があり、これを掘り下げたところ地山面(III層)でSK188、SKP174・175・184・185・186・187・222・223・233・238を検出した。これらは本配石遺構の構築以前に埋没していたと考えられる。

〔出土遺物〕礫群中には、石皿20点(22図8・A1類11点・B1類3点・D類5点)、磨・凹石類17点(A1類10点・A2類6点・A3類1点)、礫器1点(B類)、珪化木6点が含まれていた。珪化木は礫群の中心部に位置するものがあり、意図的に据えられた可能性も考えられる。なお礫集中部北側で確認された、ほぼ完形に復元可能な单孔土器(42図12)は、上半部が大形礫に閉まれた部分から、底部が礫直下から出土しており、本配石遺構の構築時に伴う可能性が高い。

〔時期〕礫群下位の遺物包含層出土土器は後期前葉を中心としており、少なくともこれを過らない時期に礫群が形成されたと判断できる。また、ほぼ完形に復元できる单孔土器の出土状況から、本配

石遺構は後期中葉に属する可能性が高いと考える。

SQ55(第12図、図版8)

[位置]MA50グリッドの調査区境界部に位置する。

[検出状況]表土を除去したところ、II-1層上面において人頭大を中心とした礫が密接した状態で検出された。礫群は径約1mの範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。礫群は調査区境界部にあり、西側の調査区外へとさらに広がるものと考えられる。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

[出土遺物]礫群中には石皿1点(A1類)、磨・凹石類1点(A1類)、珪化木1点が含まれていた。

[時期]礫群下から後期中葉の土器が出土していることから、少なくとも後期中葉以降に構築されたものと考えられる。

SQ68(第12図、図版4)

[位置]MA51グリッドに位置する。

[検出状況]II層を10cmほど掘り下げたところ、扁平な大型礫4点が密接した状態で検出された。礫は径約0.5mの範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

[出土遺物]礫群中に礫石器などは含まれていなかった。

[時期]礫群下から時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本配石遺構の帰属時期は不明である。

SQ69(第12図)

[位置]MB51グリッドに位置する。

[検出状況]II層を10cmほど掘り下げたところ、大形礫2点と拳大の礫5点が密接した状態で検出された。礫は径約0.5mの範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

[出土遺物]礫群中には石皿1点(B1類)、磨・凹石類1点(A1類)、珪化木1点が含まれていた。

[時期]礫群下から時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本配石遺構の帰属時期は不明である。

SQ246(第12図、図版8)

[位置]MB53グリッドに位置する。

[検出状況]II層を10cmほど掘り下げたところ、大型礫3点と拳大の礫2点が密接した状態で検出された。礫群は径約0.5mの範囲内に収まり、大型礫により三角形状に組まれている。断ち割りも行つたが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

[出土遺物]礫群中には、石皿1点(B1類)、磨・凹石類1点(A3類)が含まれていた。

[時期]礫群下から時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本配石遺構の帰属時期は不明である。

SQ247(第12図、図版8)

[位置]MA52グリッドに位置する。

[検出状況]II層を10cmほど掘り下げたところ、人頭大および拳大の礫多数が密接した状態で検出された。礫群は南北約1.4m、東西約1mの楕円形の範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。断ち割りも行つたが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

[出土遺物]礫群中には、磨・凹石類4点(A1類3点・A3類1点)が含まれていた。

〔時期〕縄群下から後期前葉の土器(23図1など)が出土していることから、少なくとも後期前葉を過らない時期に構築されたものと考えられる。

3 挖立柱建物跡

調査区中央部においては柱痕跡の明瞭な柱穴が比較的多く分布しており、これらを中心に検討した結果、掘立柱建物跡の可能性が強い柱配置2か所を抽出することができた。調査区境界部に位置するため暫定的ではあるが、ここでは2棟の掘立柱建物跡と判断しておく。

S B296(第14図)

〔位置〕LR 46・47グリッドに位置する。

〔概要〕地表面(第IV層)で検出した柱穴様ピット3基(SKP27a・32・35)から成る。6本柱で構成される亀甲形平面の掘立柱建物跡と推測され、北東側に残り3本の柱穴が配置するものと考えられる。桁方向の幅は約3mを測り、棟方向では少なくとも4m以上の規模をもつ。

〔堆積土の特徴〕SKP27には明確な柱痕跡を確認することができた。他の柱穴は地山土塊を多く含む黒褐色土の単一層であった。

〔出土遺物〕SKP27aから縄文土器破片20点(18図19)・剥片3点、SKP32から縄文土器破片6点・剥片1点、SKP35から縄文土器破片27点・剥片3点が出土した。

〔時期〕SKP27出土の土器から、縄文時代晩期以降に帰属するものと考えられる。

S B297(第14図)

〔位置〕LS 48・49、LT 49グリッドに位置する。

〔概要〕地表面(第III層)およびSK58底面において検出した柱穴様ピット3基(SKP59・65・84)から成る。6本柱で構成される亀甲形平面の掘立柱建物跡と推測され、北東側に残り3本の柱穴が配置するものと考えられる。桁方向の幅は約3mを測るが、棟方向の規模は不明である。切り合い関係から、SK58・SKP195より古く、SK85・SKP87・194・287より新しい。

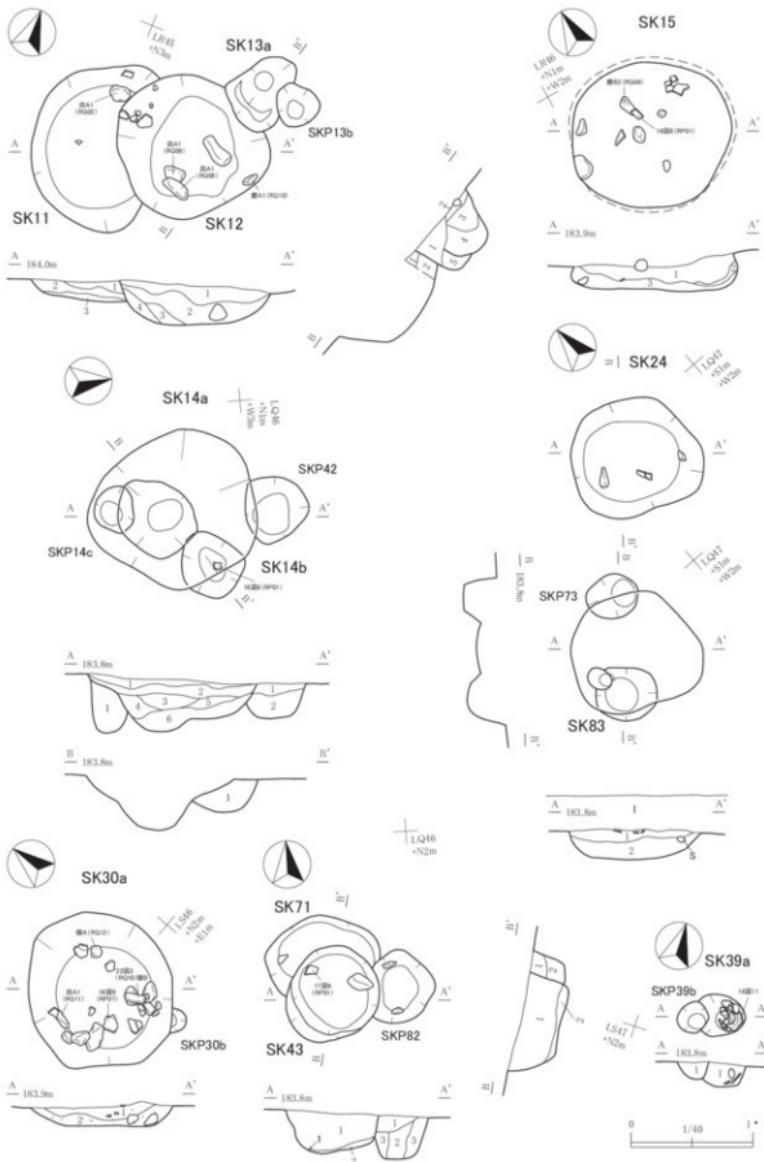
〔堆積土の特徴〕SKP65・84に明確な柱痕跡を確認することができた。SKP59は黒色土の単一層であった。

〔出土遺物〕SKP59から縄文土器破片34点(19図6・7)、SKP65から縄文土器破片18点(19図12・13)、SKP84から縄文土器破片22点・石匙1点(22図1)が出土した。

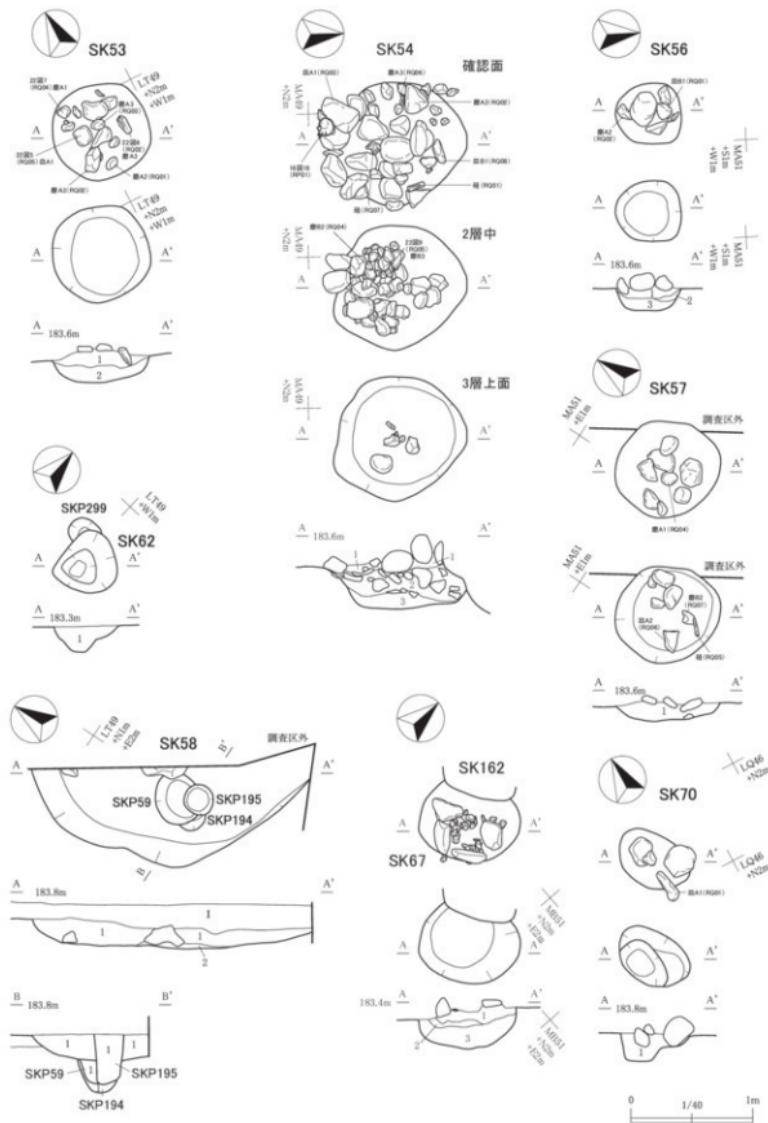
〔時期〕柱穴内出土の土器から、縄文時代後期中葉以降に帰属するものと考えられる。

4 柱穴様ピット

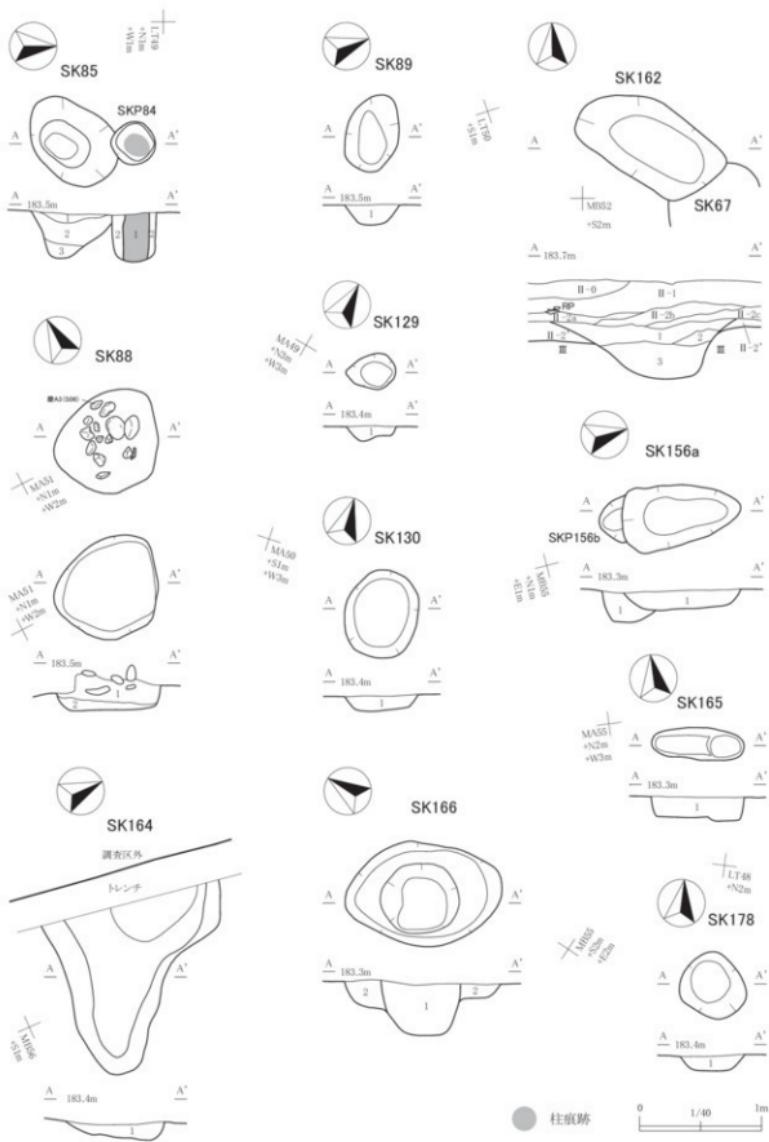
柱穴様ピットは調査区全域において214基検出した。柱穴様ピットの調査方法は、検出段階で柱痕跡の確認できたものは平面図と断面図を作成し、他は半截した後に土層を観察・記録し、平面図のみ作成した。第15図には柱痕跡や特異な遺物出土状況を確認したものを中心に掲載した。柱穴様ピット個々の位置・規模・出土遺物等については第3～5表に、土層については第7～9表に一覧を掲載した。



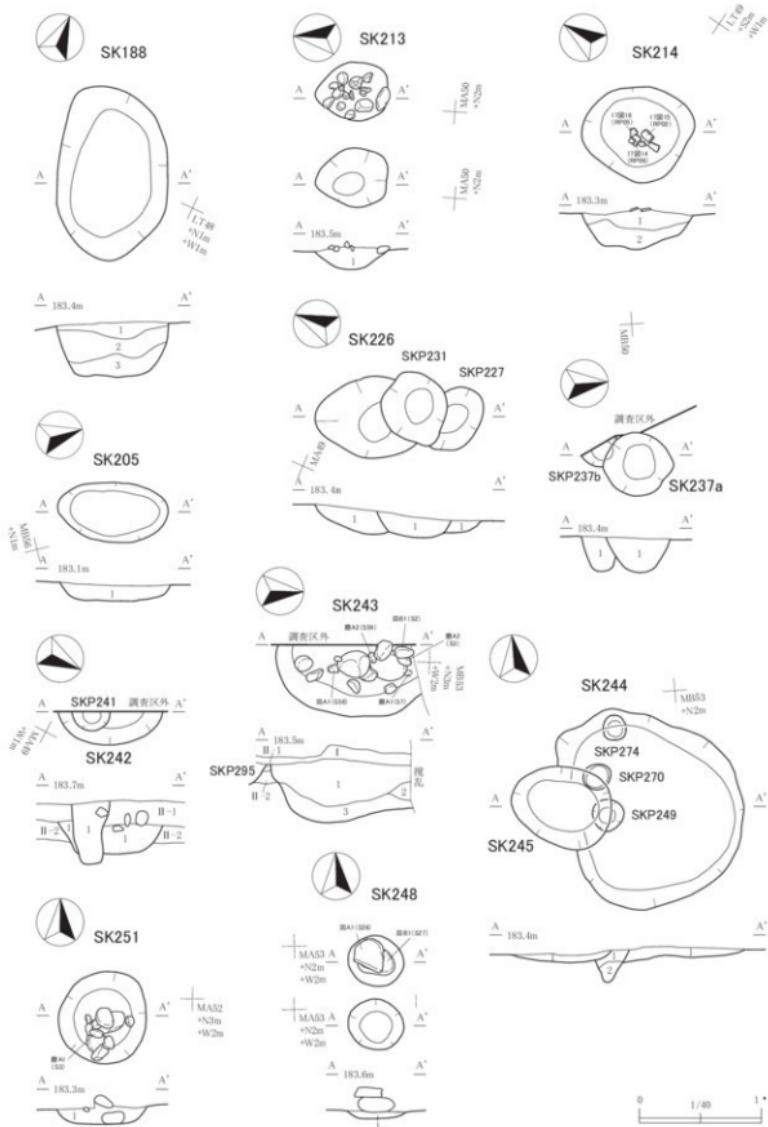
第8図 土坑(1) SK11・12・13a・14a・14b・15・24・30a・39a・43・71・83



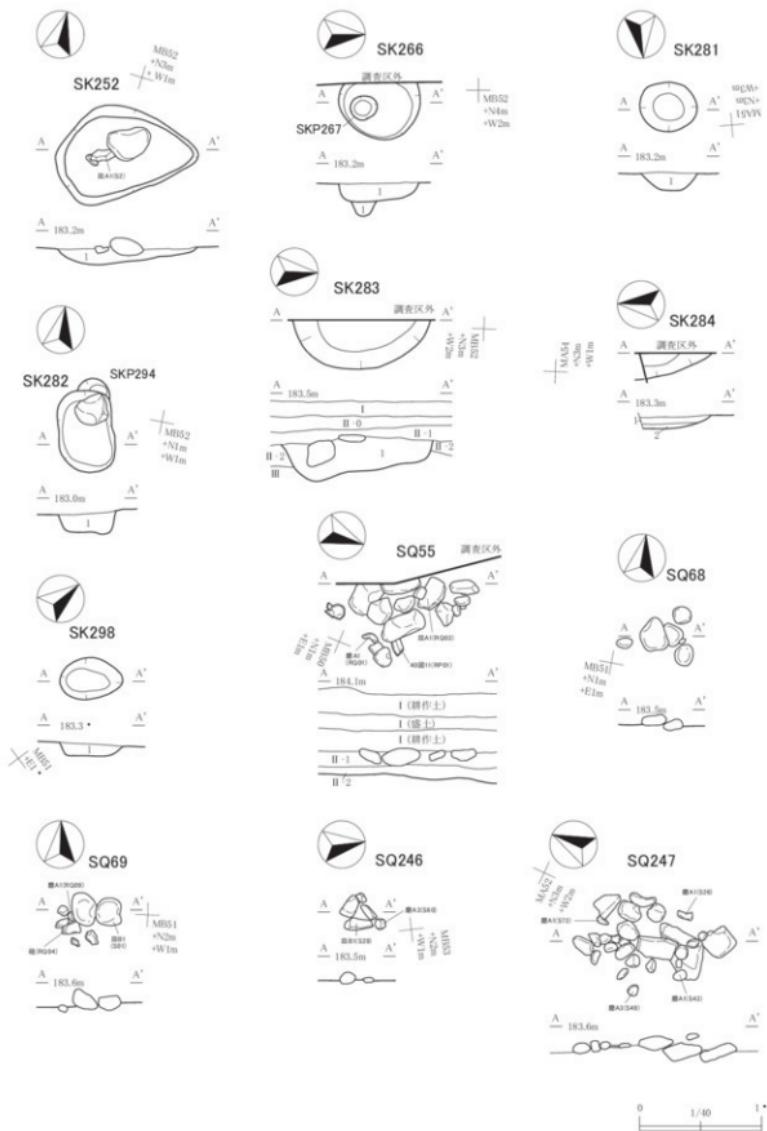
第9図 土坑(2) SK53・54・56・57・58・62・67・70



第10図 土坑(3) SK85・88・89・129・130・156a・162・164・165・166・178



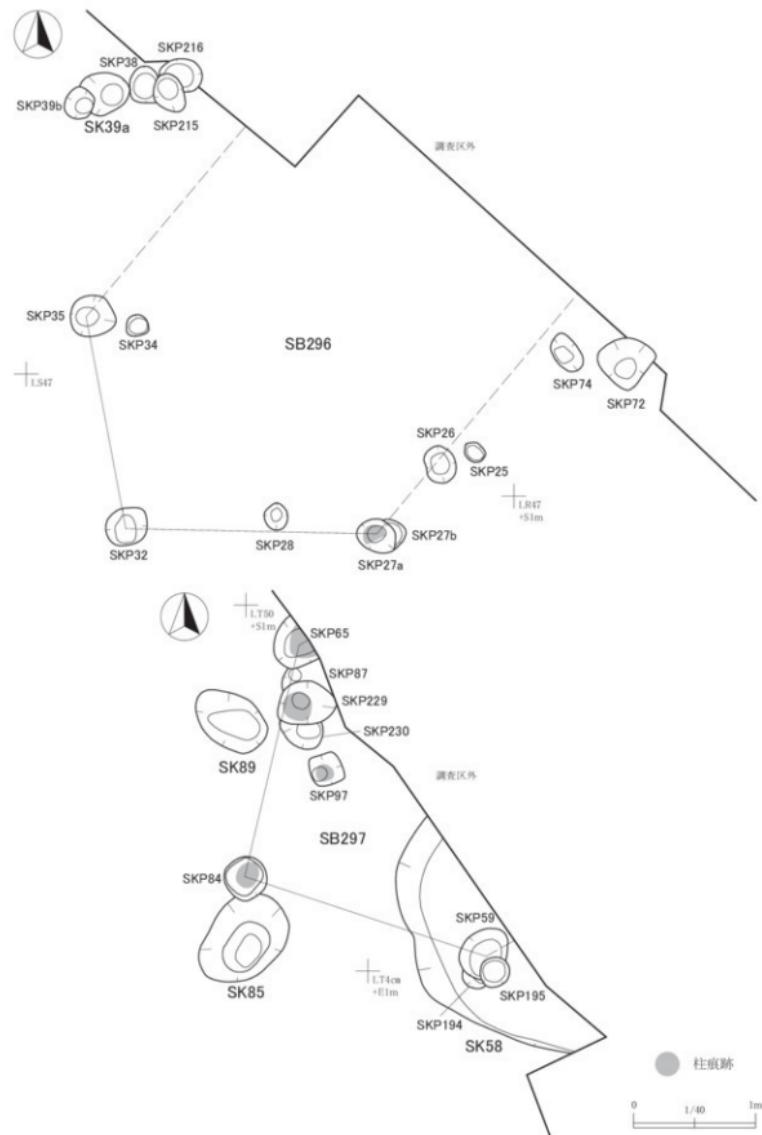
第11図 土坑(4) SK188・205・213・214・226・237・242・243・244・245・248・251



第12図 土坑(5) SK252・266・281・282・283・284・298 配石遺構(1) SQ55・68・69・246・247



第13図 配石遺構(2) SQ52



第14図 挖立柱建物跡 SB 296・297



第15図 柱穴様ビット

第3表 柱穴様ピット一覧(1)

No.	グリッド	確認面	黄径 (cm)	幅径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (cm)	重複関係(割>III)	時期	出土遺物(点数)	標識 番号	出土遺物箇所位置	
01	LP43・44	IV	24	24	38	183.650		晚期前葉以降	調27, 剣1, 砂1	15個	18回11・12	
02	LP44	IV	20	17	11	183.896		晚期前葉以降	調3		18回13	
03	LP44	IV	24	22	14	183.840		後期前葉以降	調9		18回14	
04	LP44	IV	25	20	58	183.456		晚期前葉以降	調7	15個	18回14・15	
05	LQ45	IV	21	20	9	183.636		後期前葉以降	調1		18回16	
06	LQ45	IV	26	25	32	183.412		後期前葉以降	調21, 砂1		18回17, 21回8	
07a	LQ45	IV	24	20	36	183.517	SKP07a>SKP07b	不明	調3, 剣2, 砂1	15個		
07b	LQ45	IV	28	(26)	11	183.769	SKP07a>SKP07b	不明		15個		
08	LQ45	IV	22	20	10	183.747	不明	調8, 剣1				
09a	LQ45	IV	29	(22)	18	183.587	SKP09a>SKP09b	後期前葉以降	調12, 砂1			
09b	LQ45	IV	32	18	14	183.611	SKP09a>SKP09a・41	不明				
10	LQ45	IV	21	18	14	183.572	不明	調4				
13b	LQ45	IV	38	34	41	183.357	SK13a>SKP13b	不明		8個		
14c	LQ45・46	IV	37	34	45	183.244	SK14a>SKP14c	不明		8個		
16	LR45	IV	20	18	12	183.742	—	不明	調4			
17	LR45	IV	24	20	19	183.665	—	不明	調2			
18	LR45	IV	17	16	8	183.896	—	不明	調4, 剣2			
19	LR45	IV	22	20	12	183.774	—	不明	調1			
21	LR46	IV	38	35	47	183.250	—	不明	調16, 剣1, 砂3, 砂3	15個		
22	LR46	IV	28	27	47	183.232	—	不明	調9, 剣1			
23	LQ45・46	IV	29	23	53	183.229	—	不明	調21, 剣2	15個		
25	LJ46	IV	18	15	19	183.462	—	不明	調5, 砂1		21回9	
26	LJ46	IV	31	25	43	183.243	—	晚期	調76, 剣1, 砂1	15個	18回18	
27a	LJ46	IV	34	26	49	183.205	SKP27a>SKP27b	晚期	調20, 砂3	15個	18回19	
27b	LJ46	IV	(28)	26	9	183.620	SKP27a>SKP27b	不明		15個		
28	LJ46	IV	22	19	11	183.605	—	不明	調1			
29	LJ46	IV	20	20	21	183.570	—	後期後葉以降	調10, 砂1, 剣2	18回20, 21回10		
30b	LJ46	IV	(27)	19	—	—	SK30a>SKP30b	不明		8個		
31	LJ46	IV	22	20	24	183.667	—	晚期前葉	調22, 砂1			
32	LJ46	IV	37	32	32	183.434	—	晚期以降	調6, 剣1			
34	LQ47	IV	20	19	7	183.647	—	不明				
35	LQ47	IV	38	35	45	183.276	—	不明	調27, 剣3			
37	LQ46	IV	20	16	18	183.719	—	不明	調4, 剣1			
38	LQ47	IV	30	22	41	183.201	SKP215>SKP38	後期後葉	調9	15個	18回21	
39b	LJ47	IV	26	23	14	183.592	SK39b>SK39a	不明		8個		
40	LQ47	IV	49	47	41	183.369	—	後期中葉	調48, 不1, 剣1, 砂1	15個	18回22・23, 19回1・2	
41	LQ45	IV	27	18	30	183.429	SKP096>SKP41	不明	調8, 剑1			
42	LQ46	IV	56	52	46	183.179	SK14a>SKP42	晚期中葉以降	調17, 砂1	8個	19回3	
44	LP・LQ45	IV	26	22	12	183.475	—	不明	調7			
47	LQ47	IV	43	37	53	183.261	—	晚期中葉	調110, 剣3, 直1, 砂1, 砂2	15個	19回4・5	
49	LQ48	IV	40	32	61	183.073	—	不明	調24, 剣1, 剣1		21回11	
51	LQ45	IV	IV	49	40	62	183.186	—	後期中葉以降	調68, 不1, 剑1, 砂1, 剑1, 砂2	15個	21回12
59	LQ49	SK58b(面)	(42)	34	34	183.007	SK58b, SKP195>SKP59>SKP194	後期中葉以降	調34, 砂1	9個	19回6・7	
61	L1T48	III	24	20	19	183.130	—	後期前葉以降	調8		19回8	
63	MA50	III	27	25	49	182.990	—	晚期以降	調16, 不1, 新1, 剑2, 砂1	15個	19回9, 21回13, 22回10	
64	MA49	III	23	22	19	182.953	—	後期前葉以降	調13		19回10・11	
65	LQ49	III	(54)	41	63	182.840	SKP65>SKP97	後期中葉以降	調18, 直2, 砂4	15個	19回12・13	
66	MA50	III	29	27	19	183.215	—	不明	調1			
72	LQ46・47	IV	46	43	31	183.782	—	不明				
73	LQ46	IV	42	36	17	183.434	SK24>SKP73・5	不明	調3, 剑1	8個		
74	LQ47	IV	34	22	33	183.268	—	不明				
26	L1T50	III	28	23	15	183.368	—	不明	調3			
77	L1T50	III	32	32	30	183.208	SKP77>SKP78	不明		15個		
28	L1T50	III	38	(34)	28	183.228	SKP72>SKP78	後期前葉以降	調7	15個	19回14	
79	L1T50	III	26	24	35	183.138	SKP90>SKP79	後期中葉以降	調13, 剑1	15個	19回15	
80	L1T50	III	26	23	54	182.948	SKP90>SKP79	後期中葉以降	調26, 剑2	15個	19回16	
81	L1T50	III	26	21	31	183.186	—	後期中葉以降	調18, 不1, 剑1		19回17	
82	LQ46	IV	60	46	36	183.193	SK43>SKP82>SK7	晚期中葉以降	調37, 剑1, 砂1	8個	19回18	
84	LS・LT149	III	37	35	41	183.080	SKP94>SKS5	後期中葉以降	調22, 直1, 砂1, 砂1	10個	19回19・20, 22回1	
86	L1T49	III	22	20	21	183.195	—	後期中葉以降	調21		19回21	
87	LQ49	III	(50)	(42)	49	182.979	SKP65・229>SKP87	不明	調18, 砂1	15個		
90	L1T49	III	17	14	—	—	—	不明	調3, 剑1			
91	L1T49	III	20	14	27	183.159	—	不明	調6, 砂1			
92	L1T49	III	22	20	21	183.195	—	不明	調11, 剑1			
93	L1T47	IV	37	30	19	183.262	—	不明	調11			
94	MA50	B-1	26	24	23	183.076	—	不明				
95	MA50	B-1	40	38	9	183.212	—	不明				
96	MA50	B-1	23	(30)	19	183.086	—	不明				
97	LQ49	III	32	30	30	183.154	—	不明				
98	LQ48	III	32	30	40	183.065	—	不明				
99a	LQ48	III	(24)	(18)	36	183.089	SKP99a>SKP99b>SKP99c>SKP100・5	不明				
99b	LQ48	III	(30)	(37)	28	183.169	SKP99a>SKP99b>SKP99c>SKP100・5	不明				
99c	LQ48	III	(32)	(24)	28	183.170	SKP99a>SKP99b>SKP99c>SKP100・5	不明				
100	LQ48	III	50	38	25	183.161	SKP99a>SKP99b>SKP99c>SKP100・5	不明	調25, 砂1			

第4表 柱穴様ピット一覧(2)

No.	グリッド	縦認面	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	重複関係(新>旧)	時期	出土遺物(点数)	辨認番号	出土遺物掲載位置
102	L.S. + T.49	III	16	15	34	183.113	—	不明	闕2		
103	L.T.49	III	18	17	20	183.113	—	不明	—		
104	L.T.49	III	26	24	27	183.148	—	不明	闕15, 新2, 旧1		
105	L.T.49	III	20	19	11	183.299	—	不明	闕9		
106	L.T.49	III	15	8	15	183.250	—	後期中葉以降	闕2		
107	L.T.49	III	21	20	27	183.149	—	不明	闕11, 新1	20回17	
108	L.T.49	III	12	11	21	183.128	—	不明	闕2		
109	L.T.49	III	28	22	25	183.188	—	後期中葉以降	闕8	19回22	
110	MA56	IV	20	29	40	182.650	—	不明	—		
111	MA56	IV	26	28	24	182.800	—	不明	闕1, 新1		
112	MA56	IV	(21)	29	52	182.356	SKP113>SKP112	不明	—		
113	MA56	IV	23	22	29	182.845	SKP113>SKP112	不明	—		
122	M056	IV	(37)	34	31	182.670	—	不明	闕2, 新1, 旧1		
123	L.S48	III	43	41	23	183.130	—	不明	—		
124	L.S48	III	40	40	29	183.056	SKP235>SKP124分	不明	—		
125	L.S48	III	50	30	33	182.996	SKP171>SKP125分	不明	—		
126	MA49	III	(28) (26)	14	183.183	—	不明	闕1, 新1			
131	L.T.49	III	38	33	14	183.191	—	不明	新1		
133	MA49	III	12	12	9	183.184	—	不明	闕3, 新1		
135	MA49	III	10	8	5	183.183	—	不明	闕2		
136	MA49	III	16	14	13	183.112	—	不明	—		
137	MA50	III	23	14	23	183.095	—	後期以降	闕10	19回23	
138	MA50	III	18	15	15	183.109	—	不明	闕2		
139	MA51	III	16	14	35	182.837	—	不明	新1		
140	MA51	III	18	18	6	183.065	—	不明	—		
141	MA51	III	13	11	14	182.971	—	不明	—		
142	MA51	III	10	10	14	182.973	—	不明	—		
143	MA51	III	23	21	39	182.706	—	不明	—		
144	MA50	III	22	17	25	183.148	—	後期中葉以降	闕12	19回24	
145	MA50	III	18	12	9	183.118	—	不明	—		
146	MA51	III	15	14	11	183.044	—	不明	闕2		
147	M051	III	19	19	18	182.878	—	不明	—		
148	M051	III	23	19	27	182.711	SKP148>SKP192	不明	闕1		
149	M050	III	29	14	15	183.071	—	不明	—		
150	M050	III	37	23	13	183.077	—	不明	—		
151	MA51	III	13	13	7	183.040	—	不明	—		
152	MA50	III	16	15	9	183.218	—	不明	新1		
153	MA50	III	21	21	10	183.106	—	不明	—		
154	MA55	III	40	38	43	182.776	—	後期中葉以降	闕9, 新1	19回25	
155	MA55	III	29	20	47	182.699	—	不明	—		
156b	MA55	III	(39) (34)	24	182.940	SK156a>SKP156b	不明	—		10回	
157	MA56	III	(62)	64	26	182.747	—	不明	—		
158	MA55	III	41	31	38	182.838	—	不明	—		
159	MA55	III	28	27	39	182.837	—	不明	—		
163	MA54	III	46	45	25	182.968	—	不明	闕3, 新1		
167	MA54 + 55	III	48	47	32	182.887	SKP167>SKP207	不明	—	15回	
169	MA55	III	36	32	11	183.053	—	不明	闕1		
170	MA55	III	24	20	14	183.018	—	後期中葉	闕38, 新1	19回26~28	
171	L.S + T.748	III	37	33	18	183.091	SKP171>SKP125分	不明	闕2		
172	L.S48	III	29	27	21	183.152	—	不明	闕6		
173	L.S48	III	16	15	12	183.212	—	不明	—		
174	L.T.48	III	50	44	16	183.152	SK174>SK175	不明	—		
175	L.S + T.748	III	47	(34)	22	183.091	SK174>SK175	不明	闕19		
176	L.T.48	III	(34)	23	23	183.062	SKP234>SKP177>SKP176	不明	闕2		
177	L.T.48	III	49	(28)	17	183.130	SKP234>SKP177>SKP176	不明	闕1		
181	L.T.48	III	31	28	25	183.038	—	不明	—		
184	L.T.48	III	(28)	21	12	183.254	SKP185>SKP184>SKP222分	不明	闕1		
185	L.T.48	III	32	28	10	183.221	SKP185>SKP184分	後期前葉以降	闕16	19回29	
186	L.T.48	III	14	13	19	183.127	—	不明	闕9		
187	L.T.48	III	14	10	8	183.121	—	不明	—		
191	L.T50	III	19	13	17	183.256	—	不明	—		
192	M051	III	(31)	22	33	182.748	SKP148>SKP192	不明	—		
193	MA50	III	24	14	20	183.203	—	後期中葉以降	闕5	19回30	
194	L.S48	III	(23)	(20)	21	183.140	SK58, SKP59 + 195>SKP194	不明	9回		
195	L.S48 + 49	III	24	20	183.140	SKP195>SK58, SKP59 + 194	不明	9回			
196	MA49	III	24	18	24	183.026	—	不明	闕2		
197	MA54	III	24	18	26	182.924	—	不明	—		
198	MA54	III	28	26	16	183.048	—	不明	闕3		
199	MA56	III	37	28	14	182.979	—	不明	—		
200	MA55	III	48	47	22	182.982	—	後期中葉	闕20	20回1・2	
202	MA55	III	(50)	41	15	183.181	—	不明	闕5, 新1	19回25	
203	MA55	III	36	30	32	182.854	—	不明	—		
204	MA56	III	57	34	40	182.812	—	不明	闕3, 不1		
206	MA56	IV	44	24	31	182.758	—	不明	—		

第5表 柱穴様ピット一覧(3)

No.	グリッド	確認面	黄径 (cm)	短径 (cm)	深径 (cm)	底面標高 (cm)	重複関係(割>III)	時期	出土遺物(点数)	標識 番号	出土遺物箇所位置
297	MA55	IV	(27)	22	16	183, 069	SKP167 > SKP207	不明		15個	
298	MA54	III	35	33	39	182, 826	—	不明			
299	MB54	III	42	40	27	182, 748	—	不明			
311	LT48	III	26	22	14	183, 118	—	後期中葉	調2	20個3	
312	LS48	III	16	11	37	182, 955	—	不明			
315	LR47	IV	34	24	39	183, 205	SKP215 > SKP208 + 216	不明		15個	
316	LR47	IV	35	26	47	183, 129	SKP215 > SKP216	後期中葉以降	調12, 箱1	15個	185個21, 205個4, 22個2
317	LT50	III	29	20	27	183, 116	—	不明			
318	LT49	III	28	24	31	183, 054	—	不明			
321	LT48	III	24	20	18	183, 046	—	不明			
322	LT48	III	(20)	18	7	183, 326	SKP184 > SKP222δ+	不明			
323	LT48	III	26	24	24	182, 914	—	不明	調1		
325	LT50	III	20	16	12	183, 210	—	不明	調1		
327	LT48	III	68	(39)	10	183, 018	SK231 > SK226, SKP227δ+	—		11個	
328	MB50	III	(41)	(34)	15	183, 102	—	不明			
329	LS49	III	47	35	40	183, 062	SKP229 > SKP187 + 230	不明		15個	
330	LS49	III	37	(28)	45	183, 005	SKP229 > SKP230	不明		15個	
331	LT48	III	63	53	21	183, 023	SK231 > SK226, SKP227δ+	—		11個	
333	LT47	III	25	22	13	183, 227	—	不明			
334	LT48	III	26	21	—	—	SKP234 > SKP177 > SKP176	不明			
335	LS48	III	49	35	15	183, 191	SKP235 > SKP124δ+	不明			
336	LT49	III	32	30	26	183, 144	—	不明	調7		
337	MA49	III	(37)	(32)	27	183, 055	SKP237a > SKP237b	後期中葉以降	調3, 箱1	11個	20個5
338	LT48	III	35	32	20	182, 918	—	不明			
341	MA49	III	(31)	30	12	183, 098	SKP241 > SK242	後期中葉以降	調8	11個	20個6
349	MB53	II-1	26	15	16	183, 038	SK245 > SKP249 > SK244	不明		11個	
350	MA + MB53	II-1	40	37	6	183, 225	—	後期中葉以降	調5		
353	MA52	III	22	19	19	182, 986	—	不明	調2		
354	MA52	III	16	12	9	183, 081	—	不明	調1		
355	MA52	III	12	11	11	183, 061	—	後期中葉以降	調8		20個7
356	MA52	III	24	24	11	182, 996	—	不明	調22		20個8
357	MB52	III	19	19	19	182, 887	—	不明	調7		
358	MA52	III	15	15	10	183, 156	—	不明			
359	MA51	III	29	16	11	183, 100	—	不明			
360	MA51	III	18	15	13	183, 019	—	不明	調1		
361	MA52	III	27	(24)	12	182, 893	SKP262 > SKP261	不明	調1		
362	MA52	III	25	23	12	182, 890	SKP262 > SKP261	不明			
363	MB52	III	27	24	10	182, 872	—	不明			
364	MB52	III	39	28	25	182, 725	—	不明	調6		
365	MB52	III	16	13	10	182, 955	—	不明			
367	MB52	III	30	20	17	182, 750	SK266 > SKP267	後期中葉以降	調8, 箱1, 箱2	12個	20個9, 22個12
368	MB52	III	28	26	10	182, 890	—	不明			
369	MA52	III	22	16	17	182, 059	—	不明			
370	MB53	III	24	22	19	182, 901	SK245 > SK244 > SKP270	後期中葉以降	調7	11個	20個10
371	MA2 + 53	III	23	20	19	182, 846	—	後期中葉以降	調15, 不1, 調4		20個11~13
372	MA53	III	21	20	9	183, 152	—	不明			
373	MA53	III	28	28	9	183, 045	—	不明			
374	MB53	III	20	19	19	182, 908	SK244 > SKP270 + 274	不明		11個	
375	MB53	III	20	17	26	182, 880	—	不明	調4, 調1		
376	MA53	III	18	17	14	183, 028	—	後期中葉以降	調2		
377	MA + MB53	III	13	10	11	183, 035	SKP250 > SKP277 + 278	不明			
378	MB53	III	27	24	11	183, 040	SKP250 > SKP277 + 278	後期中葉以降	調11, 調1		20個14
379	MB53	III	14	12	13	183, 025	—	不明			
380	MA54	III	18	18	11	183, 051	—	不明	調1		
385	MA54	III	26	22	11	183, 041	—	不明			
386	MA54	III	24	20	24	182, 923	—	不明	調8, 調1		
387	MA54	III	22	21	19	183, 000	—	不明	調14, 調2, 調1		
388	MA53	III	46	37	23	182, 945	—	不明	調9		
389	MA54	III	(24)	(18)	7	182, 965	—	不明	調6, 調1		
390	MB53 + 54	III	36	27	17	182, 985	—	不明			
391	MB54	III	(38)	(23)	18	182, 886	—	不明	調1, 原4		
392	MB51	III	28	25	11	182, 790	—	不明			
393	MB51	III	32	32	13	182, 795	—	不明			
394	MB52	III	(26)	26	26	182, 642	SKP282 > SKP294	後期中葉以降	調1, 箱1	12個	20個15
395	MB53	III	48	(42)	23	183, 120	—	不明			
399	LT48	III	(28)	(22)	—	—	SK62 > SKP299	不明		9個	

柱穴様ピット一覧凡例

①「長他」・「短他」が切り合ひなどにより不明の場合、()内に推定値を示した。

②「深葉」・「底面標高」が記録漏れにより不明の場合、「-」で示した。

③「出土遺物」の種類については、以下のようになし記入した。

調査上文字：「縫」、石棒：「縫」、石芯：「芯」、不定形石器：「不」、剥片：「剝」、残核：「核」、石重：「重」、磨・回転石器：「磨」、石棒：「棒」、有孔石製品：「孔」、絹化木：「絹」。

第6表 遺構土層注記一覧(1) 土坑

施号	hs	層位	土色	記号	土種	粒性	組成	面人物
SK	11	1	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	±	炭化物粒(径1~10mm)5%, 地山粒(径1mm)2%
		2	黒褐色	10VR3/3	Sil	+	+	炭化物粒(径1~10mm)7%, 地山粒・塊(径1~10mm)2%
		3	黒褐色	10VR3/3	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)2%, 塵土(径1~10mm)5%
SK	12	1	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	±	炭化物粒(径1~5mm)3%, 地山粒・塊(径2~10mm)15%
		2	黒褐色	10VR2/1	Sil	+	+	炭化物粒(径1~5mm)10%, 地山塊(径10~50mm)25%
		3	黒褐色	10VR2/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1~2mm)2%, 地山粒(径2~10mm)2%
SK	13a	4	黒褐色	10VR3/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm以下)1%, 地山塊(径5~10mm)10%
		1	オリーブ褐色	3Y3/1	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)5%
		2	赤褐色	2.5Y3/1	Sil	++	±	炭化物粒(径1mm)5%
SK	14a	3	黒褐色	10VR3/1	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)5%, 地山塊(径5~10mm)15%
		4	黒褐色	2.5Y3/1	L	±	+	地山塊(径5~10mm)50%
		5	黒褐色	10VR3/1	Sil	(+)	(-)	
		6	暗青灰褐色	5BG4/1	L	-	-	地山色土(径5%)
		7	-	-	-	(-)	(-)	-
SK	14b	1	灰色	8Y1/1	L	±	++	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径2~10mm)40%
		2	オリーブ褐色	3Y3/1	Sil	++	±	地山粒(径5mm)13%
SK	15	3	灰色	8Y1/1	L	+	+	炭化物粒(径1mm)1%
		4	黒褐色	10VR3/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)5%, 地山塊(径30mm)40%
SK	24	5	灰黃褐色	10VR4/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)20%, 地山塊(径5mm)2%, 小礫(径20mm)微量
		6	黒褐色	10VR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)1%, 地山塊(径2~5mm)20%
SK	36a	7	灰褐色	10VR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)15%, 小礫(径10~20mm)微量
		8	黒褐色	10VR2/2	L	+	+	地山塊(径10mm)
SK	39a	9	黒褐色	10VR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1~2mm)5%, 地山塊(径5~10mm)5%
		10	黒褐色	10VR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)20%, 小礫(径5~20mm)2%
SK	43	11	暗褐色	10VR3/1	Sil	±	-	炭化物粒(径1mm)15%, 地山塊40%
		12	黒褐色	10VR3/2	L	—	—	炭化物粒, 磐(径5~15mm)15%
SK	53	13	黒褐色	10VR2/2	Sil	—	—	炭化物粒(径1mm)5%
		14	黒褐色	10VR3/2	L	—	—	炭化物粒(径1~5mm)3%
SK	54	15	黒褐色	10VR2/2	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)5%
		16	黒褐色	10VR3/1	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)1%, 地山塊(径5mm)10%, 地山粒(径5mm)1%
SK	56	17	灰黃褐色	10VR4/2	Sil	+	+	地山塊(径30mm)17%
		18	灰褐色	10VR2/2	Sil	+	+	地山塊(径5~10mm)5%
SK	57	19	灰褐色	10VR4/3	SAC	++	+	なし
		20	灰褐色	10VR4/3	SAC	++	+	炭化物粒(径3mm)1%
SK	58	21	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)2%
		22	黒褐色	10VR2/2	Sil	(-)	(-)	
SK	62	23	黒褐色	10VR3/2	Sil	±	+	炭化物粒(径2~5mm)2%, 地山塊(径10~20mm)10%
		24	暗オリーブ褐色	2.5Y3/1	L	++	+++	なし
SK	67	25	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	なし
		26	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
SK	70	27	オリーブ褐色	5GY5/1	Sil	+	+	なし
		28	1	黒褐色	10VR3/1	Sil	+	+
SK	71	29	褐色	10VR4/1	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
		30	褐色	10VR4/1	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)2%
SK	72	31	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)10%
		32	黒褐色	10VR2/2	Sil	(-)	(-)	
SK	83	33	オリーブ褐色	10Y3/1	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)2%, 地山塊(径10~20mm)10%
		34	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)5%
SK	85	35	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	地山塊(径5mm)5%
		36	黒褐色	10VR2/1	Sil	+	+	なし
SK	88	37	灰褐色	10VR4/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)2%
		38	黒褐色	10VR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)2%
SK	89	39	暗褐色	10VR3/2	SAC	++	+	地山塊(径20mm)
		40	暗褐色	10VR3/2	Sil	—	—	炭化物粒(径1mm)1%
SK	129	41	黒褐色	10VR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径10~30mm)11%, 地山塊(径40~50mm)17%
		42	黒褐色	10VR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径10~15mm)7%, 地山塊(径10mm)10%
SK	130	43	黒褐色	10VR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)1%, 地山塊(径10mm)3%
		44	黒褐色	10VR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
SK	162	45	黒褐色	10VR2/1	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)3%
		46	灰褐色	10VR4/2	Sil	++	+	なし
SK	164	47	黒褐色	10VR2/3	L	—	—	炭化物粒(径1mm)1%
		48	黒褐色	10VR3/3	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
SK	166	49	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)20%
		50	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)20%
SK	178	51	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)20%
		52	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)20%
SK	188	53	黒褐色	10VR3/1	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)5%
		54	灰褐色	10VR4/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径5~10mm)10%
SK	205	55	黒褐色	10VR3/2	Sil	—	—	炭化物粒(径1mm)7%
		56	黒褐色	10VR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)3%
SK	214	57	黒褐色	10VR3/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)20%, 地山塊(径5~10mm)15%
		58	灰褐色	10VR4/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径10~30mm)10%
SK	226	59	黒褐色	10VR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)5%
		60	黒褐色	10VR3/2	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)2%
SK	237a	61	褐色	10VR4/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)1~2%
		62	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)10%
SK	242	63	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径5~10mm)1%
		64	黒褐色	10VR3/1	Sil	—	—	炭化物粒(径1mm)10%
SK	243	65	黒褐色	10VR2/2	HC	++	+	なし
		66	黒褐色	10VR2/2	SAC	++	+	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径5~20mm)10%
SK	244	67	黒褐色	10VR2/2	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)2%
		68	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
SK	245	69	黒褐色	10VR3/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)1%
		70	黒褐色	10VR2/2	Sil	—	—	炭化物粒(径1mm)1%
SK	248	71	黒褐色	10VR2/2	Sil	—	—	炭化物粒(径1mm)1%
		72	黒褐色	10VR2/2	Sil	±	+	地山塊(径1~10mm)10%
SK	251	73	黒褐色	10VR2/1	Sil	±	+	炭化物粒(径1mm)3%, 地山塊(径1~10mm)10%
		74	黒褐色	10VR2/2	SAC	++	+	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径1~10mm)10%
SK	252	75	黒褐色	10VR2/2	HC	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
		76	黒褐色	10VR3/2	HC	++	+	炭化物粒(径1mm)10%, 地山塊(径10~30mm)10%
SK	266	77	黒褐色	10VR2/2	SAC	++	+	炭化物粒(径1mm)1%
		78	黒褐色	10VR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)2%
SK	281	79	黒褐色	10VR2/2	SAC	++	+	炭化物粒(径1mm)2%

第7表 遺構土層記一覧(2) 土坑・柱穴様ピット

番号	No.	部位	土色	記号	土性	粘性	細末率	固入部
SK	282	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	+	±	炭化物粒(径1~5mm)2%, 地山塊(径5~10mm)12%
SK	283	1	黒褐色	10VR2/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~5mm)11%, 地山塊(径5~10mm)11%
SK	284	2	黒褐色	10VR2/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~3mm)1%, 地山塊(径1~5mm)1%
SK	298	1	黒褐色	10VR2/1	Sil.	++	+	炭化物粒(径5mm)3%
SKP	1	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	++	++	炭化物粒(径3mm)5%
SKP	1	2	黒褐色	10VR3/2	Sil.	+	+	地山粒(径3mm)5%
SKP	2	1	黒褐色	10VR2/3	Sil.	+	+	炭化物粒(径1mm)5%, 地山塊(径2~5mm)10%
SKP	3	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~5mm)5%, 地山塊2%
SKP	4	1	黒褐色	10VR2/3	Sil.	+	++	炭化物粒(径1~3mm)2%, 地山塊(径30mm)30%
SKP	5	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	±	++	炭化物粒(径1~5mm)3%, 地山塊(径1~2mm)5%
SKP	6	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~2mm)2%, 地山塊(径1~5mm)2%
SKP	7a	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~2mm)2%, 地山塊(径5~10mm)10%
SKP	7b	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	++	炭化物粒(径2~5mm)3%, 地山塊(径5~10mm)10%
SKP	8	1	黒褐色	10VR2/3	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~2mm)1%, 地山塊(径2~5mm)7%
SKP	9a	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径10~30mm)20%, 地山塊(径20~10mm)30%
SKP	9b	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径5~20mm)17%, 地山塊(径8~10mm)16%
SKP	10	1	黒褐色	10VR2/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径1mm)2%, 地山塊(径2~5mm)10%
SKP	13b	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	14c	1	暗青灰色	5Gv4/1	L.	±	±	炭化物粒(径1~2mm)1%, 小礫(径5~10mm)微量
SKP	16	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	±	±	炭化物粒(径2~5mm)3%
SKP	17	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	+	±	炭化物粒(径2~5mm)2%, 地山塊(径10~30mm)10%
SKP	18	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径3~5mm)2%, 地山塊(径3~5mm)3%, 小礫(径30mm)微量
SKP	19	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~2mm)1%, 地山塊(径5~10mm)27%
SKP	21	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径3~5mm)3%, 地山塊(径10~30mm)40%
SKP	22	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	++	+	炭化物粒(径1~10mm)2%, 地山塊(径10~20mm)10%
SKP	23	2	暗紺茶色	7.Gv4/4	Sil.	++	—	炭化物粒(径3~5mm)2%, 地山塊(径20mm)30%
SKP	24	3	暗青灰色	5Gv4/1	Sil.	+	—	なし
SKP	25	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~2mm)2%, 地山塊30%
SKP	26	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	++	+	炭化物粒(径1~3mm)2%, 地山塊(径10~20mm)7%
SKP	27a	2	—	10VR3/2	Sil.	++	+	炭化物粒(径3mm)2%, 地山塊(径10~30mm)10%
SKP	27b	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	28	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	++	炭化物粒(径1~2mm)3%, 地山塊(径5~10mm)5%, 砂土粒(径1~2mm)1%
SKP	29	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~2mm)1%, 地山塊(径5~10mm)2%
SKP	30b	1	黒褐色	—	—	(—)	(—)	—
SKP	31	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	+	±	炭化物粒(径2~5mm)10%, 地山塊(径5~5mm)10%
SKP	32	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径2~5mm)10%, 地山塊(径5~10mm)10%
SKP	34	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~2mm)10%, 地山塊(径5~10mm)10%
SKP	35	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~2mm)1%, 地山塊(径5~10mm)10%
SKP	37	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~3mm)2%, 地山塊(径30~50mm)20%
SKP	38	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~5mm)2%
SKP	39b	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	+	+	地山塊(径10~30mm)15%
SKP	40	2	暗褐色	10VR3/2	Sil.	±	++	炭化物粒(径3mm)5%
SKP	40	3	黒褐色	10VR2/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~3mm)5%
SKP	4	4	黒褐色	10VR2/3	Sil.	±	++	炭化物粒(径5mm)5%, 地山塊(径15mm以下)20%
SKP	41	1	暗緑色	7.Gv4/4	Sil.	++	—	炭化物粒(径3~5mm)5%
SKP	42	1	暗緑色	5Gv3/1	Sil.	++	—	なし
SKP	44	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~2mm)3%, 地山塊(径1~2mm)5%
SKP	47	2	暗緑色	10VR3/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径3~5mm)2%
SKP	49	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	+	+	地山塊(径2~20mm)10%
SKP	51	2	黒褐色	10VR3/2	Sil.	+	+	炭化物粒(径5~10mm)5%, 地山塊(径5~20mm)5%
SKP	3	3	黒褐色	10VR3/2	Sil.	++	+	地山塊(径5~8mm)10%
SKP	59	1	黒褐色	10VR1/7,1	Sil.	+	—	なし
SKP	61	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	63	1	黒褐色	10VR1/7,1	Sil.	+	—	炭化物粒(径1~5mm)10%
SKP	64	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	地山塊(径20~30mm)5%
SKP	65	1	黒褐色	10VR2/2	L.	±	++	炭化物粒(径5~10mm)15%, 地山塊(径20mm以下)7%
SKP	66	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	±	~++	炭化物粒(径1mm)中量, 砂(径10~20mm)少量
SKP	67	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	68	1	オリーブ黒色	7.Gv3/1	Sil.	+	+	地山塊(径10mm)20%
SKP	74	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	76	1	黒褐色	10VR2/3	Sil.	+	+	炭化物粒(径1~2mm)2%, 地山塊(径3~8mm)3%
SKP	77	2	暗緑色	10VR3/1	Sil.	±	~++	炭化物粒(径1~3mm)中量, 砂(径20~30mm)少量
SKP	77	3	暗緑色	10VR4/1	Sil.	±	+	なし
SKP	77	4	黒褐色	7.Gv3/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径1~3mm)中量
SKP	77	4	黒褐色	7.Gv2/1	Sil.	~++	+	炭化物粒(径1~3mm)中量
SKP	78	1	黒褐色	10VR3/1	Sil.	±~+	~++	炭化物粒(径1~3mm)中量, 砂(径20~30mm)少量
SKP	79	1	黒褐色	10VR3/1~7.Gv3/1	Sil.	±	++	炭化物粒(径1~3mm)中量, 砂(径10~30mm)少量
SKP	80	1	黒褐色	7.Gv3/1	Sil.	+	++	炭化物粒(径1mm)多量, 砂(径20~30mm)少量
SKP	81	1	黒褐色	10VR3/2	Sil.	±	+	炭化物粒(径2~5mm)3%
SKP	82	1	暗灰黑色	2.Gv3/2/1	Sil.	+	+	炭化物粒(径1mm)5%, 地山塊5%
SKP	82	2	暗灰黑色	N.3/1	Sil.	+	+	炭化物粒(径1mm)5%, 地山塊20%
SKP	83	3	暗緑色	10Gv4/1	Sil.	±	+	黑色(粒5mm)10%
SKP	84	2	にごり黒褐色	10VR3/4	Sil.	±	+	炭化物粒(径5mm)15%
SKP	86	1	黒褐色	10VR2/2	Sil.	++	++	炭化物粒(径10mm)12%
SKP	87	1	暗褐色	10VR3/3	L.	++	—	地山塊1%
SKP	90	1	黒褐色	10VR2/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径5mm)10%
SKP	91	1	黒褐色	10VR2/1	Sil.	±	+	炭化物粒(径5mm)10%
SKP	92	1	暗褐色	10VR3/3	L.	—	—	炭化物粒(径5mm)5%
SKP	93	1	黒褐色	10VR1/7,1	Sil.	++	±	なし

第8表 遺構土層注記一覧(3) 柱穴様ピット

地番	No.	層位	土色	記号	1枚	粘性	礫より	面入物
SKP	94	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	++	+	炭化物粒(径3~5mm)中量
SKP	95	1	黒褐色～黒色	10YR3/1~2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1~10mm)中量
SKP	96	2	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径1mm)中量
SKP	97	1	黒色	10YR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径10mm)10%
SKP	98	1	黒色	2.5Y2/1	Sil	+	+++	なし
SKP	99a	1	黒色	2.5Y3/1	Sil	±	±	なし
SKP	99b	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	99c	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	100	1	黑色	2.5Y2/1	L	++	—	なし
SKP	102	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	±	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径3~10mm)2%
SKP	103	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	±	±	炭化物粒(径1~3mm)2%、地山塊(径5~10mm)2%
SKP	104	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径1mm)10%、小礫多量
SKP	105	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	±	±	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径5~10mm)2%
SKP	106	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	±	+	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径5~10mm)2%
SKP	107	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	±	±	炭化物粒(径1~10mm)3%、地山塊(径3~5mm)2%
SKP	108	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	+	+	炭化物粒(径3~5mm)3%
SKP	109	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	+	±	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径2~5mm)3%
SKP	110	1	黒褐色	10YR2/1	Sil	±	—	炭化物粒(径5mm以下)1%
SKP	111	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径5mm以下)15%、地山塊(径30mm)10%
SKP	112	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	113	1	—	—	—	(—)	(—)	—
SKP	122	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	+	±	炭化物粒(径2~5mm)2%
SKP	124	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)2%
SKP	125	1	黒褐色	10YR2/1	Sil	+	±	炭化物粒(径2~5mm)5%
SKP	126	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径2~10mm)3%、地山塊40%
SKP	131	2	黒褐色	10YR3/1	Sil	++	+	炭化物粒(径2~10mm)3%、地山塊(径100mm)40%
SKP	133	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)2%
SKP	135	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	±	炭化物粒(径3~5mm)2%
SKP	136	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物塊(径10~20mm)15%、地山塊(径30mm)7%
SKP	137	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	+	±	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径2~5mm)5%
SKP	138	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径3~5mm)3%、地山塊(径10~20mm)20%
SKP	139	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	±	±	炭化物塊(径10~20mm)3%、地山塊(径10~20mm)15%
SKP	140	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径10~20mm)10%
SKP	141	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	++	+	炭化物粒(径3~5mm)5%、地山塊(径10mm)10%
SKP	142	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)15%、地山塊(径5mm)2%
SKP	143	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径2~5mm)15%、地山塊(径5mm)2%
SKP	144	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)2%、地山塊(径10~20mm)40%
SKP	145	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径2~10mm)3%、地山塊(径30mm)7%
SKP	146	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径2~5mm)5%
SKP	147	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	+	炭化物粒(径2~5mm)3%、地山塊(径2~10mm)5%
SKP	148	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)2%、地山塊(径20~30mm)30%
SKP	149	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)3%、地山塊(径10~20mm)10%
SKP	150	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	±	±	炭化物粒(径3~5mm)15%、地山塊(径10~20mm)5%
SKP	151	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)1%、地山塊(径30~40mm)20%
SKP	152	1	黒褐色	10YR2/1	Sil	±	+	炭化物粒(径3~10mm)2%
SKP	153	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	±	±	炭化物粒(径3~10mm)3%、地山塊(径40~50mm)30%
SKP	154	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	++	炭化物粒(径2~10mm)7%、地山塊(径2mm)2%
SKP	155	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)2%
SKP	156	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)1%以下
SKP	157	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	—	炭化物粒(径2~5mm)1%
SKP	158	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径2~5mm)1%以下
SKP	159	1	黒褐色	10YR3/3	SAC	++	±	炭化物粒(径1mm)1%未満
SKP	163	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径3~10mm)5%
SKP	167	2	黒褐色	10YR3/3	Sil	—	+	炭化物粒(径3~10mm)1%
SKP	167	2	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	—	炭化物粒(径3~10mm)1%
SKP	169	1	黒褐色	10YR2/3	L	—	+	炭化物粒(径3~10mm)30%
SKP	170	1	黒褐色	10YR3/2~2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径3~5mm)30%
SKP	171	1	黒褐色	10YR4/1	Sil	++	±	炭化物粒(径3~5mm)5%
SKP	172	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	++	±	炭化物粒(径3~5mm)3%、地山塊(径20~30mm)15%
SKP	173	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	±	±	炭化物粒(径3~10mm)3%、地山塊(径10~20mm)10%
SKP	174	2	皮膚色	10YR3/1	Sil	++	+	炭化物塊(径10~20mm)15%
SKP	175	1	黒褐色	10YR2/1	Sil	+	+	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	176	1	オリーブ黒色	SY3/1	Sil	++	±	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	177	1	オリーブ黒色	SY3/1	Sil	++	±	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	181	1	オリーブ黒色	SY3/1	Sil	++	±	なし
SKP	184	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	±	+	炭化物粒(径3~5mm)5%
SKP	185	1	黒土	10YR2/1	Sil	+	+	炭化物粒(径10~20mm)10%
SKP	186	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	187	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	+	±	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	191	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	±	+	炭化物塊(径10~20mm)2%、地山塊(径20~30mm)5%
SKP	192	1	黒褐色	10YR3/1	Sil	±	±	炭化物粒(径3~10mm)1%
SKP	193	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	+	+	炭化物粒(径3~5mm)2%、地山塊(径20~30mm)10%
SKP	194	1	黒褐色	10YR1/1	Sil	++	+	炭化物粒(径3~10mm)10%
SKP	195	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	++	—	炭化物粒(径6mm)5%
SKP	196	1	黒褐色	10YR3/2	Sil	++	+	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	197	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	—	なし
SKP	198	1	黒褐色	10YR2/2	SAC	++	—	炭化物粒(径3~10mm)7%
SKP	199	1	黒褐色	10YR2/3	L	—	±	炭化物粒(径3~10mm)1%
SKP	200	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	+	±	炭化物粒(径3~10mm)2%
SKP	202	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	—	炭化物粒(径3~10mm)5%
SKP	203	1	黒褐色	10YR2/3	Sil	++	+	炭化物粒(径3~10mm)3%
SKP	204	1	黒褐色	10YR2/2	Sil	++	+	炭化物粒(径3mm)1%

第9表 造構土層注記一覧(4) 柱穴様ピット

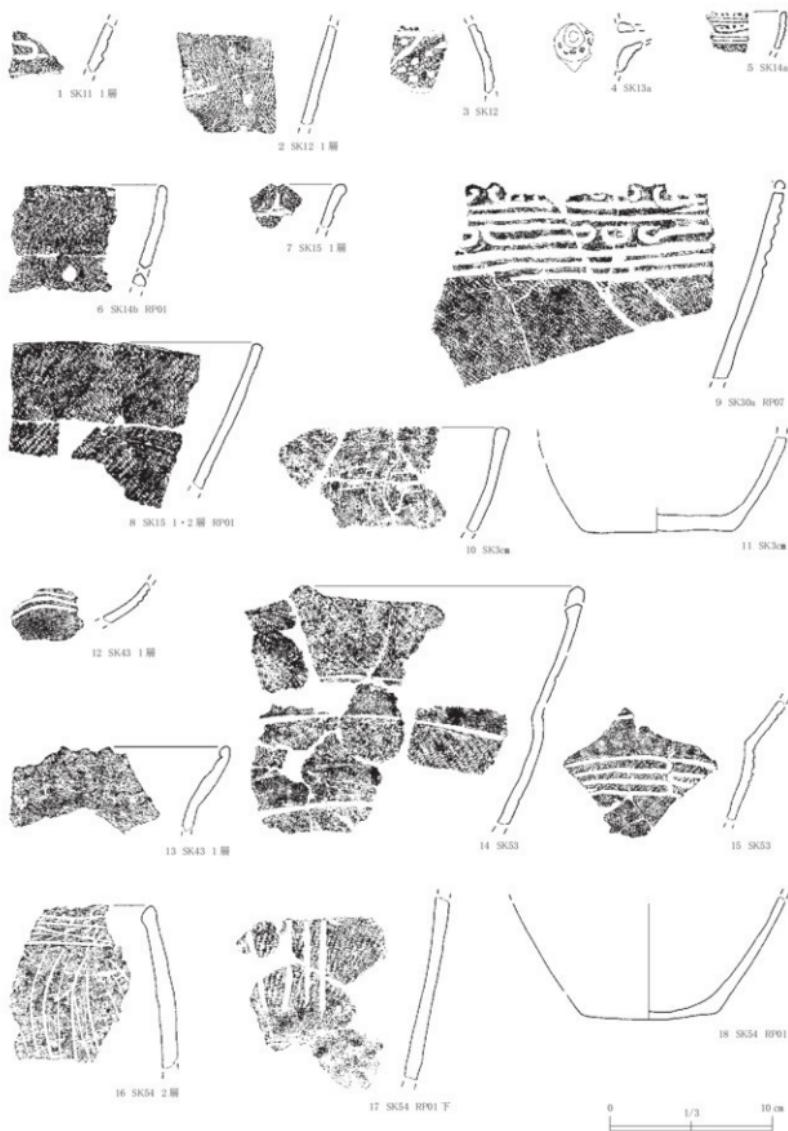
地号	No.	層位	土色	記号	土性	粘性	碎末率	固有物
SKP_206	1	黒褐色	10V32/3	Sil	+	+	炭化物鉱(径5mm)1%	
SKP_207	1	黒褐色	10V32/3	Sil	±	+	炭化物鉱(径2mm)1%	
SKP_208	1	黒褐色	10V32/2	Sil	++	+	炭化物鉱(径5~10mm)12%	
SKP_209	1	黒褐色	10V32/3	Sil	+	+	炭化物鉱(径5~10mm)12%	
SKP_211	1	黒褐色	10V33/1	Sil	+	+	炭化物鉱(径2~5mm)1%，地山粒(径2~5mm)5%	
SKP_212	1	黒褐色	10V33/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%	
SKP_215	1	黒褐色	10V32/3	Sil	+	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山塊(径10~20mm)3%	
SKP_216	1	黒褐色	10V32/2	Sil	+	+	炭化物鉱(径3~5mm)2%	
SKP_217	1	—	—	—	(—)	(—)	(—)	
SKP_218	1	黒褐色	10V32/2	Sil	±	+	炭化物鉱(径5~10mm)3%，地山塊(径5~10mm)2%	
SKP_221	1	オリーブ灰色	2.5GY5/1	Sil	+	+	なし	
SKP_222	2	オリーブグリーン灰色	2.5GY6/1	Sil	+	+	なし	
SKP_223	1	—	—	—	(—)	(—)	(—)	
SKP_223	1	オリーブ灰色	2.5GY5/1	Sil	+	+	なし	
SKP_225	1	黒褐色	10V32/2	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山塊(径10~20mm)12%	
SKP_227	1	黒褐色	10V32/1	Sil	+	+	なし	
SKP_228	1	黒褐色	10V32/2	Sil	+	+	炭化物鉱(径3~10mm)2%，地山塊(径10~20mm)16%	
SKP_229	1	—	—	—	(—)	(—)	(—)	
SKP_230	1	—	—	—	(—)	(—)	(—)	
SKP_231	1	黒褐色	10V32/2	Sil	+	+	炭化物鉱(径1~3mm)3%	
SKP_233	1	灰黃褐色	10V42/2	Sil	+	+	炭化物鉱(径2~3mm)1%	
SKP_234	1	褐灰褐色	10V34/1	Sil	+	—	地山塊(径10~20mm)3%	
SKP_235	1	黒褐色	10V32/1	Sil	+	+	炭化物鉱(径3~5mm)5%	
SKP_236	2	黒褐色	2.5Y3/2	Sil	+	+	なし	
SKP_237	1	灰黃褐色	10V42/2	Sil	+	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山塊(径10~20mm)11%	
SKP_2370	1	—	—	—	(—)	(—)	(—)	
SKP_238	1	褐灰褐色	10V34/1	Sil	+	+	炭化物鉱(径5mm)5%	
SKP_241	1	黒色	10V22/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径10mm)15%	
SKP_249	1	黒色	10V32/2	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%	
SKP_250	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)3%	
SKP_253	1	黒色	10V22/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~3mm)2%	
SKP_254	1	黒色	10V22/1	Sil	—	++	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_255	1	黒色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_256	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~2mm)1%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_257	1	黒色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~5mm)3%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_258	1	黒色	10V22/1	Sil	+	+	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~5mm)1%	
SKP_259	1	黒色	10V22/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~5mm)1%	
SKP_260	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~2mm)1%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_261	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~2mm)1%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_262	1	黒色	10V22/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~2mm)1%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_263	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_264	1	黒褐色	10V32/2	Sil	++	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山塊(径1~10mm)5%	
SKP_265	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~2mm)1%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_267	1	灰褐色	10V42/1	HC	+++	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径3~5mm)3%	
SKP_268	1	黒褐色	10V22/1	Sil	±	—	炭化物鉱(径1~2mm)2%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_269	1	黒褐色	10V32/2	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山粒(径1~3mm)1%	
SKP_270	1	黒褐色	10V32/2	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山粒(径2~5mm)3%	
SKP_271	1	黒色	10V31/7/1	Sil	±	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~2mm)1%	
SKP_272	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	++	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径~3mm)2%	
SKP_273	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_274	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	++	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_275	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~2mm)1%，地山粒(径1~10mm)10%	
SKP_276	1	黒褐色	10V31/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)5%	
SKP_277	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)3%	
SKP_278	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)5%	
SKP_279	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	++	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~2mm)1%	
SKP_280	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)3%	
SKP_285	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	++	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)2%	
SKP_286	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山粒(径1~15mm)10%	
SKP_287	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~10mm)5%	
SKP_288	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径~5mm)5%	
SKP_289	1	黒褐色	10V32/1	Sil	—	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%，地山粒(径~5mm)3%	
SKP_290	1	黒褐色	10V32/1	Sil	+	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径~5mm)5%	
SKP_291	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径1~5mm)1%	
SKP_292	1	黒褐色	10V32/1	Sil	±	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山塊(径5~10mm)3%	
SKP_293	1	黒褐色	10V32/1	Sil	++	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径~5mm)2%	
SKP_294	1	黒褐色	10V32/1	Sil	++	—	炭化物鉱(径1~3mm)1%，地山粒(径~5mm)2%	
SKP_295	1	黒色	10V32/1	Sil	±	+	炭化物鉱(径1~3mm)2%	
SKP_299	1	—	—	—	(—)	(—)	(—)	

造構土層注記一覧凡例

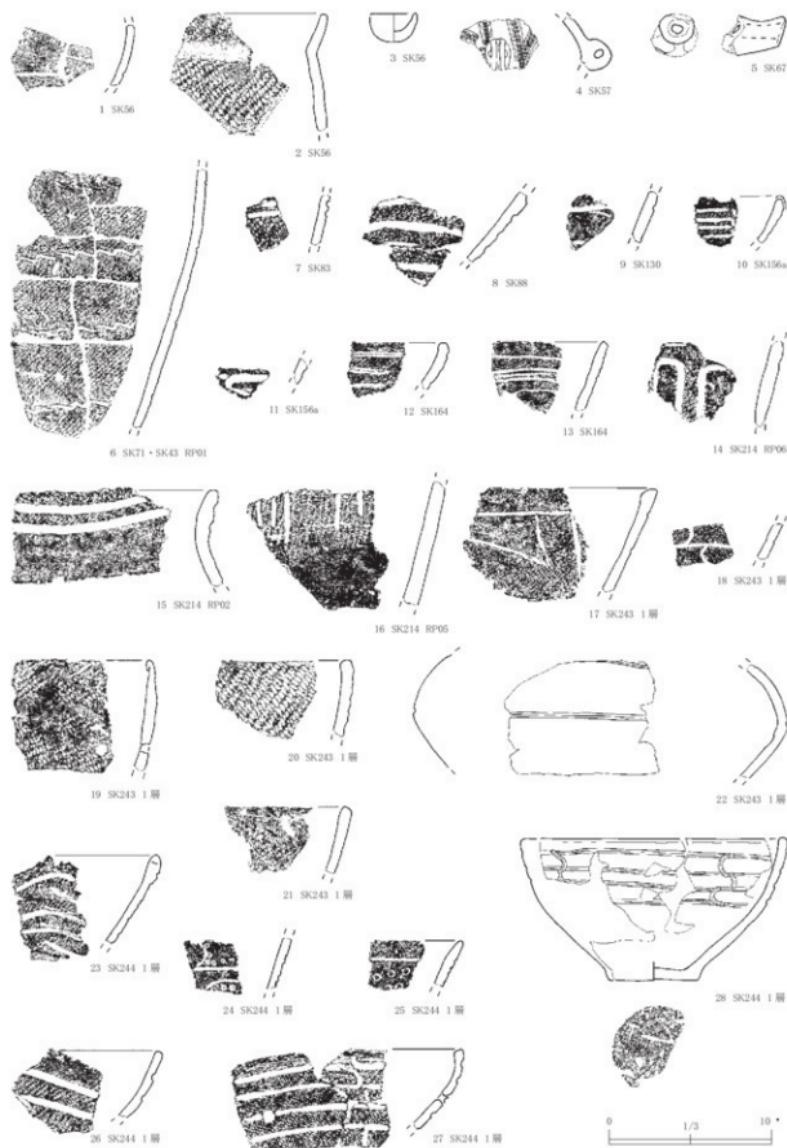
※1 「土色」・「土性」の表記は、新版標準上色誌(農林水産省農業水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、2003)による。

※2 「粘性」・「碎末率」の表記は複数の強い方から順に、++→+→++→±→—→—の記号を用いて示した。

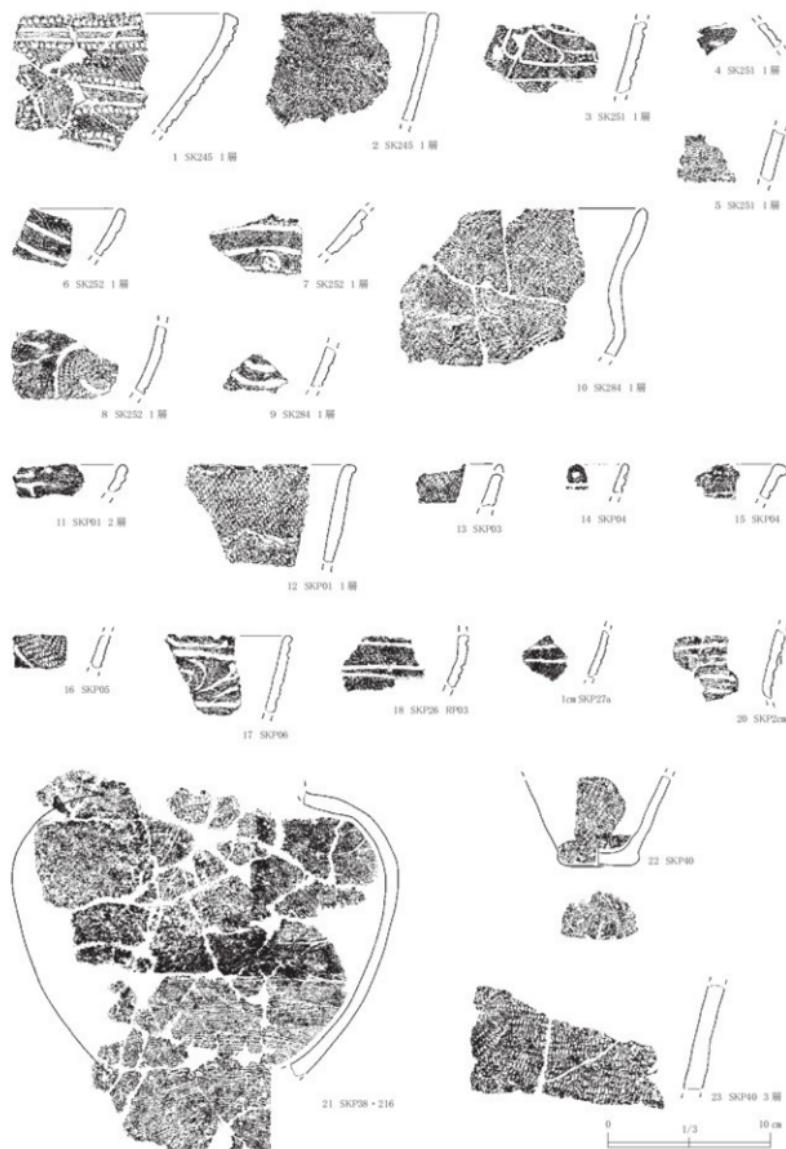
※3 記録欄に限り不明の場合、「—」もしくは「(—)」の記号を用いて示した。



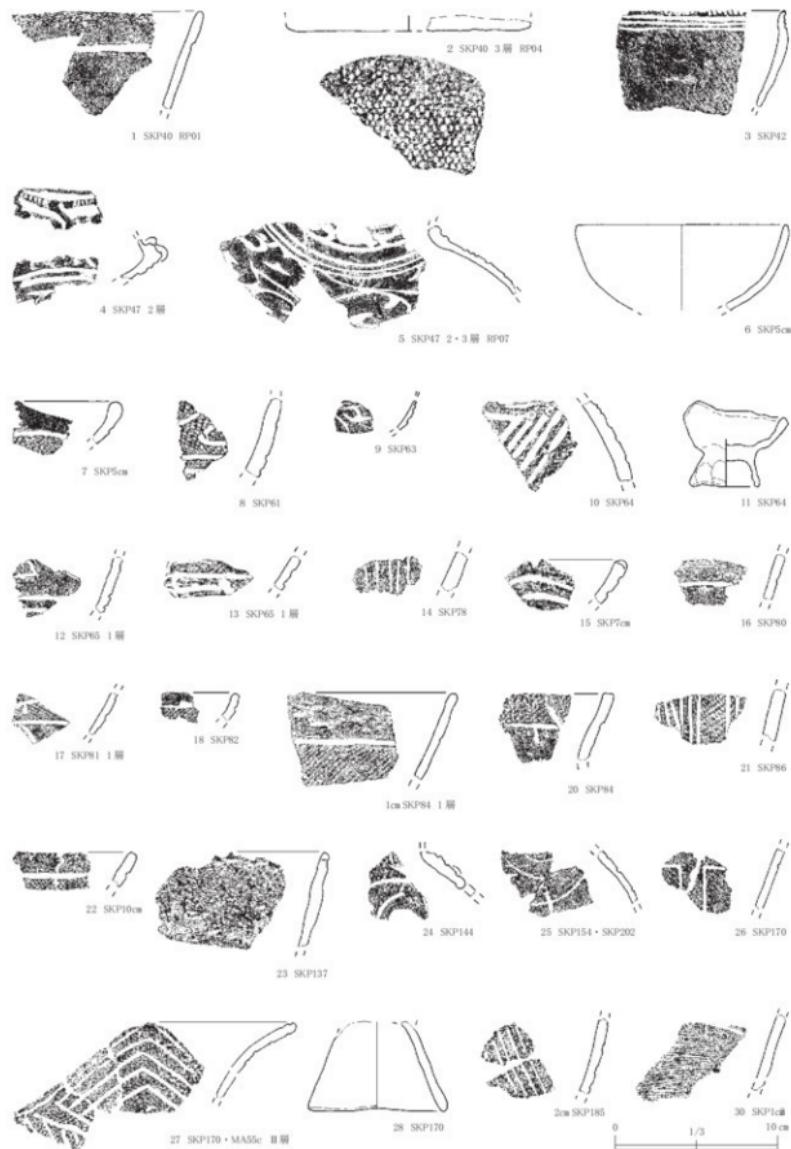
第16図 遺構内出土縄文土器(1)



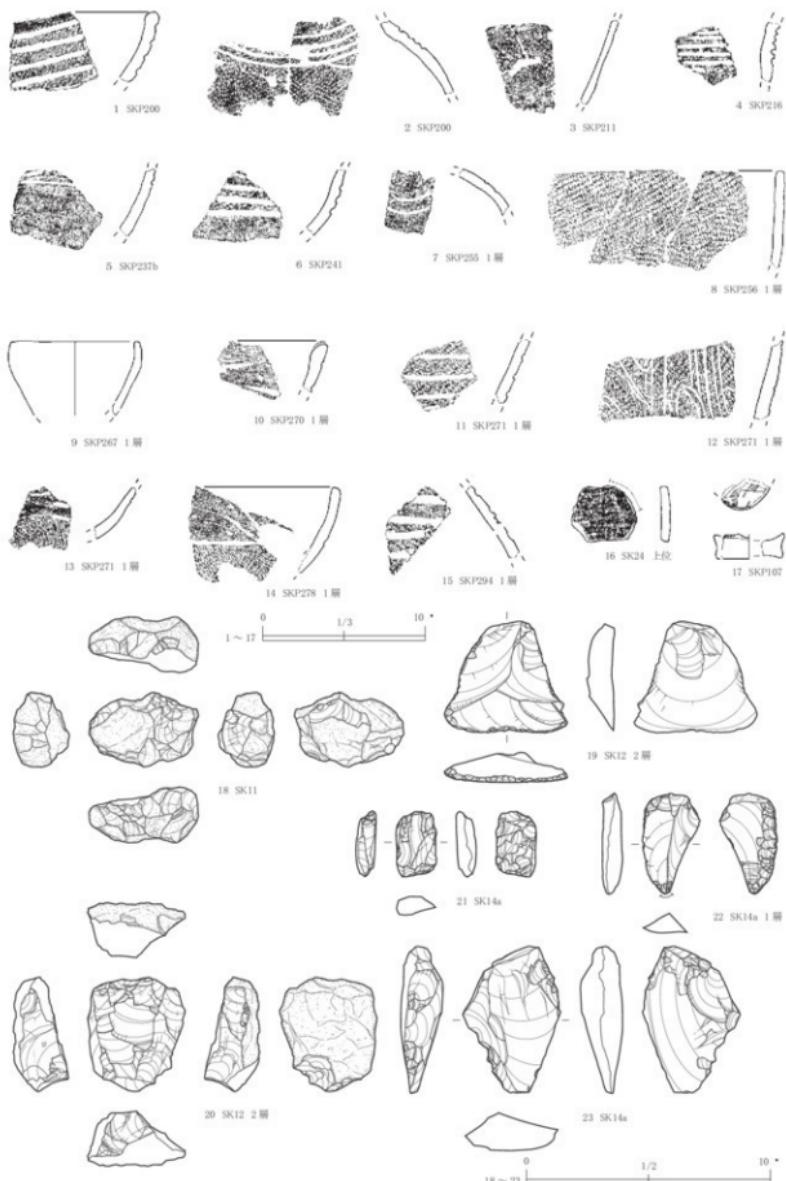
第17図 遺構内出土縄文土器(2)



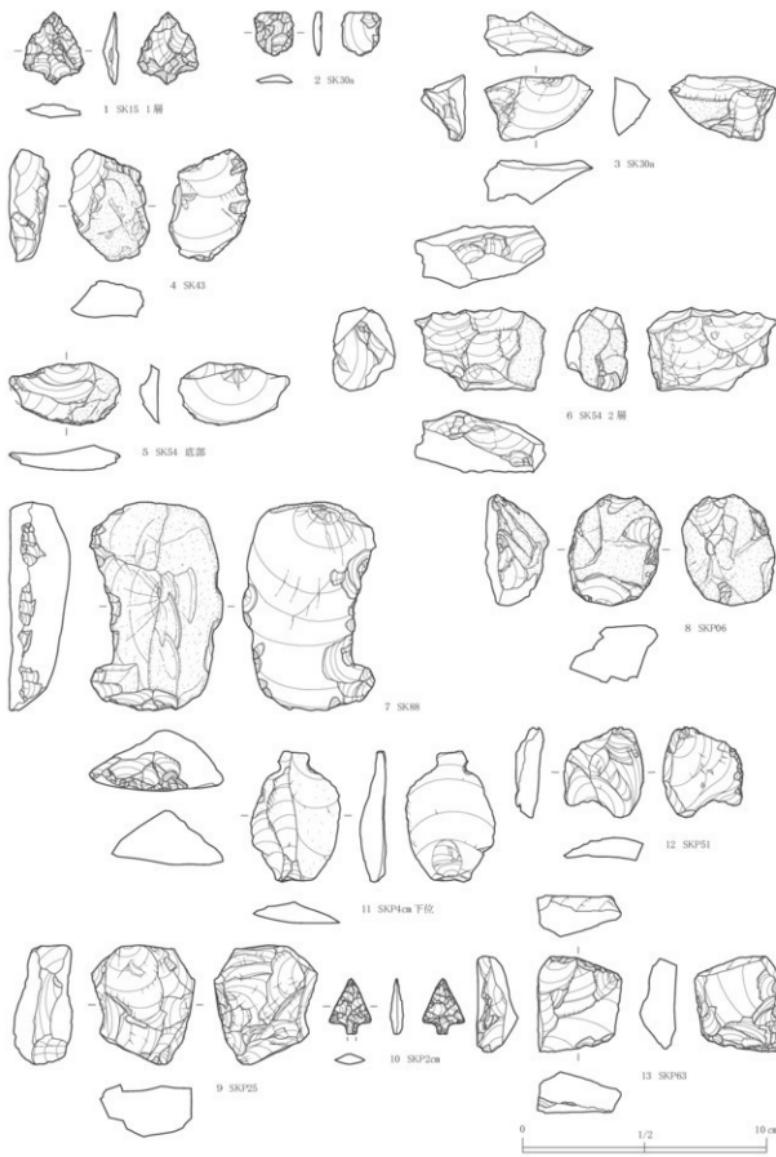
第18図 遺構内出土繩文土器(3)



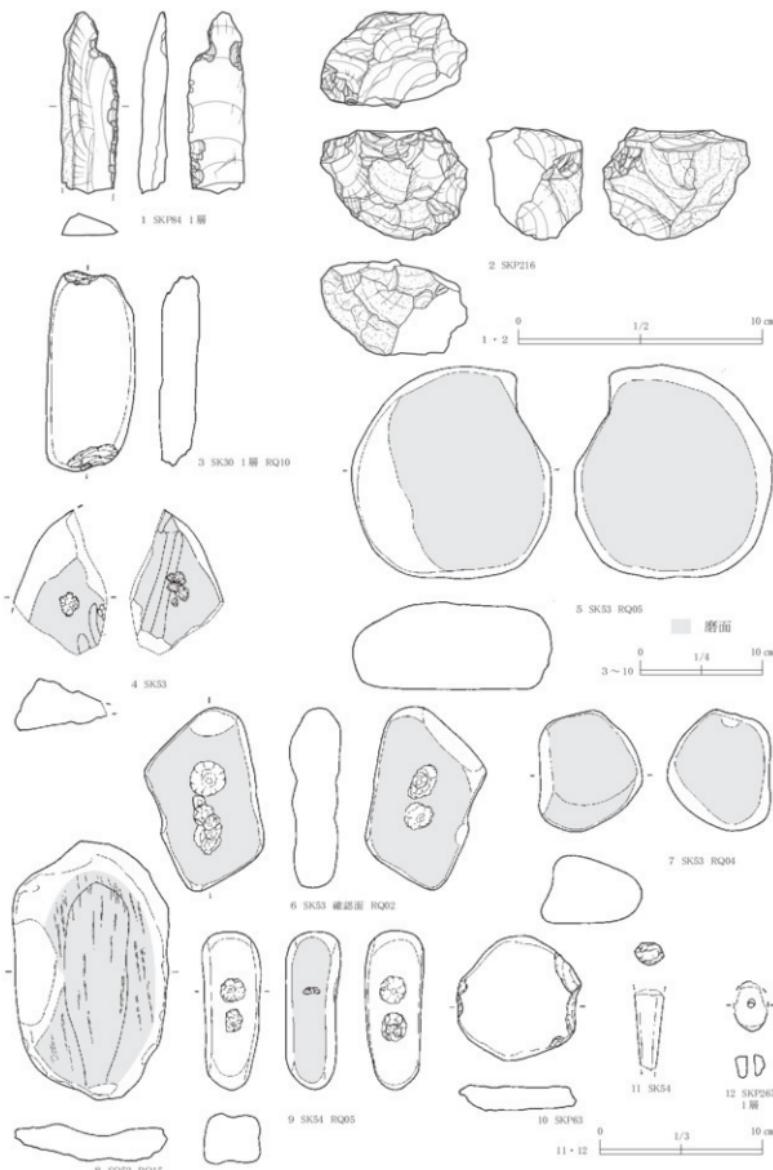
第19図 遺構内出土繩文土器(4)



第20図 遺構内出土縄文土器(5)、土製品、剥片石器類(1)



第21図 遺構内出土剥片石器類(2)



第22図 遺構内出土剥片石器類(3)、礫石器類、石製品

第10表 遺構内出土土器・土製品一覧(1)

測定番号	同梱番号	鉢形	底径	分類	出土遺物	出土層位	取上番号	備考(サイズ・施文様体・痕跡(孔・付着物等))
16041	9	深鉢	鉢底	II群1期	SK11	1層		縦文: 単面R.R横
16042	9	深鉢	鉢底	II群4期	SK12	1層		縦面状工具
16043	9	深鉢	鉢底	II群4期	SK12			縦文: 単面L.R横
16044	9	注口	口縁部	口縁部	SK13a			
16045	9	鉢	口縁部	IV群	SK14a			縦文: 単面R.R横
16046	9	深鉢	口縁部	IV群	SK14b		RP01	縦文: 単面L.R横 総修孔あり
16047	9	深鉢	口縁部	IV群	SK15	1層		縦文: 単面R.R横
16048	9	深鉢	口縁部	IV群	SK15	1層	RP01	縦文: 単面L.R横
16049	9	深鉢	口縁部	IV群	SK36a		RP07	縦文: 単面R.R横
16050	9	深鉢	口縁部	I群1期	SK39a			
16051	9	深鉢	底部	IV群	SK39			直径8.7cm
16052	9	深鉢	鉢底	IV群	SK43	1層		
16053	9	深鉢	口縁部	IV群	SK43	1層		
16054	9	深鉢	口縁部	II群1期	SK53			縦文: 単面R.R横
16055	9	深鉢	口縁部	II群1期	SK53			縦文: 単面L.R横
16056	9	深鉢	口縁部	I群1期	SK54	2層		
16057	9	深鉢	口縁部	I群1期	SK54		RP01下	縦文: 単面R.R横
16058	9	深鉢	底部	I群?	SK54		RP01	直径8.2cm
17781	9	深鉢	鉢底	III群	SK56			
17782	9	深鉢	口縁部	II群2期	SK56			縦文: 単面L.R横
17783	9	小鉢	口縁部～底部	V群	SK56			口径2.8・底径0.8・高さ1.8cm 舟形
17784	9	鉢?	鉢底	III群	SK57			
17785	9	注口	注口部	II群?	SK67			
17786	9	深鉢	鉢底	IV群	SK71		RP01	縦文: 単面L.R横(末端底部)
17787	9	深鉢	鉢底	IV群	SK83			縦文: 単面L.R横
17788	9	深鉢	鉢底	II群1期	SK88			縦文: 単面L.R横
17789	9	深鉢	鉢底	II群3期	SK130			縦文: 単面L.R横
17790	9	深鉢	鉢底	II群3期	SK156a			縦文: 单面L.R横
17791	9	深鉢	鉢底	II群1期	SK156a			縦文: 单面L.R横
17792	9	深鉢	鉢底	II群1期	SK164			縦文: 单面L.R横
17793	9	深鉢	鉢底	II群6期	SK164			縦文: 单面L.R横
17794	9	深鉢	鉢底	II群2期	SK214		RP06	縦文: 单面L.R横
17795	9	深鉢	鉢底	II群2期	SK214		RP02	縦文: 单面L.R横
17796	9	深鉢	鉢底	I群1期	SK214		RP05	縦文: 单面R.R横
17797	9	深鉢	鉢底	II群1期	SK243	1層		縦文: 单面R.L.R.組、非結束茎状 入組済状況内光隙
17798	9	深鉢	鉢底	II群3期	SK243	1層		縦文: 单面R.L.R.組
17799	9	深鉢	鉢底	II群7期	SK243	1層		縦文: 单面R.L.R.組 総修孔あり
17800	9	深鉢	鉢底	II群7期	SK243	1層		縦文: 单面R.L.R.組
17801	9	深鉢	鉢底	II群5期	SK243	1層		縦文: 单面L.R.R.組 非結束状
17802	9	深鉢	鉢底	II群4期	SK245	1層		縦文: 单面R.L.R.組
17803	9	深鉢	鉢底	II群5期	SK245	1層		縦文: 单面R.L.R.組
17804	9	鉢?	鉢底	II群4期	SK251	1層		縦文: 单面R.L.R.組 外面部赤彩
17805	9	深鉢	鉢底	II群8期	SK251	1層		縦面状工具
17806	9	深鉢	口縁部	III群	SK252	1層		縦文: 单面R.R横
17807	9	深鉢	鉢底	II群1期	SK252	1層		縦文: 单面R.R横
17808	9	深鉢	鉢底	II群3期	SK252	1層		縦文: 单面R.R 区画内充填
17809	9	深鉢	鉢底	II群2期	SK284	1層		縦文: 单面R.R横
17810	9	深鉢	口縁部	II群7期	SK284	1層		縦文: 单面R.R横
17811	9	浅鉢	口縁部	IV群	SKP91	2層		
17812	9	深鉢	口縁部	IV群	SKP91	1層		縦文: 单面R.R横(末端底部)
17813	9	深鉢	口縁部	III群	SKP93			縦文: 单面R.R横 口縁部小突起あり
17814	9	深鉢	口縁部	IV群	SKP94			
17815	9	深鉢	口縁部	IV群	SKP94			口縁部突起
17816	9	深鉢	鉢底	II群3期	SKP95			縦文: 单面L.R. 区画内充填
17817	9	深鉢	口縁部	IV群	SKP96			
17818	9	深鉢	口縁部	IV群	SKP96		RP03	縦文: 单面R.R横
17819	9	深鉢	口縁部	IV群	SKP72a			縦文: 单面R.R横
17820	9	深鉢	鉢底	III群	SKP72b			沈面間にコブ點付
18021	10	壺	肩～鉢底	皿群	SKP98			縦面状工具
					SKP216			
18022	10	深鉢	底部	II群7期	SKP40			縦文: 单面L.R横 底面凹状
18023	10	深鉢	底部	II群7期	SKP40	3層		縦文: 单面L.R横
18024	10	深鉢	口縁部	III群6期	SKP40		RP01	縦文: 单面L.R横
18025	10	深鉢	底部	II群7期	SKP40		RP04	底面側凹状
18026	10	壺	口縁部	IV群	SKP42	2層		縦文: 单面R.R横 口縁部凹
18027	10	壺	肩部	IV群	SKP47	2層		縦文: 单面R.R横
18028	10	壺	肩部	IV群	SKP47	3層	RP07	外面部赤彩
18029	10	壺	口縁部	II群	SKP59			口径(13.1)cm 外面部赤彩
18030	10	深鉢	口縁部	II群1期	SKP59			縦文: 单面L.R横
18031	10	深鉢	鉢底	II群2期	SKP61			縦文: 单面L.R横

第11表 遺構内出土土器・土製品一覧(2)

辨別番号	固版番号	器種	部位	分類	出土遺構	出土部位	取上番号	備考(サイズ・施文化体・敷物伝承・付着物等)
19609	10	瓦片?	胴部	IV群	SKP03			
19610	10	深鉢	胴部	I群 2型	SKP04			國文: 単層1B横?
19611	10	小型	口縁~底部	V群	SKP04			口径6.3・底径4.0・高さ5.2cm 台付鉢形
19612	10	深鉢	底部	III群 3型	SKP05	1層		國文: 単層1B横
19613	10	深鉢	胴部	II群 1型	SKP05	1層		國文: 単層1B横
19614	10	深鉢	胴部	I群 1型	SKP78			國文: 単層1B横
19615	10	深鉢	口縁部	II群 8型	SKP80			國文: 単層1B横
19616	10	深鉢	胴部	II群 8型	SKP80			國文: 単層1B横 内面部擦傷有し
19617	10	深鉢	胴部	II群 1型	SKP79	1層		國文: 単層1B横
19618	10	深鉢	口縁部	IV群	SKP92			國文: 単層1B横
19619	10	深鉢	口縁部	III群 3型	SKP94	1層		國文: 单層1B横
19620	10	深鉢	口縁部	III群 6型	SKP94			國文: 单層1B横
19621	10	深鉢	胴部	I群 1型	SKP96			國文: 单層1B横
19622	10	深鉢	口縁部	II群 1型	SKP109			國文: 单層1B横
19623	10	深鉢	口縁部	IV群	SKP137			國文: 单層1B横・鉤 小波状口縁
19624	19	香炉	胴部	III群	SKP144			國文: 单層1B
19625	10	壺	胴部	II群	SKP154			國文: 单層1B
19626	10	深鉢	胴部	III群 6型	SKP170			國文: 单層1B横
19627	11	壺	口縁部	II群	SKP170	目録	MA55e	國文: 单層1B横
19628	11	台付鉢?	高台部	II群 9型	SKP170			底径(8.1)cm
19629	11	深鉢	胴部	I群 1型	SKP185			
19630	11	深鉢	胴部	II群 8型	SKP193			細直状工具
20051	11	深鉢	口縁部	II群 1型	SKP209			國文: 单層1B横
20052	11	壺	肩部	II群	SKP209			國文: 单層1B・扭横 非結束斜伏状
20053	11	深鉢	胴部	IV群	SKP211			國文: 单層1B横
20054	11	深鉢	胴部	III群 6型	SKP216			
20055	11	深鉢	胴部	III群 6型	SKP237b			
20056	11	深鉢	胴部	II群 1型	SKP241			國文: 单層1B横
20057	11	壺	肩部	1群	SKP255	1層		國文: 单層1B横
20058	11	深鉢	口縁部	II群 9型	SKP256	1層		國文: 单層1B横
20059	11	壺	口縁部	II群 9型	SKP267	1層		無文
20060	11	深鉢	口縁部	II群 8型	SKP270	1層		細直状工具
20061	11	深鉢	胴部	II群 1型	SKP271	1層		國文: 单層1B横
20062	11	深鉢	胴部	II群 1型	SKP271	1層		國文: 单層1B横
20063	11	深鉢	胴部	II群 3型	SKP271	1層		國文: 单層1B横
20064	11	深鉢	口縁部	II群 3型	SKP278	1層		國文: 单層1B横
20065	11	深鉢	胴部	II群 2型	SKP294	1層		國文: 单層1B横
20066	11	土器	内腔		SK24	上位		内腔深くガタリ IV群(晚期)土器軸用
20067	11	土製耳飾			SKP167			直径(4.2)・最大厚1.5cm 赤彩

第12表 遺構内出土石器・石製品一覧

辨別番号	固版番号	器種	分類	出土遺構	出土部位	取上番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考(付着物等)
200518	11	残核	A類	SK11			31	45	23	30.5	
200519	11	不定形石器	B1a類	SK12	2層		46	51	12	21.0	
200520	11	残核	A類	SK12	2層		47	40	23	43.8	
200521	11	楔形石器		SK14a			27	17	8	4.6	
200522	11	石器	C類	SK14a	1層		41	24	8	7.0	
200523	11	不定形石器	B1d類	SK14a			60	40	17	31.8	
21011	11	石器	B2類	SK15	1層		30	25	6	2.9	
21022	11	不定形石器	C9.9類	SK20a			18	16	4	0.7	
21033	11	残核	A類	SK20a			27	44	18	14.1	
21044	11	不定形石器	A3.3類	SK43			46	33	17	22.8	
21055	11	不定形石器	B類	底盤			26	46	10	6.9	
21066	11	残核	C類	SK54	2層		34	54	26	47.1	
21077	11	不定形石器	A3.3類	SK88			86	55	25	111.2	
21088	11	残核	A類	SK106			46	39	26	46.4	
21099	12	残核	A類	SK25			49	42	24	54.3	
211010	12	石器	B2類	SK29			23	17	8	1.2	
211011	12	石器	A6類	SKP49	下位		54	37	11	14.8	
211012	12	不定形石器	B13.3類	SKP51			37	33	12	10.4	
211013	12	不定形石器	C10.6類	SKP63			39	35	17	26.7	
22001	12	石器	A6類	SKP84	1層		75	24	12	14.8	
22002	12	残核	A類	SKP216			46	60	39	120.8	
22003	12	楔器	B類	SK30	1層	RQ10	164	74	33	575.3	
22004	12	磨・凹面石器	C類	SK53			118	77	42	284.8	砥石軸用
22005	12	石器	A1類	SK53		RQ05	174	164	70	3236.0	
22006	12	磨・凹面石器	A3類	SK53		RQ02	149	99	41	785.3	
22007	12	磨・凹面石器	A1類	SK53		RQ04	98	85	56	626.6	
22008	12	石器	A2類	SK62		RQ15	212	129	29	941.0	
22009	12	磨・凹面石器	B3類	SK54		RQ05	13	49	45	433.1	
22010	12	石器	A類	SKP63			102	102	21	272.5	
22011	12	石器	B2類	SK54			49	18	12	14.0	
22012	12	有孔石製品		SKP267	1層		30	20	14	3.9	

第3節 出土遺物

2か年の調査により、容量約18リットルのコンテナに換算して土器類が125箱、石器類が152箱分出土した。遺物の大部分は48ライン以北の遺物包含層中から出土している。なお表土中から江戸時代以前の陶磁器と錢貨もわずかに出土しているが、当該期の遺構は検出しており、様相が不明確であるため、今回の報告では割愛する。掲載遺物の詳細については第17~21表に示した。

1 繩文土器

繩文土器は後期前葉～晩期中葉に属するものが出土した。これらの土器は時期によってI～V群に大別し、器種ごとに器形や文様などから分類した。特に一定量出土した深鉢については、器形の分類にアルファベット、文様表示手法の分類にアラビア数字を用い、各分類項目を組み合わせて例えばA1類のように細分した。器形の不明なものは文様のみで判断し、例えば1類のように細分した。

掲載土器は遺構内出土分に関しては時期判定の可能なものを、遺構外出土分に関しては器形や文様構成の判別できるものを選定し、時期および器種ごとに順次掲載した。文様や胎土などから同一個体と判断した土器には、挿図中で10a・10bのように数字とアルファベットを組み合わせて付してある。なお遺構外出土分の繩文土器については、グリッド毎の重量分布を第53図に示した。繩文土器破片の全てを時期ごとに分類・計量することは時間的な制約から困難であったが、出土位置の傾向をある程度把握するため、掲載分の土器について時期別の数量分布を第54図に示した。

(1) I群：後期前葉

後期前葉の土器は、器種として深鉢・浅鉢・壺が認められた。出土量は全体に対して比較的多い。

深鉢(第23~29図・第30図1、図版13~17)

A類：小波状口縁をなし、口縁部が若干内湾気味に立ち上がるもの。

B類：小波状口縁をなし、口縁部が直線的に立ち上がるもの。

C類：小波状口縁をなして頸部にくびれを有し、胴部が張る器形をなすもの。

D類：平口縁もしくは平口縁にごく低い山形突起をもち、口縁部が緩やかに立ち上がるもの。

1類：縄文や撚糸文を地文とし、波頂部や波底部を起点として垂下する沈線文を描くもの。垂下沈線文は単純に緩い弧線が対向するもの(25図1など)と蛇行しながら交差するもの(23図3など)が多く、垂直線と円文を組み合わせた例は1点のみ(23図4)確認された。垂下沈線文は口縁直下を起点とするものと、頸部以下に施文されるものがあり、器形との相関性が強い。

2類：2本もしくは3本一組の沈線により巴文やクランク文など横位展開する文様構成をとるもの。多くは沈線間に縄文を充填している。

3類：縄文のみ施文するもので、いわゆる粗製深鉢形土器も含む。29図12は頸部に無文帯を有し、胴部全体に縄文が施されている。30図1は粗製深鉢形土器と考えられ、頸部無文帯の下端に縄の側面圧痕が横位に巡り、縄圧痕以下には全体に縄文が施されている。これと同様の文様構成をもつ深鉢は多数認められ、精製深鉢C類に類似した器形や頸部に無文帯を有するといった特徴から、後期前葉に帰属する可能性が高いものと考えられる。

浅鉢(第30図2、図版17)

1点のみ確認した。全体形状は不明であるが、平口縁で口唇部が若干外反し、胴部で屈曲する器形をなす。繩文が充填された2～3条一組の平行沈線によって横位展開する文様構成をなし、屈曲部以下には繩文が施されている。

壺(第30図3～8、図版17)

全体形状が復元できた個体は確認されなかったが、頸部が細長く垂直気味に立ち上がり胴部が強く張るもの(30図3～6)と、頸部が幅広く垂直気味に短く立ち上がり胴部の張りが弱いもの(30図7・8)が認められる。文様は繩文を充填した平行沈線により巴文や矩形文など、横位展開の構成をとる。

(2) II群：後期中葉

後期中葉の土器は、器種として深鉢のほか鉢・浅鉢・壺・注口・単孔・蓋・多孔底・香炉が認められた。全体に対する出土量は最も多く、器種も豊富である。

深鉢(第31～39図、図版18～22)

A類：大波状口縁をなし、口縁部に突起をもたないもの。

B類：大波状口縁をなし、口縁部に突起をもつものの。

C類：波状口縁をなし、頸部が強く屈曲するもの。

D類：波状口縁をなし、頸部に屈曲をもたないもの。

E類：平口縁で頸部に屈曲をもたず、口縁部に突起をもたないもの。

F類：平口縁で頸部に屈曲をもたず、口縁部に突起をもつものの。

G類：平口縁で頸部に屈曲をもつものの。

H類：波状口縁をなし、口縁部が内湾気味に立ち上がり、口唇部が肥厚するもの。

I類：平口縁で口縁部が内湾気味に立ち上がり、口唇部が肥厚するもの。

1類：多重平行沈線文を施すもの。施文位置としては口縁下に無文部をおいてほぼ水平に巡るもの(31図1など)と、口縁直下に波状口縁に沿って施すもの(32図3など)があり、前者の方が圧倒的に多く見受けられる。平行沈線間は波頂部や波底部に対応した位置に蛇行沈線が垂下し、地文として繩文が施される。

2類：幅広い平行沈線間に地文繩文を施し、沈線で鋸歯状や格子状の文様を表出するもの(33図2など)。

3類：沈線による幅広の区画文を有するもの(35図1など)。

4類：多重平行沈線文や大区画沈線文に刺突を伴うもの(37図3など)。

5類：羽状繩文を施すもの。少数ではあるが、37図11は口縁部直下に羽状繩文を地文とし、平行沈線により弧線文を描く。37図17は沈線による大区画曲線文内に羽状繩文を充填している。

6類：上記のほか、沈線による文様構成をもつものの。36図12は胴部で屈曲する器形をなし、屈曲部に巡る平行沈線文以下には底部下端まで繩文を充填した継展開の弧線文が描かかれている。

7類：繩文のみ施文するもの。いわゆる粗製深鉢形土器は相当数出土しているが、器形の復元可能な代表例のみ掲載した。39図1は胴部下半に沈線文を伴う。

8類：櫛歯状工具により施文されたもの。沈線文内部に充填するもの(39図5・6)や、外面全体に

ランダムに施文するもの(39図2・4)、入り組み状の文様を描くもの(39図3)が認められる。

本類は後期後葉に帰属する可能性もある。

鉢・浅鉢(第40図、図版23)

器形としては口縁部の立ち上がりに特徴があり、内湾気味に立ち上がるるもの(1・2・4・7~9)、直線的に開くもの(3・5)、屈曲して口縁が直立気味に立ち上がるもの(6)、底部から短く立ち上がる皿状のもの(10)、片口状の注口部を伴うもの(11)が認められる。文様構成は深鉢1・2類と共に通する多重沈線文(1・2・6)や格子状文(3・4・11)のほか、破片資料ではあるが内面に多重沈線を施すもの(5)があり、無文で内外面にミガキ調整のみ施すもの(7~10)も認められる。

台付鉢(第41図1~6、図版23)

1は台部が失われているが若干内湾気味に立ち上がる器形をなし、縄文の充填された平行沈線文が横位に巡る。2は施文された台部で、2条一組の沈線によりクランク状の文様が描かれている。3~6は台付鉢の台部と考えられるものである。

壺・注口(第41図7~17・第42図1~11、図版23・24)

壺と注口はどうちらか判別の付かない場合もあるため、ここでは一括して取り扱うことにする。全体形状を知り得る個体は少ないが比較的小型のものが主体で、器形としては胴部が丸味を帯びて口縁部が直線的に立ち上がるもの(41図7など)、口縁部が大きな波状を呈するもの(41図14など)、胴部が強く張り算盤玉状をなすもの(42図8など)、口縁部に段をもつものの(42図5など)、台部を伴うもの(42図10)が認められる。なお、42図11は片口状を呈する注口部の破片である。文様構成は、沈線による入り組み文(41図8など)、幅の広い区画文(43図10など)、縄文の充填された平行沈線による区画文(41図12など)、区画内に異方向に多重沈線文を施すもの(41図15など)、肉彫りによる曲線文(42図7)などがあり、精製深鉢と共に通する文様構成をもつものも少なくない。

單孔(第42図12~15、図版24)

12は筒状を呈する胴部に楕状の口縁部が付く器形をなし、縄文を充填した入り組み文が横位多段に展開する。15は底部が丸味を帯びた器形をなし、沈線区画内に櫛齒状工具による施文が認められる。13・14は單孔部を伴っていないが、筒状の器形を呈することから單孔土器の可能性が高い。13には縄文を充填した方形区画文、14には曲線的な入り組み文が施されている。

蓋(第42図16、図版24)

1点のみの出土である。山形の器形で上端部は上から見ると楕円形の摘みとなっており、下端部に沿って平行沈線が横位に巡る。帰属時期は不明確である。

多孔底(第42図17・18、図版24)

全体の器形が復元できた例は無いが、確認されたものは全て高台を伴い、楕状を呈するものと考えられる。後期後葉に帰属する可能性もある。

香炉(第42図19・20、図版24)

全体形状の推定可能な例は確認されなかつたが、香炉形土器の可能性あるものを掲載した。19は三角形の透かしをもつ。20は高台部で陸帯に刻みが施され、高台に三角形状の切り込みが付いている。

その他(第42図21、図版24)

把手が付き内外面に沈線文を伴うもので、楕状の器形をなすと考えられるが、詳細は不明である。

(3) III群：後期後葉

後期後葉の土器は、器種として深鉢・鉢・壺・注口・香炉が認められた。後期前・中葉の土器と比べて出土量は少なく、器種も少ない。

深鉢(第43図、図版25)

1は平口縁に小突起が付き、頸部が括れて胴部が丸い器形をなす。胴部下半には幅の広い入組帶状文が一段横位に展開している。2は大波状口縁深鉢の波頂部に付く突起で、小さな貼瘤が付く。3・4は大波状口縁深鉢の波頂部にあたり、口縁部は網文で縁取られている。5は平口縁で胴部が緩く括れる器形をなし、上半には平行沈線文が横位展開し、貼瘤が多用される。6～8も沈線文に貼瘤を多用するものである。9・10は平行沈線間に刻みが施されている。11～13は幅の狭い入組帶状文が多段に横位展開するもので、12・13は平口縁に小突起を伴う器形をなす。

鉢(第44図1、図版25)

鉢は1点のみ確認した。底面がわずかに窪み、口縁が内湾気味に立ち上がる器形をなす。文様は網文が充填された入組文にスリットが伴う。

壺・注口(第44図2～8、図版25)

サイズは小型のものが中心で、器形は全体に丸味を帯び、底面に浅い窪みをもつもの(2)が認められる。3は大型の壺形土器と考えられる。文様は沈線文による入組帶状文に大きな瘤状突起が付くものの(2など)のほか、刻みの施された平行沈線に小さな貼瘤が伴うもの(4・5)も見られる。6は平口縁に大小の突起がつくもので、注口土器の口縁部破片と考えられる。

香炉(第44図9、図版25)

香炉形土器の可能性あるものは1点のみ確認された。太い隆帯が横位に巡り、刻みの伴う平行沈線文が施されたもので、上半部の破片と考えられる。

(4) IV群：晩期

晩期は大洞B・BC・C1式期に属するものが出土しており、ここでは大きく晩期として括る。器種は深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口が認められる。出土量は他時期の資料と比べて非常に少ない。

深鉢(第44図10～12・45図1、図版26)

44図10・11は頸部が緩く括れる器形をなし、多段に施された入組帶状文の間に連続する短沈線が横位に巡る。12は小波状口縁で若干内湾気味に立ち上がる器形をなし、波底部を起点とした沈線により、弧線文と円文が描かれる。45図1は小波状口縁で丸みを帯びた器形をなし、口縁部直下に横位展開する網文帯が、胴部下半全体に網文が施されている。

鉢・浅鉢(第45図2～6、図版26)

2・3・4は鉢の口縁部破片で、口縁直下の平行沈線間に刺突が加えられている。5・6は浅鉢の口縁部破片で、雲形文が施されている。

壺・注口(第45図7～9、図版26)

7は注口土器の上半部破片で、平行沈線間に刻みが施される。8はほぼ完形に復元可能な大型の壺形土器で、口縁部は無文で頸部のわずかな段差以下に網文が施されている。9は小型壺の口縁部破片である。

(5) V群：小型土器(第45図10～14、図版26)

時期判定の困難な小型の土器を一括した。器形の判断できる個体のみ掲載している。10は頸部に括れをもつ深鉢、11は口の窄まる壺、12は5単位の緩やかな波状口縁をもつ浅鉢、13は高台付の鉢、14は注口を模したミニチュアと考えられる。

2 石器

石器は剥片石器類と礫石器類に大別し、器種ごとに形状や加工、使用痕跡等の特徴から分類した。石器個々の帰属時期は明確でないが、大部分は出土土器と同じ後期前葉もしくは中葉に含まれるものと考えられる。石器石材については石質鑑定を実施していないため詳細は不明であるが、剥片石器類の石材には火雜物が多く貰入するやや質の悪い頁岩が多用され、黒曜石や鉄石英・玉髓質の石材がわずかに含まれる。そのほか、搬入砾として硅化木が多量に持ち込まれているのが特徴である。黒曜石は出土全点について産地同定分析を実施しており、その結果は第5章第2節に掲載した。掲載石器は各器種・各分類に從って選定に努めたが、分類項目によっては重複・欠如したものもある。器種別の出土点数は第13表に、器種ごとの分類別出土点数は第14表に、各器種の遺構外出土分布図は第55～59図に示した。

(1) 剥片石器類(第46～49図、図版27・28)

剥離調整の認められる石器とその残滓を、剥片石器類として一括する。遺構外では4,645点、遺構内出土分を合わせると総点数4,833点が出土した。器種組成は石鏹、石錐、石匙、笠状石器、楔形石器、異形石器ほか、スクレイバーや二次加工剥片を含む不定形石器、そして残滓である剥片及び残核で構成される(第13表)。

石鏹(第46図1～11)

遺構内外から68点出土した。茎の有無と基部平面形状に加え、未製品や破損品も含め以下のA～E類に分類した。

A類：茎をもたず基部が湾曲した、いわゆる回基無茎鏹(46図1)。

B類：茎をもつ有茎鏹である。基部形状から以下の1～4類に細分した。

1類：基部が内湾する回基有茎鏹(46図2)。

2類：基部が平坦な平基有茎鏹(46図3・4・6・7)。

3類：基部が突出する凸基有茎鏹で、最大幅を器体中心にもつもの(46図5・8)。

4類：基部と茎の境界が不明瞭な柳葉形石鏹(46図9)。

C類：茎をもたず基部が丸味を帯びた、いわゆる円基無茎鏹。

D類：石鏹未製品もしくはその失敗品。小型剥片を素材として両面調整を施し石鏹状の平面形態を呈するもののうち、大きさに比べて特に分厚いものや、左右もしくは表裏が非対称な例について本類に分類した(46図10・11)。

E類：先端部のみの破損品。

出土位置で比較すると遺構内66点、遺構外2点で、遺構内の出土例は非常に少なく、偶然に混入した可能性が高いと考えられる。遺構外での分布傾向を見ると、若干北寄りに集中する箇所が認めら

れるが、特に偏りは無く全面的に出土している。

分類群ごとの比較では、B類が36点で主体をなし、A・C類は1点ずつと極めて少なく、有茎鎌が圧倒的に多いと言える。またD類が25点と比較的多く出土しており、後述する不定形石器の中には石鎌の未成品もしくは失敗品と推測される両面加工石器が少なからず認められることから、遺跡内で石鎌の生産が行われていた可能性が高いと推察される。

石錐(第46図12~14)

遺構内外から36点出土した。基部の有無や基部形態に加え、転用品と破損品も含め以下のA~E類に分類した。

A類：基部を伴わず、全体を棒状に整形したもの(46図12・13)。

B類：周縁加工を施した明瞭な基部をもつもの。

C類：錐部と基部の境界が不明瞭なもの(46図14)。

D類：他器種からの転用品と考えられるもの。

E類：錐部のみの破片。

出土位置で比較すると遺構内1点、遺構外35点で、石鎌同様に遺構内の出土例は少ない。遺構外についても、特定箇所に集中する傾向は認められない。

分類群ごとの比較では、C類が22点と主体をなし、A類(7点)がこれに続き、B類(3点)・D類(1点)は非常に少ない。

石匙(第46図15~21)

石匙は遺構内外から46点出土した。つまみと主要刃部のなす角度によって、A類(縦型)・B類(斜型)・C類(横型)に大別し、さらに刃部平面形態等から以下のように細分した。

A 1類：両側線が平行し、先端部にはほとんど調整加工の施されないもの。

A 2類：両側線が平行し、先端部に急斜度調整が施されるもの。

A 3類：両側線が先端に向かって収束し、先端部が尖るもの(46図17・18)。

A 4類：両側線が先端に向かって収束し、先端部が丸みを帯びるもの。

A 5類：つまみのみ作出し、刃部を形成する剥離調整が極端に少ないもの。

A 6類：つまみ部分のみの破片で、全体形状が不明のもの。

B 1類：刃部平面形が直線的で、角をもつもの(46図16)。

B 2類：刃部平面形が曲線的で、角をもつもの(46図15)。

B 3類：刃部平面形が曲線的で、角を持たず全体が丸いもの。

B 4類：つまみのみ作出し、刃部を形成する剥離調整が極端に少ないもの。

C 1類：刃部が直線的で、角をもつもの。

C 2類：刃部が曲線的で、角をもつもの。

C 3類：刃部が曲線的で、角を持たず全体が楕円形を呈するもの(46図20)。

C 4類：縦横比の差が少なく、刃部が直線的なもの。

C 5類：縦横比の差が少なく、刃部からつまみにかけて平面形が丸いもの。

C 6類：つまみを2つもつもの(46図21)。

C 7類：つまみのみ作出し、刃部を形成する剥離調整が極端に少ないもの。

出土位置で比較すると遺構内2点、遺構外44点で、遺構内に伴う例はわずかである。遺構外ではLQ45区に7点が集中するほかは、全面的に出土している。

分類群について大別ごとに比較すると、A類が19点と最も多く、次いでC類18点、B類9点となつており差は少ないと言える。特定の平面形態に偏重する傾向が認められない現象は、素材形状への拘りが少なく、不定形剥片から石匙加工に適した素材を無作為に選択していることを示すのかもしれない。また、A 5・B 4・C 7類のように刃部形成の意図が希薄な資料が少ないと認められ、これらについては素材の鋭利な縁辺をそのまま使用した可能性もある。

籠状石器(第46図22)

籠状の平面形態を伴う両面調整石器で、遺構外から2点出土した。他の定形石器と比べて極端に少なく、当該時期においては主要器種構成から外れたイレギュラーなものと推測される。46図に示した22は剥離面が粗い両面調整のみで構成され、特に刃部形成を示す調整加工は認められない。他の両面調整石器未製品や残核の可能性もある。

2点とも他の剥片石器類が多く出土する地区付近に分布する。

楔形石器(第47図1)

両極剥離の認められる石器で、遺構内外から19点出土した。これらの楔形石器には、特に顕著な縁辺の潰れは確認されておらず、骨角器や木器などの割断に使用された利器としての可否は判断し難い。剥片石器類全体を見ると、残核にサイズの小さいものが比較的多く見られることから、小原石を対象とした両極打法による剥片剥離技術の産物である可能性が高いと考える。

出土位置で比較すると遺構内1点、遺構外18点である。遺構内に伴う例はわずか1点で、偶然に混入した可能性が高いと推測する。遺構外でも特に集中する地点は認められず、全面的に出土している。

異形石器ほか(第47図2~7)

いわゆる異形石器のほか、定形石器には含まれないが丁寧な調整加工により意図的な形態に仕上げた剥片石器を含めた。遺構内外から8点出土している。47図7は異形石器で1点のみの出土である。硬質で透明な石材を素材として、三叉状の平面形態に仕上げている。5は丁寧な両面調整により槍状の平面形態をなし、一端につまみが作出されている。1点のみの出土である。6は厚手剥片を素材として一端に両面調整による棒状の突出部を、一端に急斜度調整による丸い刃部を作出したもので、破損品を含めて3点出土している。2~4はいわゆる嘴状石器で、3点出土した。

全て遺構外からの出土であり、特に集中する地点は認められない。

不定形石器(第47図9~14、48図1~12)

前述した剥片石器類に含まれない、二次加工や微細剥離を伴うものを不定形石器として一括した。遺構内外から549点出土している。これらについては、縦長剥片素材のものをA類、横長剥片素材のものをB類、調整加工により素材形状が不明なものをC類、破損により全体形状が不明なものをD類とし、さらに二次加工の様相から以下に分類した。

1類：素材縁辺に刃こぼれ状の剥離が認められるもの。いわゆるUFである。

2類：素材縁辺のごく狭い範囲に片面加工による連続した小規模剥離が認められるもの(47図8)。

3類：素材縁辺の広範囲に片面加工による小規模剥離が連続するもの。調整加工の及ぶ範囲によって、以下のように細分した。

- a類：一側縁もしくは側縁から端部にかけて加工が施されるもの(47図10～14)。
- b類：全周に加工が施されるもの(47図9)。
- 4類：素材の一端に片面加工による急斜度の刃部を作出したもの(48図1～3)。
- 5類：素材縁辺に鋸歯状の刃部を作出したもの(48図4)。
- 6類：素材縁辺の一部に急斜度調整による抉りを付けたもの。
- 7類：素材縁辺の広範囲に両面加工による小規模剥離が連続するもの。
- 8類：片面加工による比較的粗い調整剥離を伴うもの。調整の施される部位や、他の二次加工との重複により以下のように細分した。
- a類：縁辺の一部にのみ粗い片面加工を施すもの。
- b類：素材の打瘤付近にのみ粗い片面加工を施すもの。
- c類：分厚い剥片を素材として、半周から全周にわたり粗い調整加工を施すもの。
- d類：素材の主要剥離面側に粗い調整加工を施し、連続する丁寧な片面加工によって刃部を形成するもの。
- e類：素材背面側に連続する粗い両面加工を施し、同じ箇所に連続する丁寧な片面加工によって刃部を形成するもの。
- 9類：両面加工を伴うもの。調整の施される部位や加工の精粗、他の二次加工との重複により以下のように細分した。
- a類：縁辺の一部にのみ粗い両面加工を施すもの。
- b類：素材の打瘤付近にのみ粗い両面加工を施すもの。
- c類：分厚い剥片を素材として、半周から全周にわたり粗い両面加工を施すもの(48図5・7・8)。
- d類：薄い小型剥片を素材とし、半周から全周にわたり比較的丁寧な両面加工を施すもの(48図6)。
- e類：厚手の剥片を素材として打瘤や分厚い箇所に粗い両面加工を施し、薄い縁辺部に連続する丁寧な片面加工によって刃部を形成するもの(48図10)。
- f類：厚手の剥片を素材として粗い両面加工と丁寧な調整加工を施し、一端が尖る断面凸レンズ状の形態に仕上げるもの。
- 10類：意図的な折り取り加工の認められるもの。折れの状況や折り取り後の加工状況から以下に細分した。
- a類：厚手剥片に折り取り加工のみ認められるもの。素材背面側からの加圧による折れや、折れ面が複数切り合うものを抽出した。
- b類：厚手剥片の折れ面に連続する小剥離調整を施すもの。
- c類：厚手剥片の折れ面を打面として粗い調整剥離を施すもの。
- d類：薄手小形剥片の側縁に丁寧な両面加工を施し、折れ面を打面として調整剥離を施すもの。
- 11類：素材全周に丁寧な両面加工を施し、平面形態を左右対称の木葉形に仕上げるもの(48図11)。
- 出土位置で比較すると遺構内27点、遺構外522点で、遺構内に伴う例がある程度認められる。多くの場合は偶然の混入と推測されるが、SK13のように複数点出土したものについては、遺構内に意図的に残置した可能性もある。遺構外で特に集中した地区は認められず、剥片石器類全体と同様な出土傾向を示している。

分類群ごとに出土点数を比較すると、1類46点・2類38点・3類121点・4類26点・5類21点・6類15点・7類25点・8類47点・9類164点・10類43点・11類3点となる。出土点数では3類のような片面加工の刃部をもつ石器と、9類のような両面加工石器が主体をなすと言える。特に小型剥片を素材とした9d類や10d類については、石鏃の未成品・失敗品である可能性が高い。折れ面から調整剥離を施す10c類についても、石鏃など小型石器の未成品と推測される。

剥離調整の対象箇所としては、素材打痕付近に加工が集中するもの(8b類・9b類・9e類)が一定量認められる。これらは打痕の除去により、器体の薄手化を意図したものと考えられる。

剥片

剥片および碎片は遺構内外から3,938点出土した。剥片のサイズは比較的小型のものが多く、形状はばらつきが大きい。特に定形的な剥片を連続的に生産した可能性は低いものと推測される。

出土位置で比較すると遺構内145点、遺構外3,793点で、遺構に伴う多量出土例は認められず⁶、大部分が偶然に混入したものと推測される。遺構外で特に集中した地区は認められず⁶、剥片石器類全体と同様の出土傾向を示している。

殻核(第48図14、49図1~6)

殻核は遺構内外から167点出土した。特に作業面の位置関係から以下のように分類した。

A類：分割礫などを素材とし、特に作業面を固定せずランダムな位置で剥片剥離を行うもの(48図14、49図2・3・6)。

B類：分割礫もしくは大型剥片を素材とし、割れ面や主要剥離面を作業面に固定して、ランダムな方向で剥片剥離を行うもの(49図4)。

C類：分割礫もしくは大型剥片を素材とし、作業面と打面を入れ替えながら剥片剥離を行うもの(第49図1)。

D類：分厚い大型剥片を素材とし、素材主要剥離面を打面として剥片剥離を行うもの。

E類：薄い板状礫や剥片を素材とし、折れ面を打面として剥片剥離を行うもの(49図5)。

出土位置で比較すると遺構内10点、遺構外157点で、遺構内に伴う例は少なく、偶然に混入したものと推測される。遺構外でも特に集中した地区は認められず⁶、剥片石器類全体の出土傾向と調和的である。

分類群ごとに出土点数を比較すると、A類70点・B類60点・C類22点・D類8点・E類7点となる。分割礫の割れ面を作業面とするB類が比較的多いのは、表面の風化した部分を避けて剥片を獲得する意図があったものと推測する。また、E類のような薄手の原石も剥片生産の対象とすることから、大型原石の獲得が困難な石器石材環境にあったと考えられる。

(2) 磨石器類(第50・51図、図版28・29)

礫素材を直接使用したものや軽微な加工を施したものに石斧類を加え、磨石器類として一括する。遺構外では807点、遺構内出土分を合わせると総点数961点が出土した。器種組成は磨製石斧、打製石斧、石皿、砥石、磨・凹石類、敲石、穢器、石錘で構成される(第13表)。

磨製石斧(第50図1～5)

遺構内外から24点出土した。おおよそのサイズを基準として再加工品や未成品を加えてA～D類に、基部形状により1～3類に分類し、各分類項目を組み合わせて細分した。

A類：長さ約13cmを超える大型品(50図1)。

B類：長さ約9～11cmの中型品(50図2)。

C類：長さ5cm以下の小型・極小型品(50図4・5)。

D類：再加工品・未成品(50図3)。

1類：基部平面形が尖るもの(50図1)。

2類：基部平面形が丸みを帯びるもの(50図5)。

3類：基部平面形が平坦なもの(50図2・4)。

出土位置で比較すると遺構内2点、遺構外22点で、遺構に伴う例が若干認められる。遺構外では特に集中した箇所は認められない。

サイズ別に見ると中型品のB類が14点と最も多く、次いでA類(5点)、C類(3点)、D類(2点)となる。数は少ないが、C類のような小型品を組成する点が特徴と言える。50図3は未製品と考えられ、細長い礫素材の側面から剥離調整が施され、側縁には敲打痕が顕著に認められる。

打製石斧(第50図6)

遺構外から2点のみ出土した。50図6は完形成で比較的大型の礫剥片に両面調整を施して撥形の平面形態とし、刃部平面形は丸みを帯びている。刃部に対する使用痕は肉眼で確認できない。基部の抉れた部分には側縁に顕著な敲打痕が認められる。残りの1点は基部の破片で全体形状は不明であるが、側縁に同様の敲打痕が観察できる。

2点のみの出土であるが、ともに調査区南側に分布しており、他の石器とは傾向を異にする。

石皿(第50図7、51図1・2)

大型で比較的硬質な礫素材に研磨使用痕が認められるものを石皿とする。遺構内外から247点出土した。素材礫の形状および残存状況からA～D類に、使用面の形状から1・2類に分類した。

A類：大型の扁平礫を素材とし、そのまま使用するもの。使用面を上に置くと据わりが良く、安定している(50図7)。

B類：大型の分厚い円礫を素材とし、そのまま使用するもの。使用面を上に置くと据わりが悪く、不安定である(51図1)。

C類：大型の扁平礫を素材とし、敲打整形により縁を作り出したもの(50図2)。

D類：使用面のみ観察される素材形状不明の破片。

1類：使用面が比較的平坦なもの(51図1)。

2類：使用面が深く産んでいるもの(50図7・51図2)。

出土位置で比較すると、遺構内55点、遺構外192点と遺構内からも多く出土していることが分かる。特に礫群を伴う土坑や配石遺構などに含まれる場合が多く、意図的に礫群中に組み込まれた可能性が高い。遺構外では特に51ライン以北の調査区北側に濃密に分布している。

素材礫形状で比較すると、扁平なA類が113点と多く、B類が72点、C類が2点と続く。縁を作り出したC類は非常に少ない。使用面の形状では平坦な1類が圧倒的に多い。

砥石(第51図11・12)

小型で比較的軟質な礫素材に溝状・擦痕状の研磨使用痕が認められるものを砥石とした。遺構外から22点出土している。使用石材と使用痕の状況から以下A・B類に分類した。

A類：砂岩など、脆く軟質な石材が使用されているもの。使用痕の状況から以下に細分した。

1類：幅5～10mm程度の幅広く深い溝状の研磨痕が認められるもの(50図11)。溝の断面は丸みを帯びている。

2類：面的に研磨され細かい擦痕が認められるもの。全て小破片であり、本来は溝状研磨痕を伴うものの一部であった可能性が高い。

B類：凝灰岩など、緻密で軟質な石材が使用され、細かい擦痕が認められるもの(50図12)。

A類は玉類の製作に使用されたもの、B類は石棒や磨製石斧などの研磨作業に使用された可能性があろう。

全て遺構外から出土しており分布範囲は散っているが、特定地区に集中する傾向が認められる。

磨・凹石類(第51図3～7)

小型の礫素材に研磨や敲打使用痕が認められるものを磨・凹石類とした。遺構内外から631点出土している。素材礫の形状によりA～C類、使用痕により1～3類に分類した。

A類：円礫を素材とするもの(51図3・4)。

B類：細長い礫を素材とするもの(51図5・6)。

C類：石皿など、他器種から転用したもの(51図7)。

1類：摩耗痕のみ認められるもの。

2類：素材の中央に敲打による凹みのみ認められるもの(51図3)。

3類：摩耗痕と敲打による凹みが双方認められるもの(51図4)。

出土位置で比較すると、遺構内91点、遺構外540点と遺構内からも多く出土していることが分かる。石皿と同様に、意図的に土坑や配石遺構の礫群中に組み込まれた可能性が高い。遺構外では特に51ライン以北の調査区北側に濃密に分布しており、石皿の分布傾向と調和的である。

素材礫形状で比較すると、円礫A類が578点と圧倒的に多く、B類が50点、C類が3点と続く。使用痕では研磨使用のみの1類が414点と多く、次いで凹みのみの2類が125点、摩耗と凹みを伴う3類が92点と続く。3類が一定量出土していることから、摩耗痕と凹みを形成する研磨作業と敲打作業はそれぞれ独立した無関係なものではなく、相關する一連の作業であった可能性が高いと考えられる。

敲石(第48図13、51図8・9)

素材礫の稜部や端部を敲打使用したもの。遺構外から11点出土した。素材形状から以下A～C類に分類した。

A類：円礫を素材とするもの(51図9)。

B類：細長い礫を素材とするもの(51図8)。

C類：剥片石器類を転用したものの(48図13)。

出土点数は少ないものの、分布は調査区北側に若干の偏りが認められる。

素材礫形状で比較すると、円礫のA類が7点と多く、B・C類がそれぞれ2点ある。これらは剥片石器類の打割に使用された可能性が考えられるが、剥片石器類と比べて出土量が少なく不明確である。

礫器(第51図10)

素材縁の側縁や端部に両面剥離調整を施したもの。遺構内外から17点出土した。素材形状から以下のA・B類に分類した。

A類：扁平な円錐を素材とするもの(51図10)。

B類：細長い礫を素材とするもの。

出土位置で比較すると、遺構内6点、遺構外11点で特に土坑からの出土例が多く確認されており、意図的に土坑中に埋納された可能性が高い。遺構外での分布には特に偏りは認められない。

素材縁形状を比較すると、扁平な円錐のA類の方が多い。

石錘(第51図13)

礫素材の対向する辺に崖みをつけたもの。遺構内外から8点出土した。崖みの付け方によって、以下のA・B類に分類した。

A類：礫素材の両端に打ち欠きによる崖みを付けたもの。

B類：素材の両端に擦切りによる切れ目を付けたもの(51図13)。いわゆる切目石錘である。

出土位置で比較すると、遺構内1点、遺構外7点で遺構内からの出土例はわずかである。出土点数は少ないが、遺構外では他の礫石器と同様の分布傾向が認められる。

分類別の比較では、A類5点・B類3点でほぼ同じ程度である。

珪化木(第13表)

特に使用痕の認められる縁ではないが、珪化木が遺構内外から多量に出土しており、遺構外では合計54,682.3g出土している。遺構出土例では礫群を伴う土坑や配石遺構の一部に目印のように組み込まれている場合があり、搬入礫として遺跡に持ち込まれ、積極的に利用されたことは疑いない。

3 土製品(第52図、図版30)

土製品は遺構内外から60点出土した。種別としては土製耳飾・土偶・土器片円盤・その他の土製品が出土している(第15表)。

土製耳飾(52図1～3)

遺構内外から6点出土した。遺構内から出土した20図17はいわゆる滑車形の耳飾りで、沈線による文様が部分的に観察される。沈線内には赤色顔料が残存しており、本来は全体に朱彩が施されていたようである。52図1・2も滑車型の耳飾りで、両面が崖んで中心に穿孔があり、全体に朱彩が施されている。3は環状を呈する耳飾りである。

土偶(第52図4～10)

遺構外から22点出土した。全て破片であり、全体形状を復元できる個体は確認されなかった。部位別の内訳は頭部5点、胸部9点、腕部4点、脚部4点である。土偶は全て中実で、縄文時代後期前葉・中葉に帰属するものが含まれている。4は頭部破片で、顔の表現は剥落のため観察できないが、逆三角形状の形態から後期前葉に属すると考えられる。一部にアスファルトと思われる付着物が認められる。5も頭部破片で、頭部形状に特徴が見られ、後期中葉に属すると考えられる。6は胸部破片で、細身で扁平な形状を呈する。7は腕部破片で全体に刺突が施されている。9は脚部破片で付け根に穿孔が認められる。10も脚部で、下端部が張った形状をなす。

土器片円盤(第52図15～17)

土器片の周間に打ち欠きや摩耗痕の見られるものを土器片円盤とした。遺構内外から27点出土している。文様構成の確認できる資料は少ないが、15・16など後期前葉の土器片利用例が認められる。

その他の土製品(第52図11～14)

上記以外の土製品は遺構外から5点出土した。11は表面の摩滅が著しく不明瞭であるが、四足動物を模したと推測される土製品で、口の表現とみられる穿孔が認められる。12は分銅形土製品で括れた部分に穿孔を伴う。13は梢円形を呈する土製品の破片で、両面に沈線文が描かれ側面にも沈線が巡る。14は小型楕状の土製品である。

4 石製品(第52図、図版30)

石製品は遺構内外から32点出土した。種別としては石棒、有孔石製品、円盤状石製品、その他の石製品が出土している(第16表)。

石棒(第52図18～21)

遺構内外から18点出土した。サイズによりA・B類に大別し、小型のB類については断面形状から細分した。

A類：大型の石棒である。18は先端部破片と考えられ、全体を丁寧に研磨している。

B類：小型の石棒である。断面形状から以下に細分した。

1類：断面形が梢円形を呈するもの(19・20)。

2類：一端もしくは両端が尖るもの。

3類：断面形状が判別できない破片。

4類：未完成と考えられるもの。1点のみの出土であるが、21は両面に調整剥離が施され、一部に研磨痕が観察できる。

サイズごとに比較すると、大型のA類は1点のみで、小型のB類が主体をなす。B類のうち断面形状の判断できる資料は少ないが、判別可能なものに限ると梢円形を呈する1類が多い。

有孔石製品(第52図23)

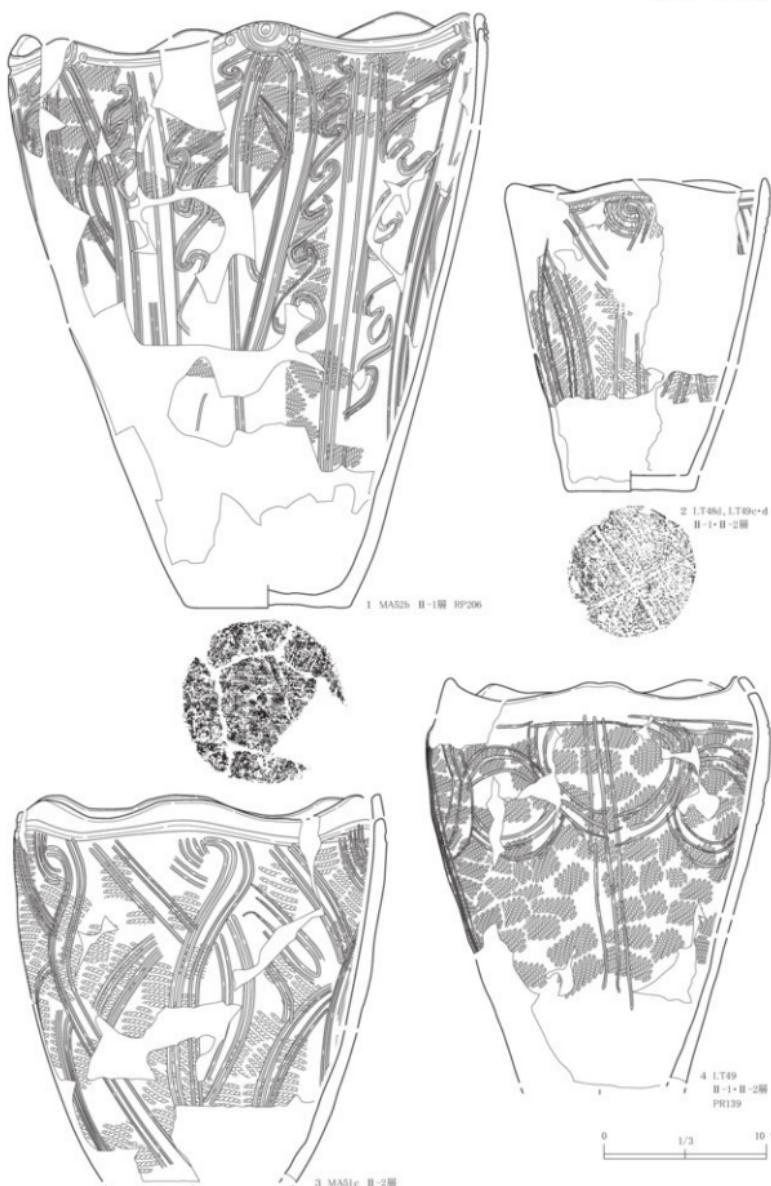
遺構内外から3点出土した。遺構内出土の22図12は分厚く軟質な礫を素材として、中央に穿孔が認められる。52図23は破片であるが、硬質な扁平礫を素材として2か所に両面から穿孔が施されている。

円盤状石製品(第52図22)

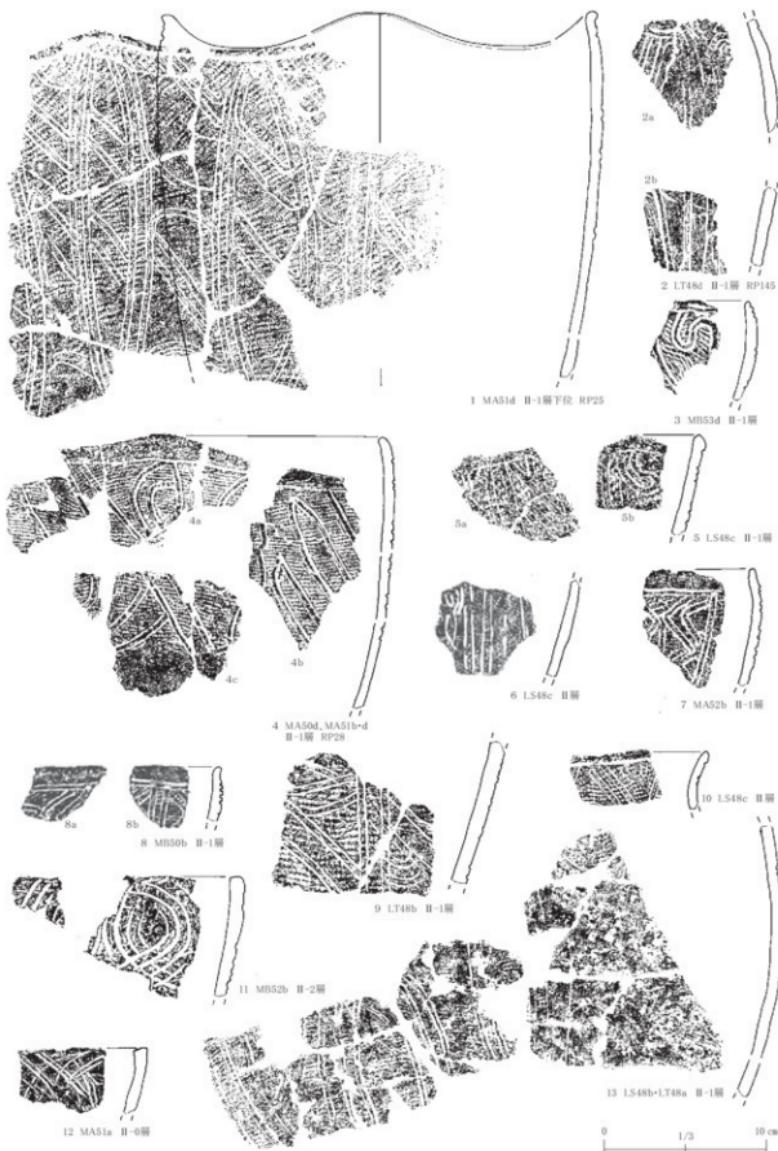
扁平礫の周縁に打ち欠きや擦痕が認められるものである。遺構外から9点出土した。22は薄い板状礫を素材として周縁を打ち欠き、全体を円形に仕上げている。

その他の石製品(第52図24)

上記以外の石製品は遺構外から2点出土した。24は分厚い小型の円礫を素材として、細い溝が半周している。素材礫のサイズ一回り小さくて分厚く、側縁の溝が対向していない点で、いわゆる切目石鍤とは様相が異なる。



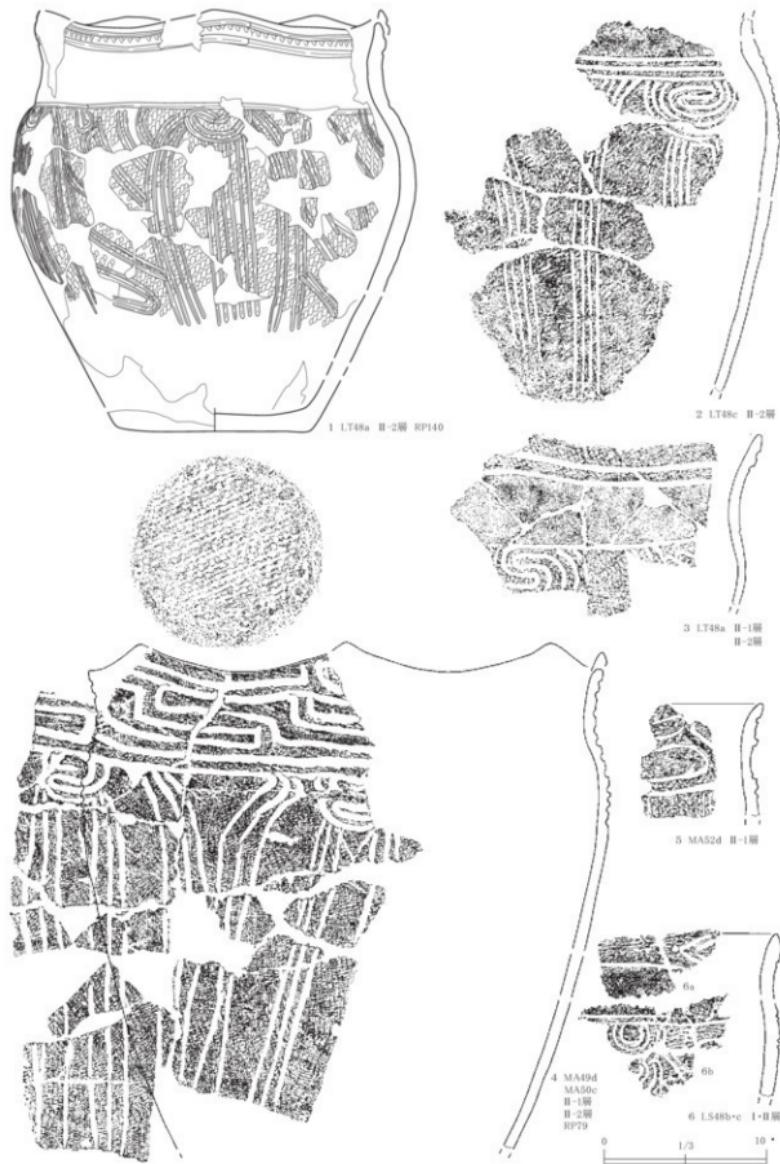
第23図 遺構外出土縄文土器(1) I群(後期前葉)深鉢



第24図 遺構外出土縄文土器(2) I群(後期前葉)深鉢



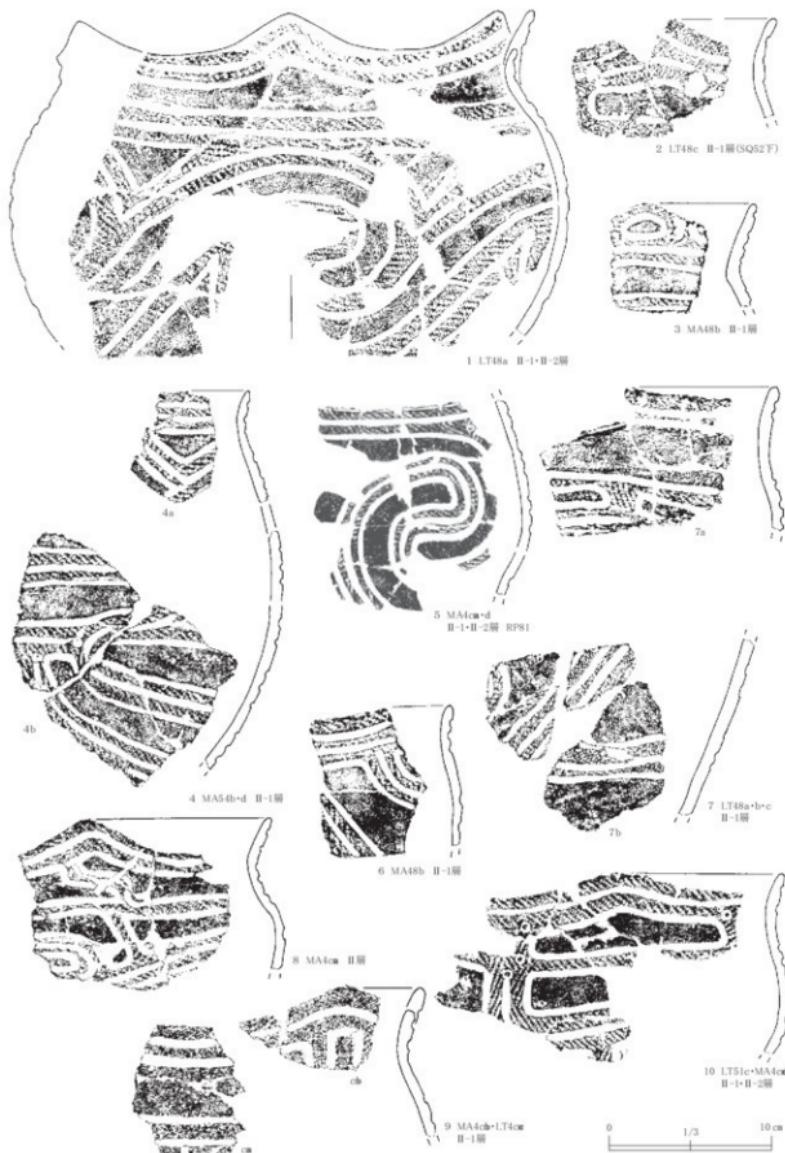
第25図 遺構外出土縄文土器(3) I群(後期前葉)深鉢



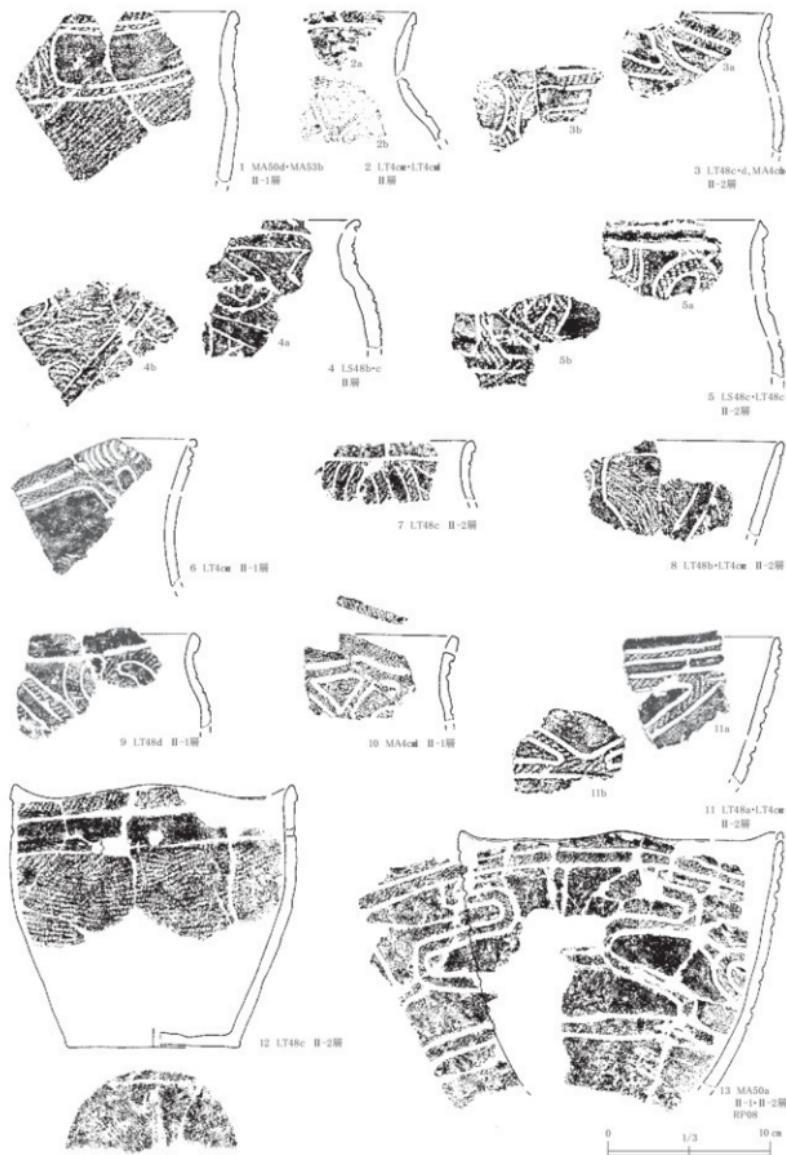
第26図 遺構外出土縄文土器(4) I群(後期前葉)深鉢



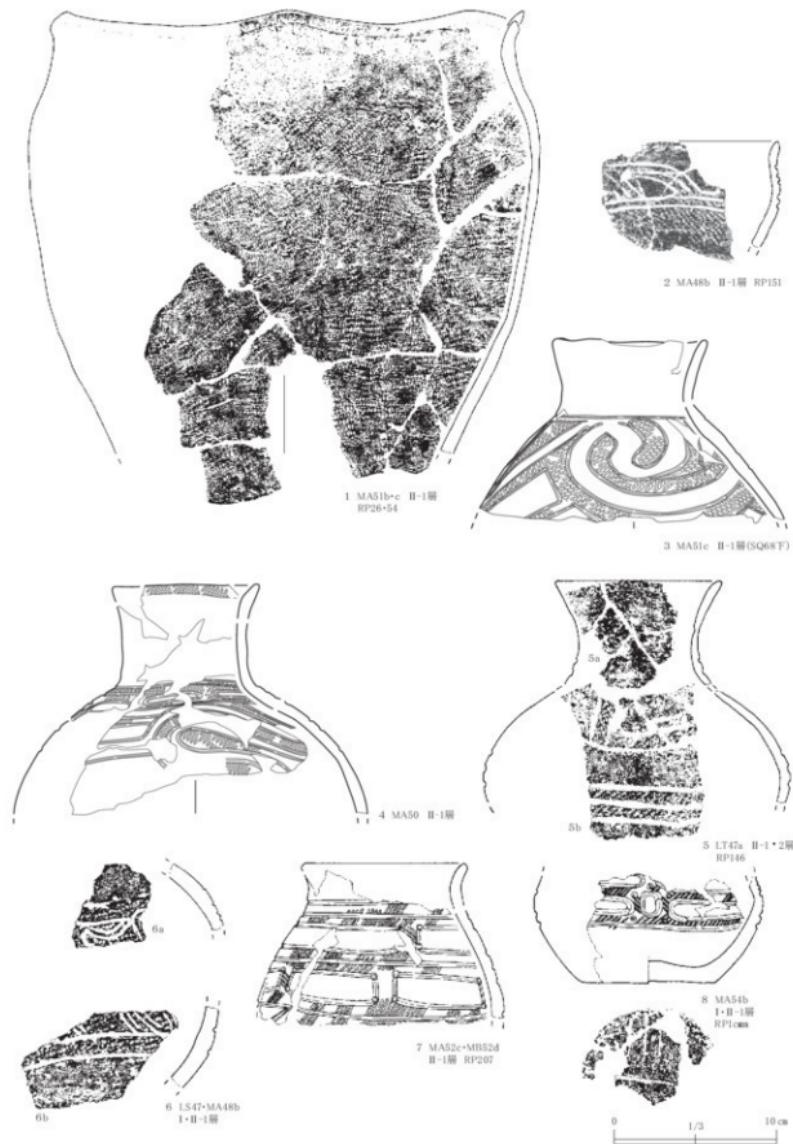
第27図 遺構外出土縄文土器(5) I群(後期前葉)深鉢



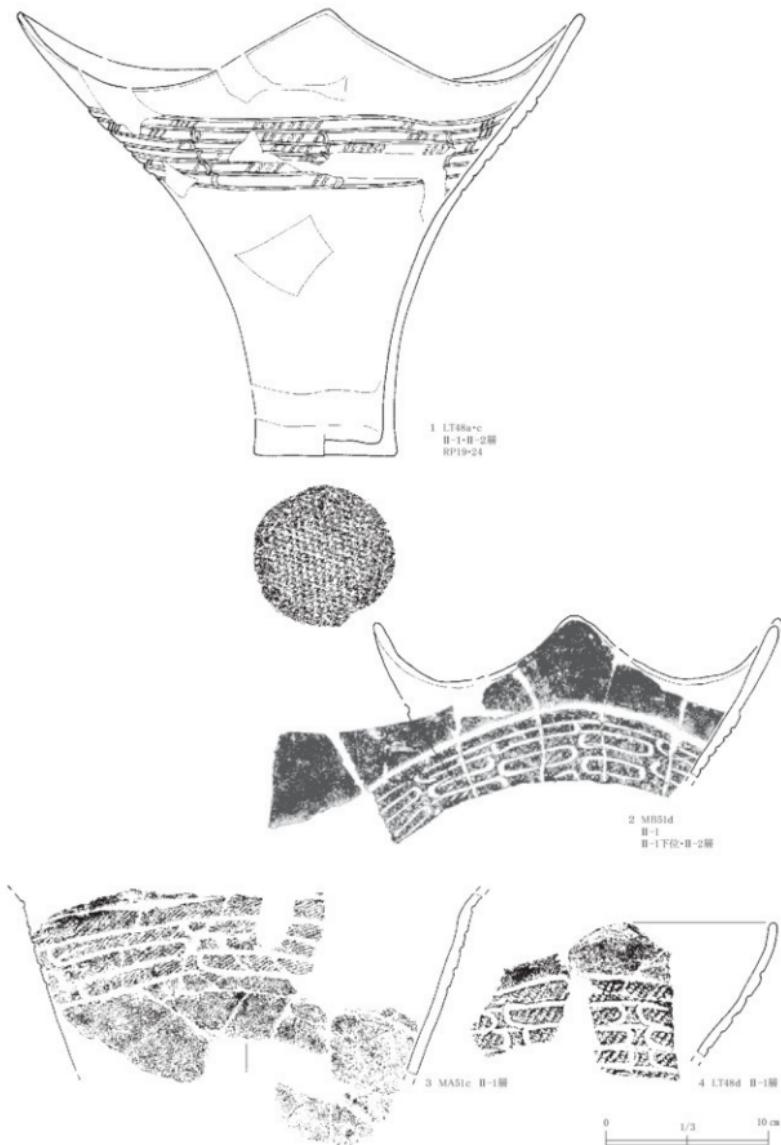
第28図 遺構出土縄文土器(6) I群(後期前葉)深鉢



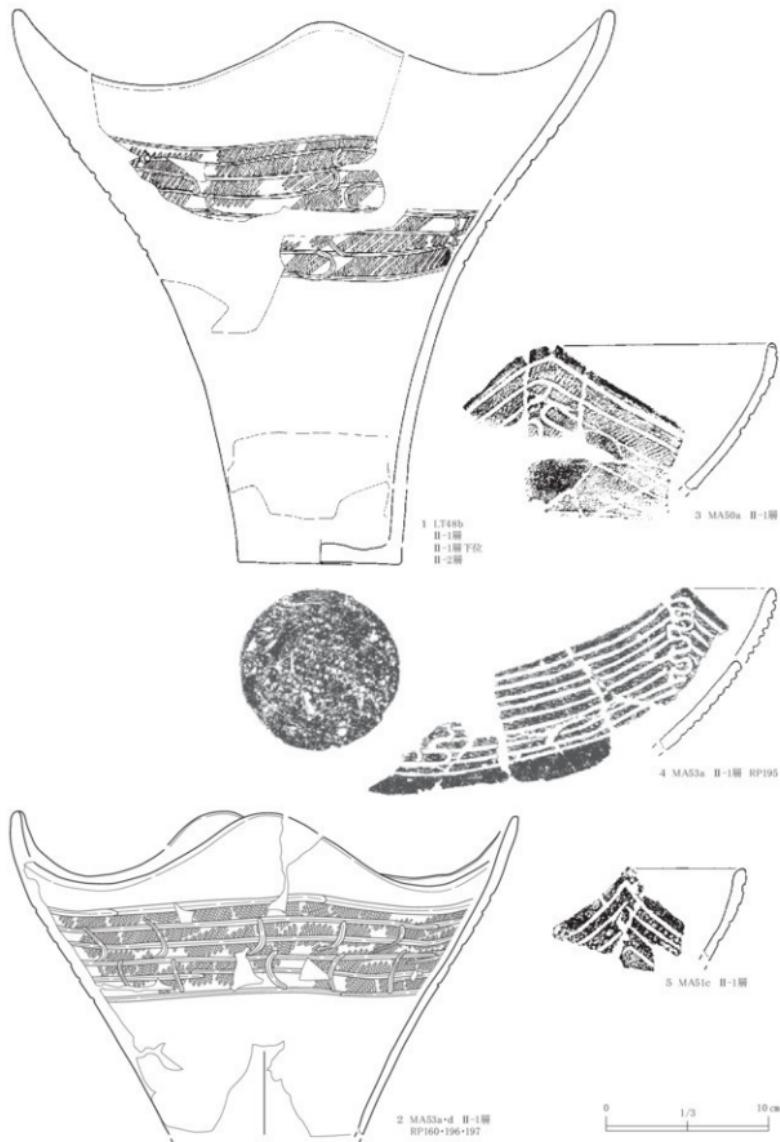
第29図 遺構外出土縄文土器(7) I群(後期前葉)深鉢



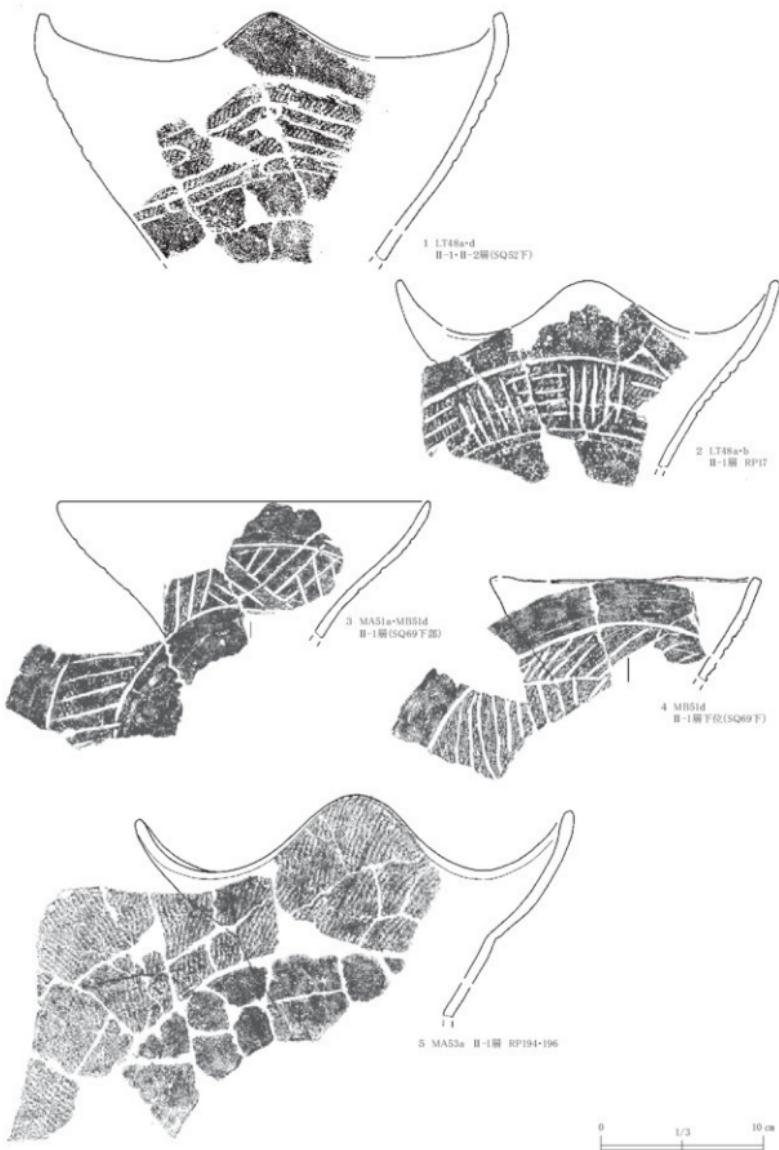
第30図 遺構外出土縄文土器(8) I群(後期前葉)深鉢、浅鉢、壺



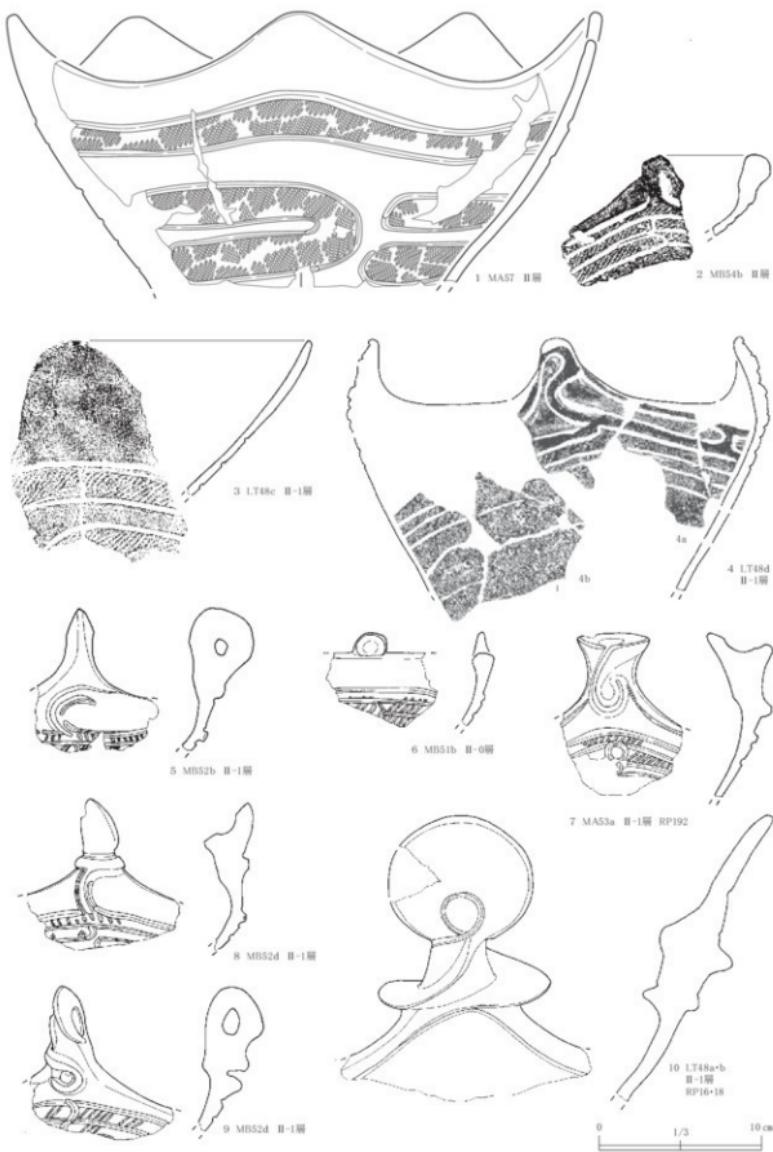
第31図 遺構外出土縄文土器(9) II群(後期中葉)深鉢



第32図 遺構外出土縄文土器(10) II群(後期中葉)深鉢



第33図 遺構外出土縄文土器(11) II群(後期中葉)深鉢



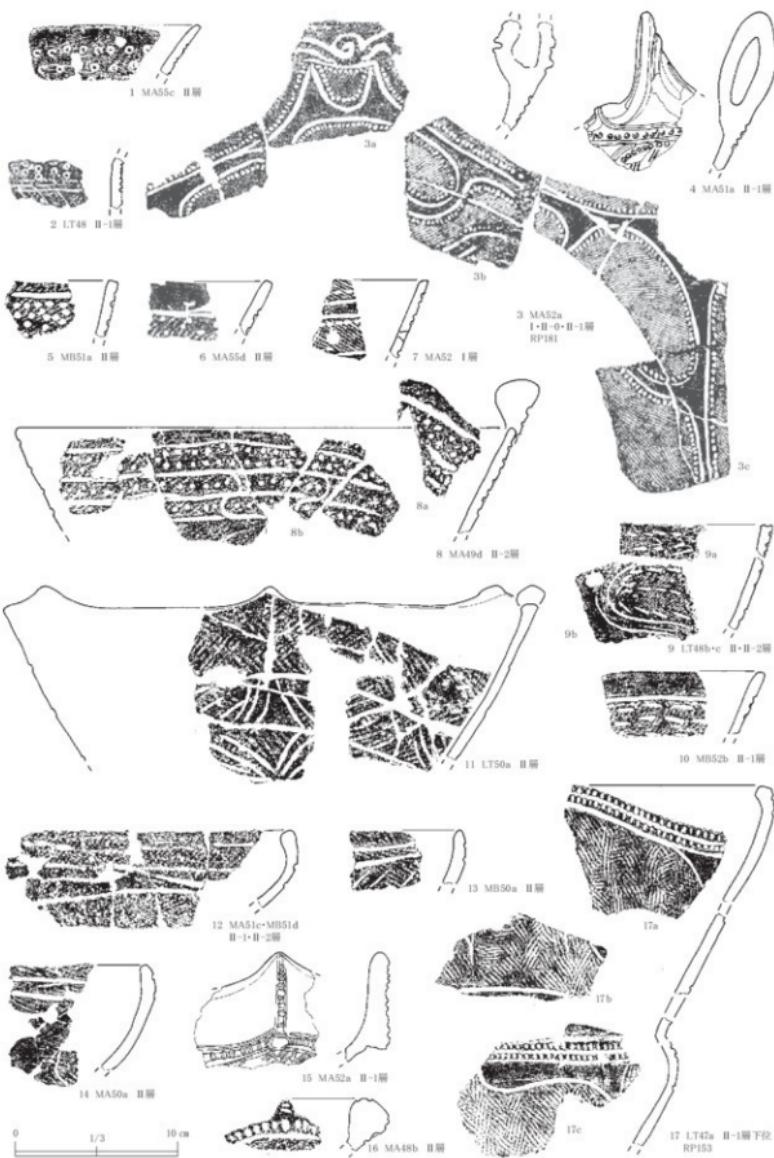
第34図 遺構外出土縄文土器(12) II群(後期中葉)深鉢



第35図 遺構外出土縄文土器(13) II群(後期中葉)深鉢



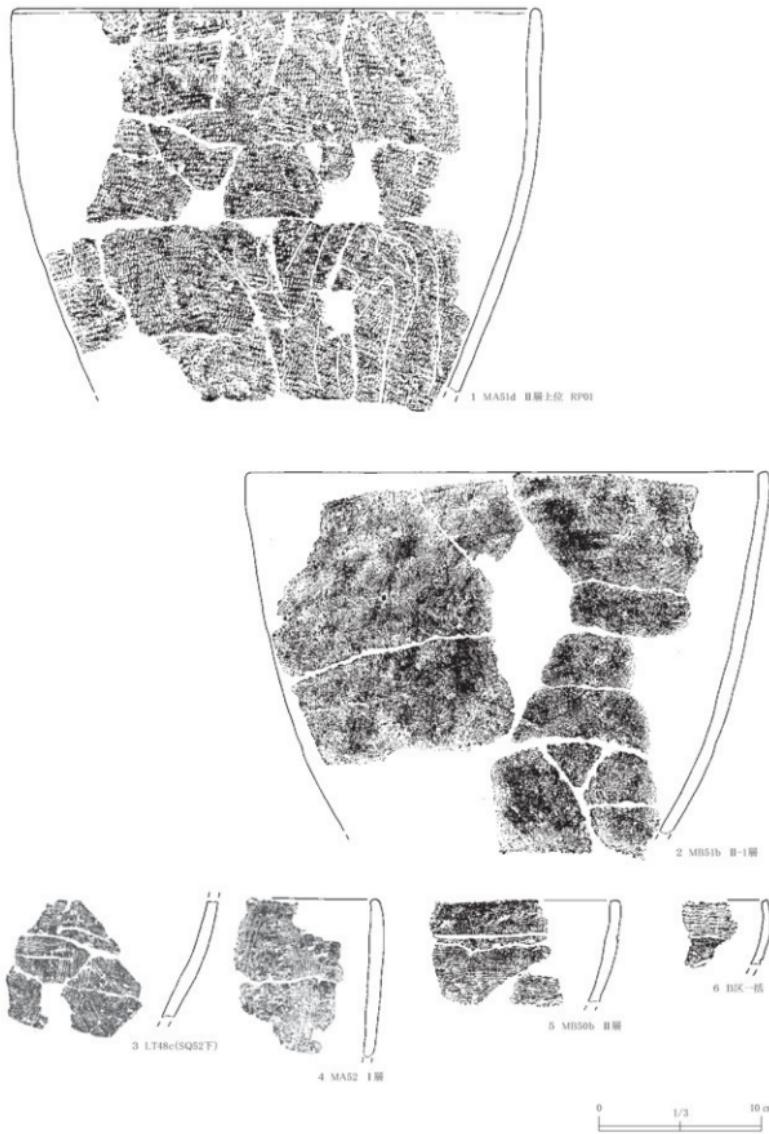
第36図 遺構外出土縄文土器(14) II群(後期中葉)深鉢



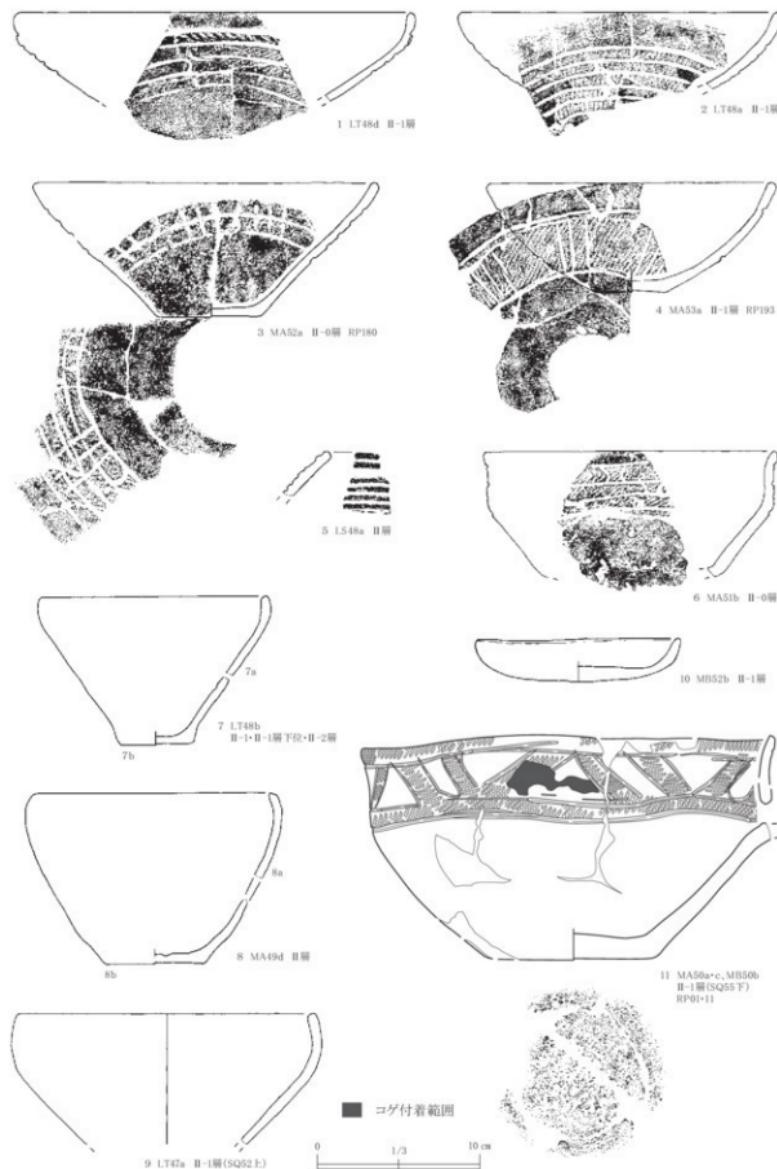
第37図 遺構外出土縄文土器(15) II群(後期中葉)深鉢



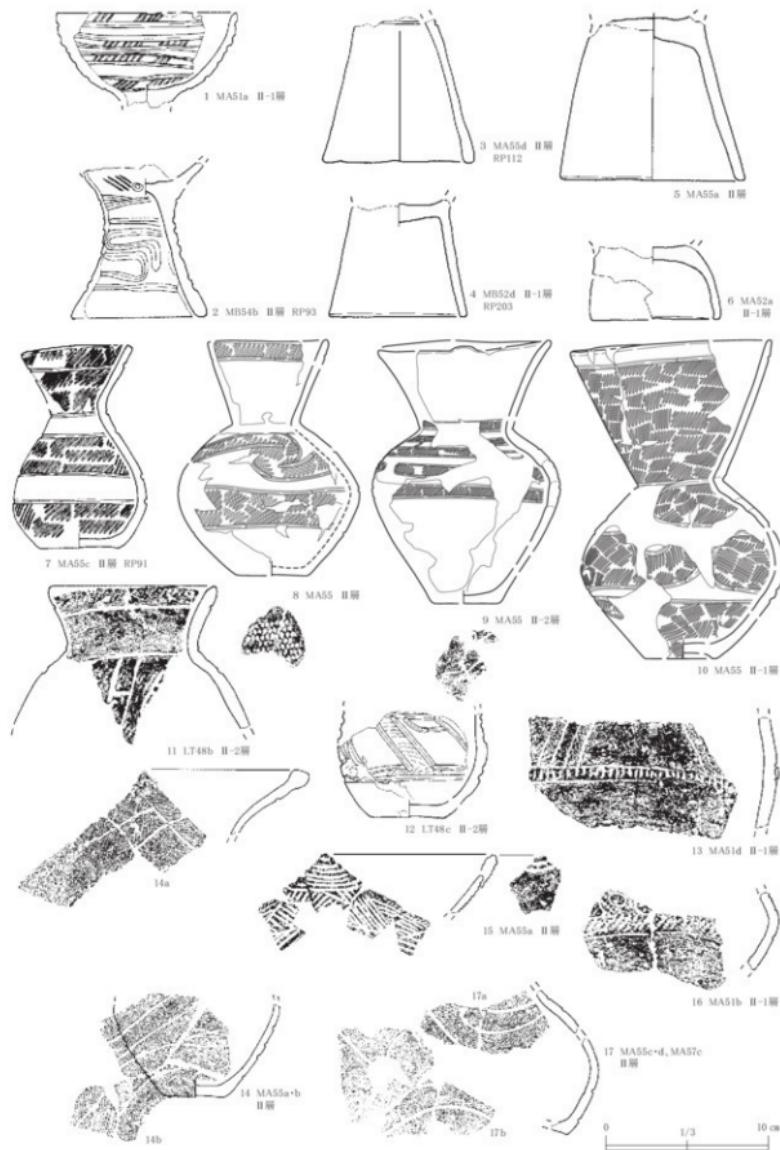
第38図 遺構出土縄文土器(16) II群(後期中葉)深鉢



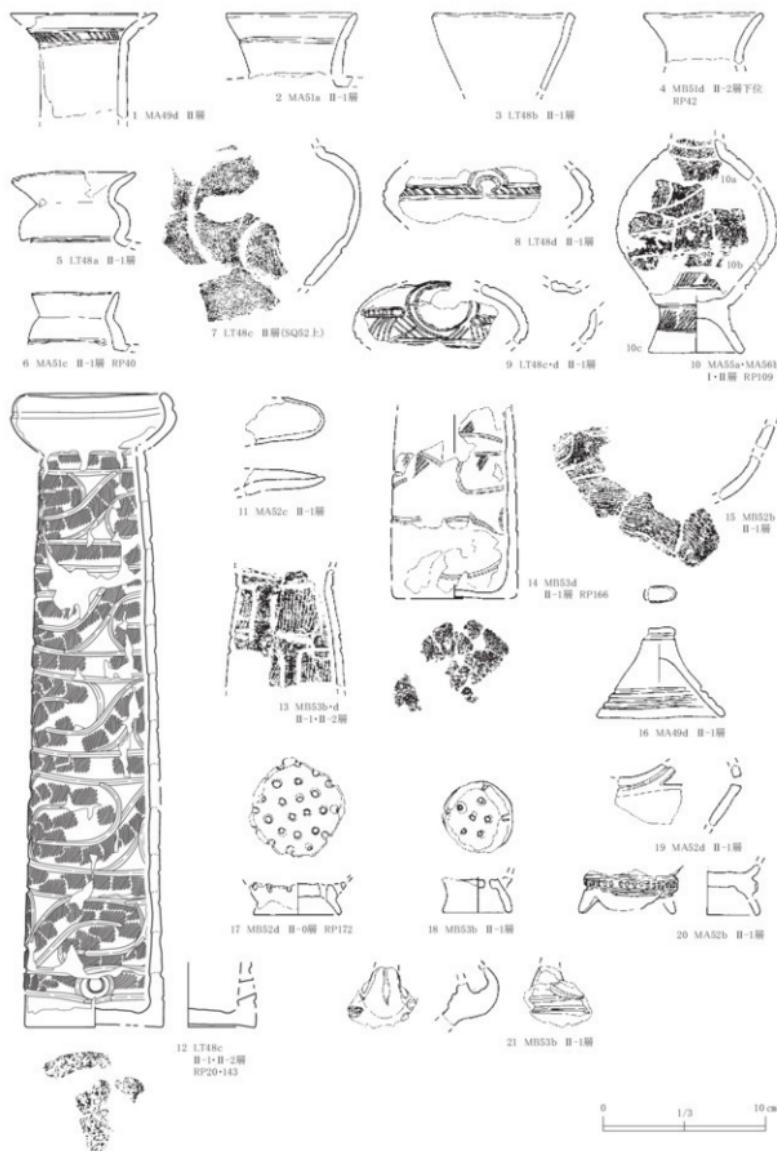
第39図 遺構外出土縄文土器(17) II群(後期中葉)深鉢



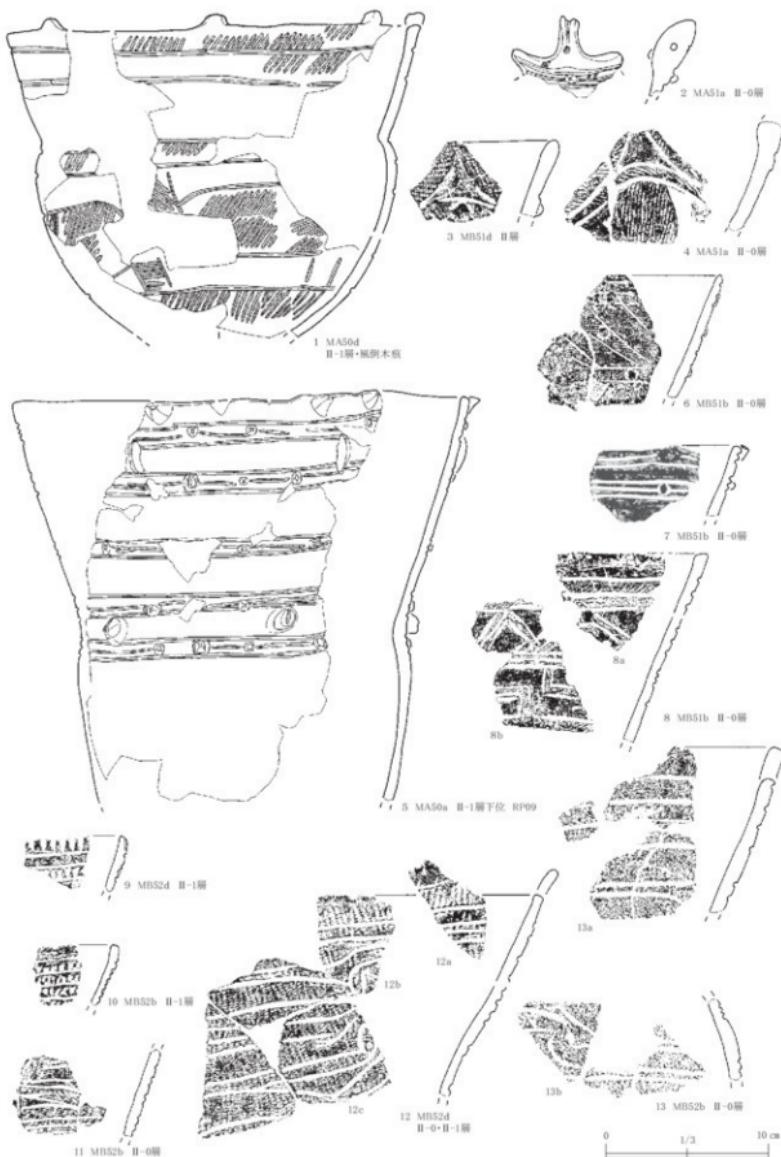
第40図 遺構外出土縄文土器(18) II群(後期中葉)鉢、浅鉢



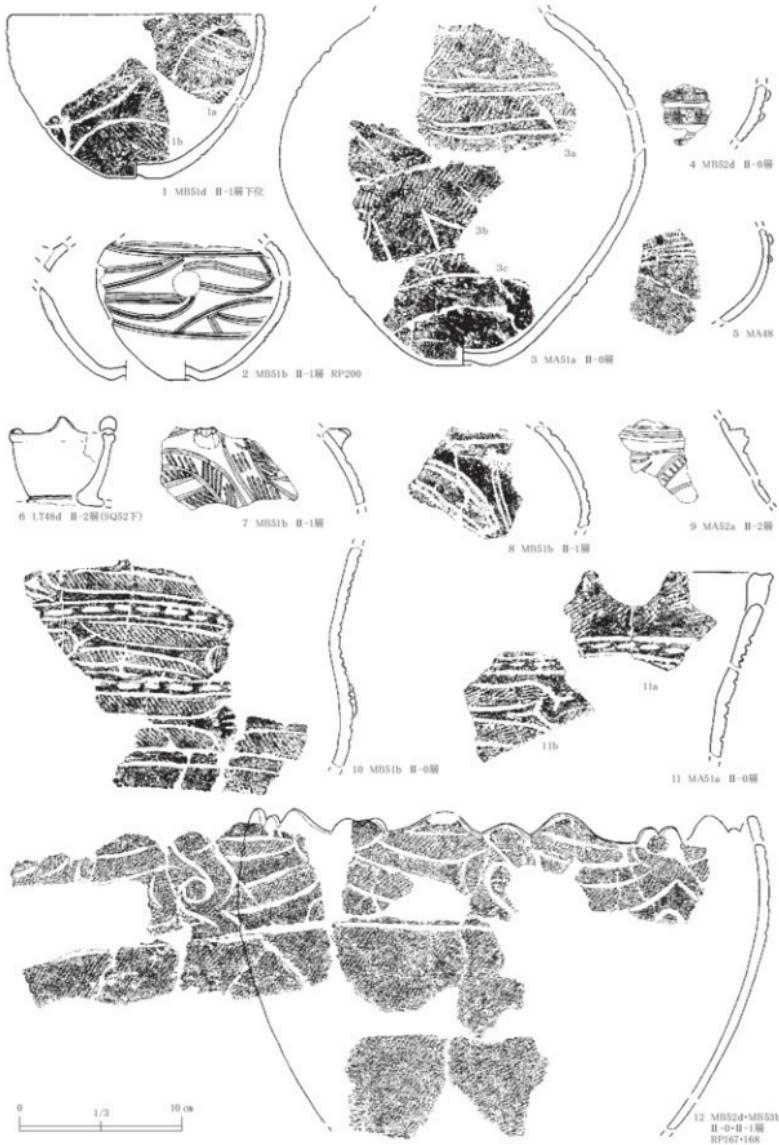
第41図 遺構外出土繩文土器(19) II群(後期中葉)台付鉢、壺



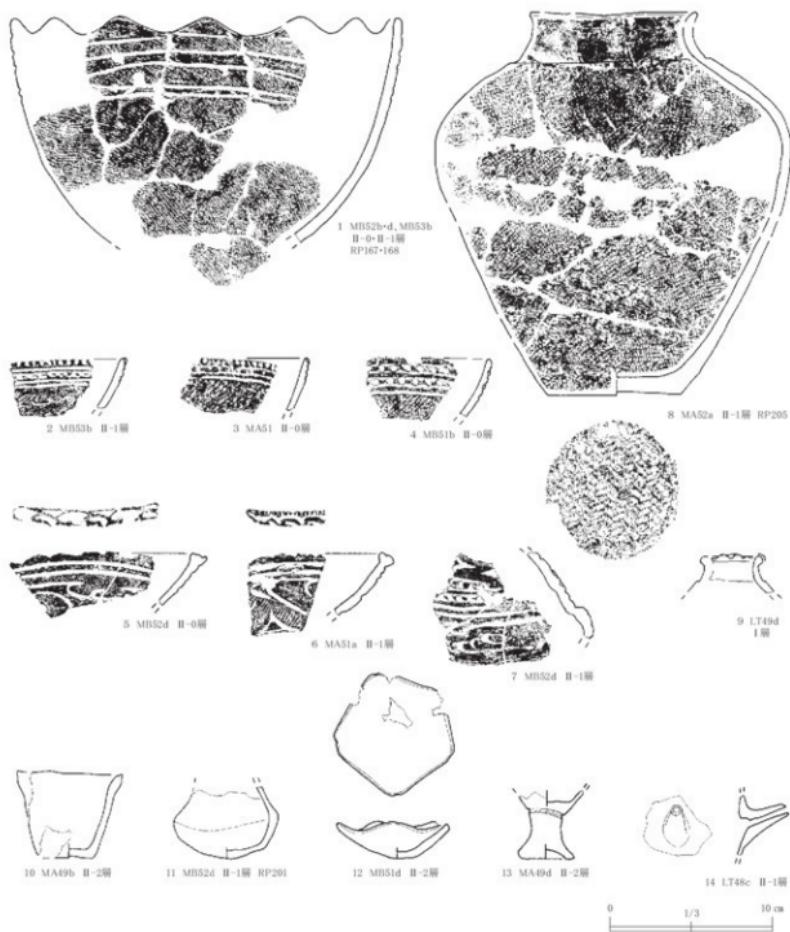
第42図 遺構外出土縄文土器(20) II群(後期中葉)壺、注口、単孔、蓋、多孔底、香炉



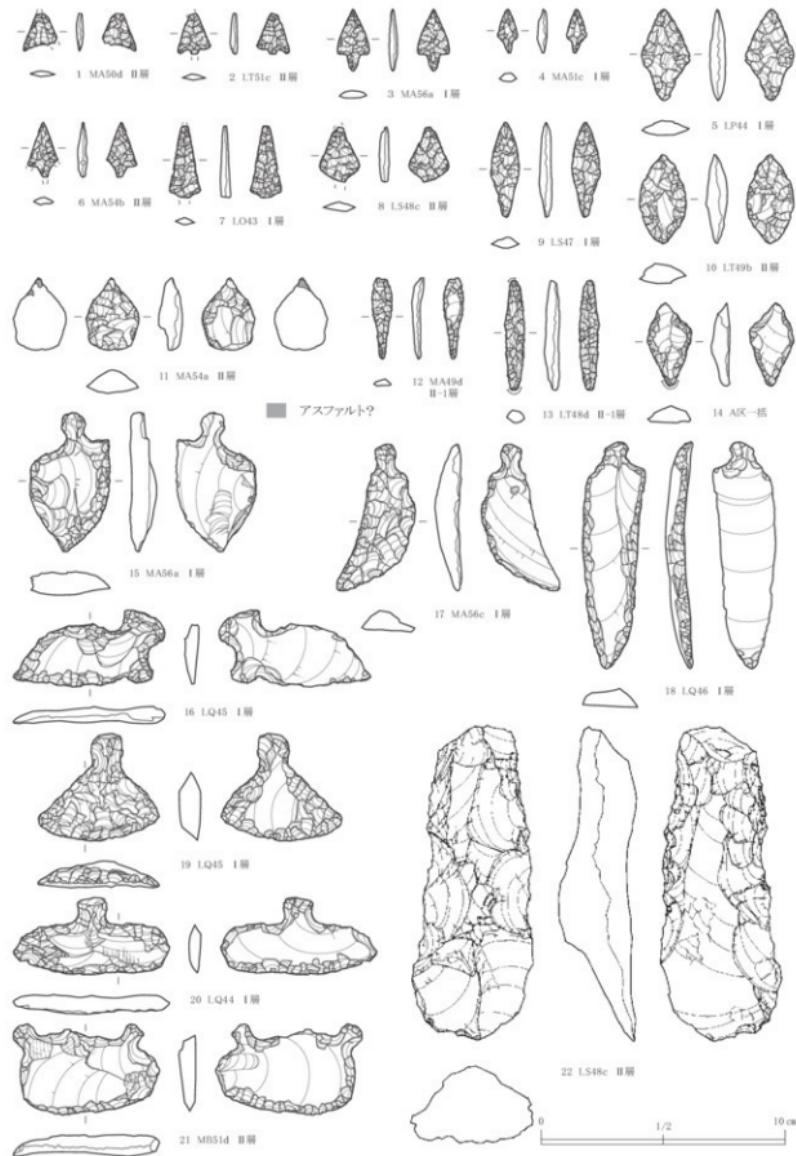
第43図 遺構外出土縄文土器(21) Ⅲ群(後期後葉)深鉢



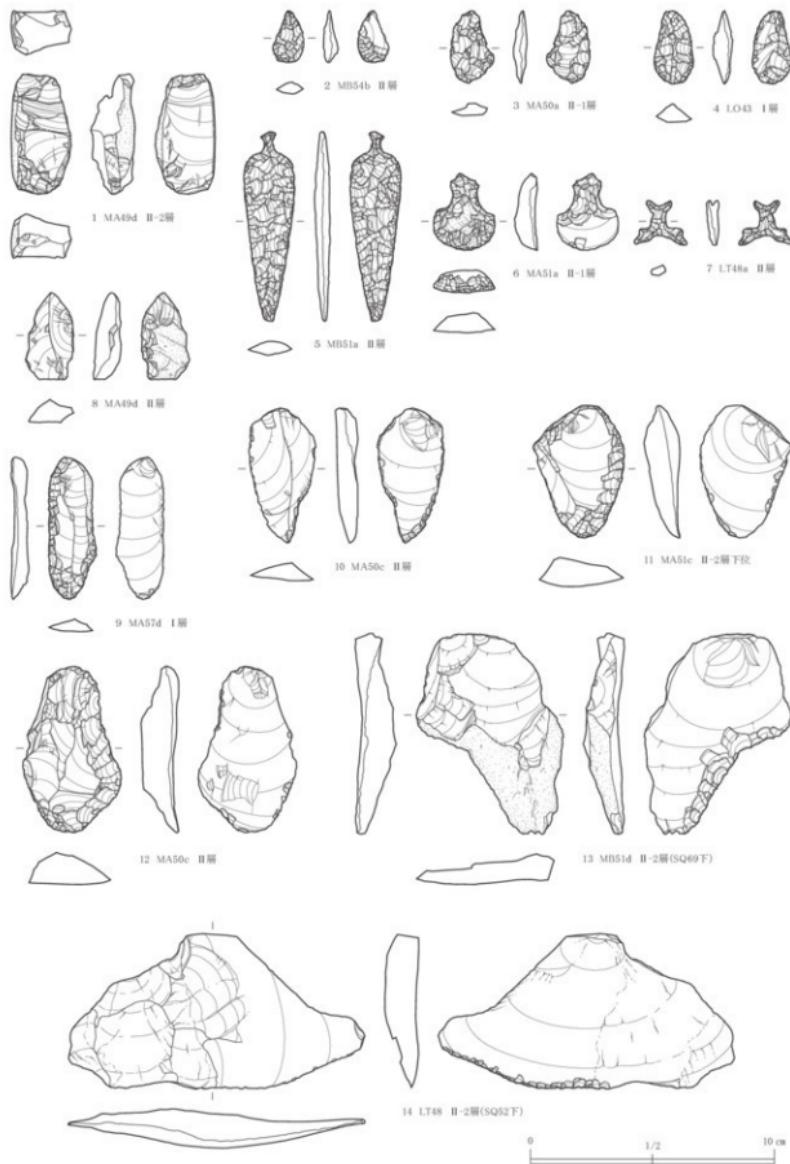
第44図 遺構外出土縄文土器(22) Ⅲ群(後期後葉)鉢、壺、口注 Ⅳ群(晩期)深鉢



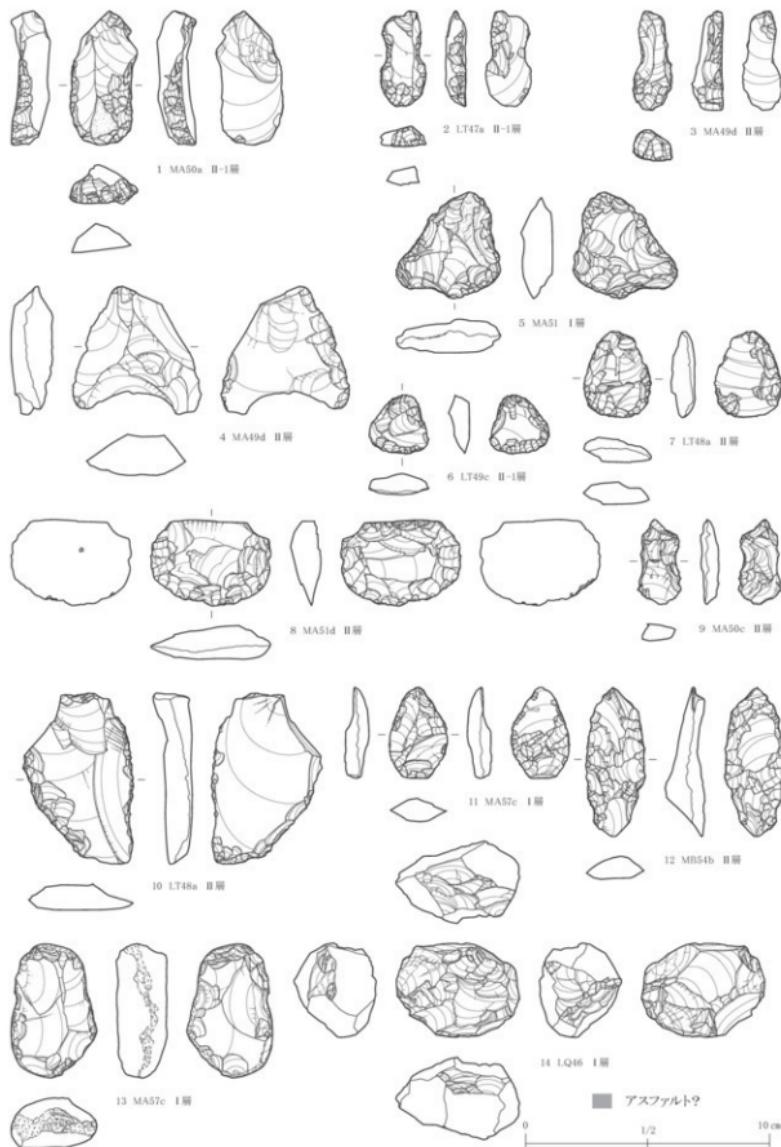
第45図 造構外出土縄文土器(23) IV群(晩期)深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口 V群(小型土器)



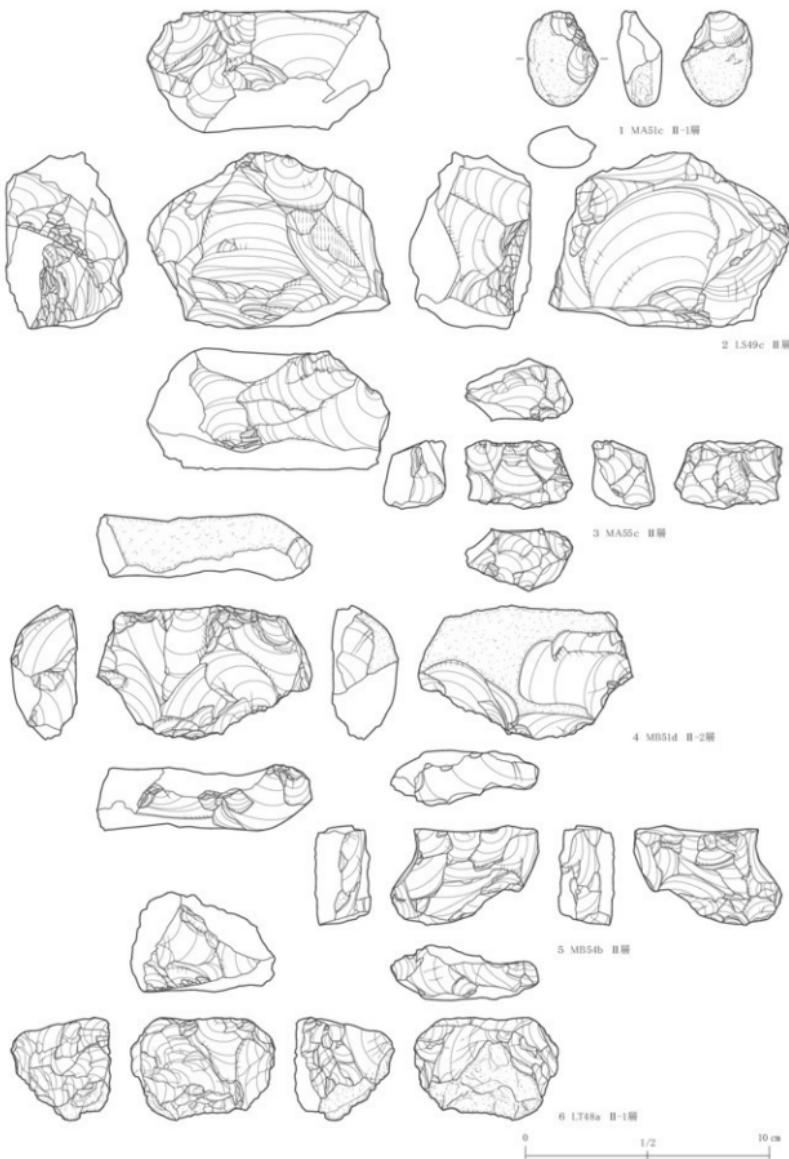
第46図 遺構外出土剥片石器類(1) 石鏃、石錐、石匙、鎹状石器



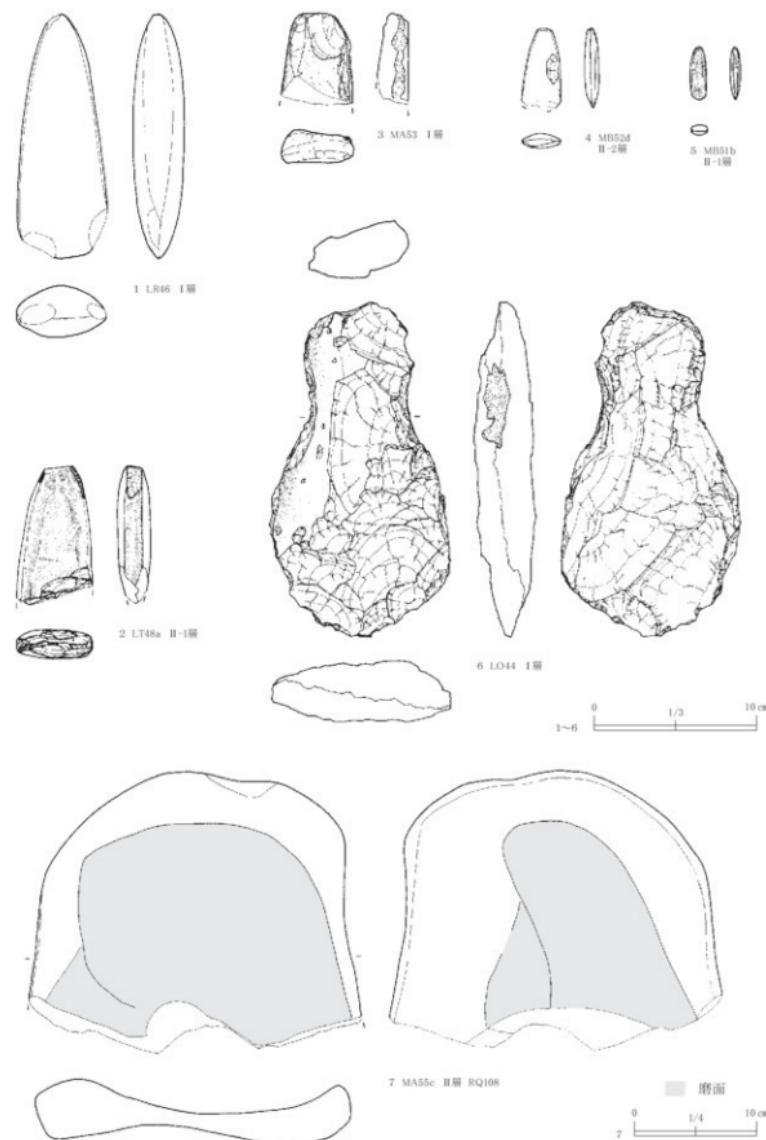
第47図 遺構外出土剥片石器類(2) 模形石器、嘴状石器、異形石器ほか、不定形石器



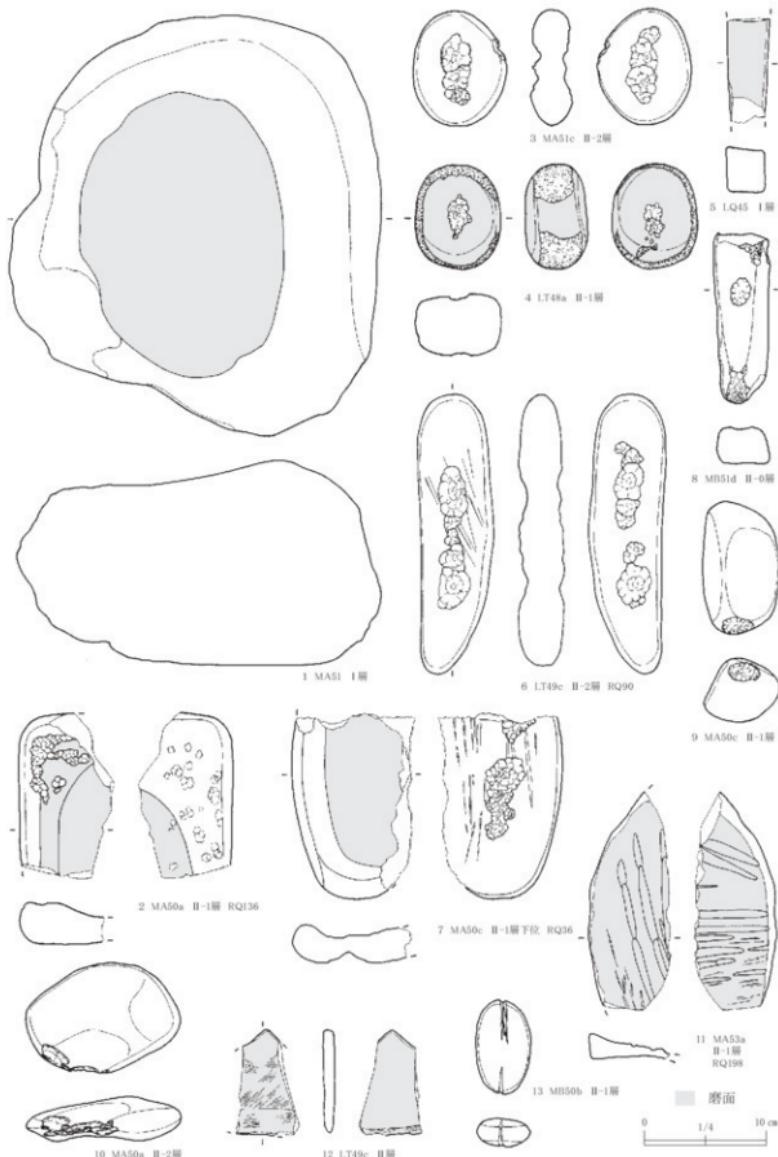
第48図 遺構外出土剥片石器類(3) 不定形石器、残核



第49圖 遺構外出土剥片石器類(4) 残核



第50図 遺構外出土礫石器類(1) 磨製石斧、打製石斧、石皿



第51図 遺構外出土礫石器類(2) 石皿、砥石、磨・凹石類、敲石、礫器、石錘



第52図 遺構外出土土製品・石製品

第13表 石器の器種別出土点数

剥片石器類	石鏟	石鋸	石匙	錐状石器	楔形石器	不定形石器	異形石器他	網片	残核	総計
遺構外	66	35	44	2	18	522	8	3793	157	4645
遺構内	2	1	2	0	1	27	0	145	10	188
合計	68	36	46	2	19	549	8	3938	167	4833

礫石器類	打製石斧	磨製石斧	石鎌	砥石	磨・凹石類	敲石	礫器	石錘	総計	鉢化木
遺構外	2	22	192	22	540	11	11	7	807	803
遺構内	0	2	55	0	91	0	6	0	154	50
合計	2	24	247	22	631	11	17	7	961	853

第14表 石器の分類別出土点数

石鏟	A類	B1類	B2類	B3類	B4類	C類	D類	E類	総計	石鏟	A類	B類	C類	D類	E類	総計
遺構外	1	5	16	8	5	1	25	5	66	遺構外	7	3	21	1	3	35
遺構内	0	0	2	0	0	0	0	0	2	遺構内	0	0	1	0	0	1
合計	1	5	18	8	5	1	25	5	68	合計	7	3	22	1	3	36

石匙	A1類	A2類	A3類	A4類	A5類	A6類	B1類	B2類	B3類	B4類	C1類	C2類	C3類	C4類	C5類	C6類	C7類	総計
遺構外	2	2	6	1	1	5	2	4	2	1	4	3	3	4	2	1	1	44
遺構内	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	2	2	6	1	1	7	2	4	2	1	4	3	3	4	2	1	1	46

不定形石器	A1類	B1類	C1類	D1類	A2類	B2類	C2類	D2類	A3類	B3類	C3類	D3類	A4類	B4類	C4類	D4類	E4類	A5類	B5類	C5類	D5類	A6類
遺構外	22	23	1	8	20	2	4	38	41	31	2	14	6	6	4	9	7	5				
遺構内	0	0	0	0	4	0	0	2	4	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	22	23	1	8	24	2	4	40	45	34	2	14	6	6	5	9	7	5				

不定形石器	B6類	C6類	A7a類	B7a類	D7a類	B7b類	D7b類	A8a類	B8a類	D8a類	A8b類	B8b類	D8b類	A8c類	C8c類	D8c類	A8d類	
遺構外	7	3	13	6	1	2	2	0	3	2	2	1	10	0	2	8	6	4
遺構内	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
合計	7	3	13	6	1	2	2	1	4	2	2	1	10	1	2	8	7	4

不定形石器	B8d類	D8d類	D8e類	B9a類	D9a類	A9b類	B9b類	A9c類	B9c類	C9c類	A9d類	B9d類	C9d類	A9e類	B9e類	C9e類	D9e類	
遺構外	0	1	4	2	1	2	8	3	23	44	16	8	8	26	3	2	10	2
遺構内	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0
合計	1	1	4	2	1	2	8	3	23	44	16	9	8	29	3	2	10	2

不定形石器	D9f類	D10a類	C10b類	C10c類	C10d類	B11類	C11類	総計	櫛器	A類	B類	総計	石錘	A類	B類	総計
遺構外	2	4	10	21	4	2	1	522	10	1	11	7	遺構外	4	3	7
遺構内	0	0	1	2	1	0	0	27	4	2	6	6	遺構内	1	0	1
合計	2	4	11	23	5	2	1	549	14	3	17	14	合計	5	3	8

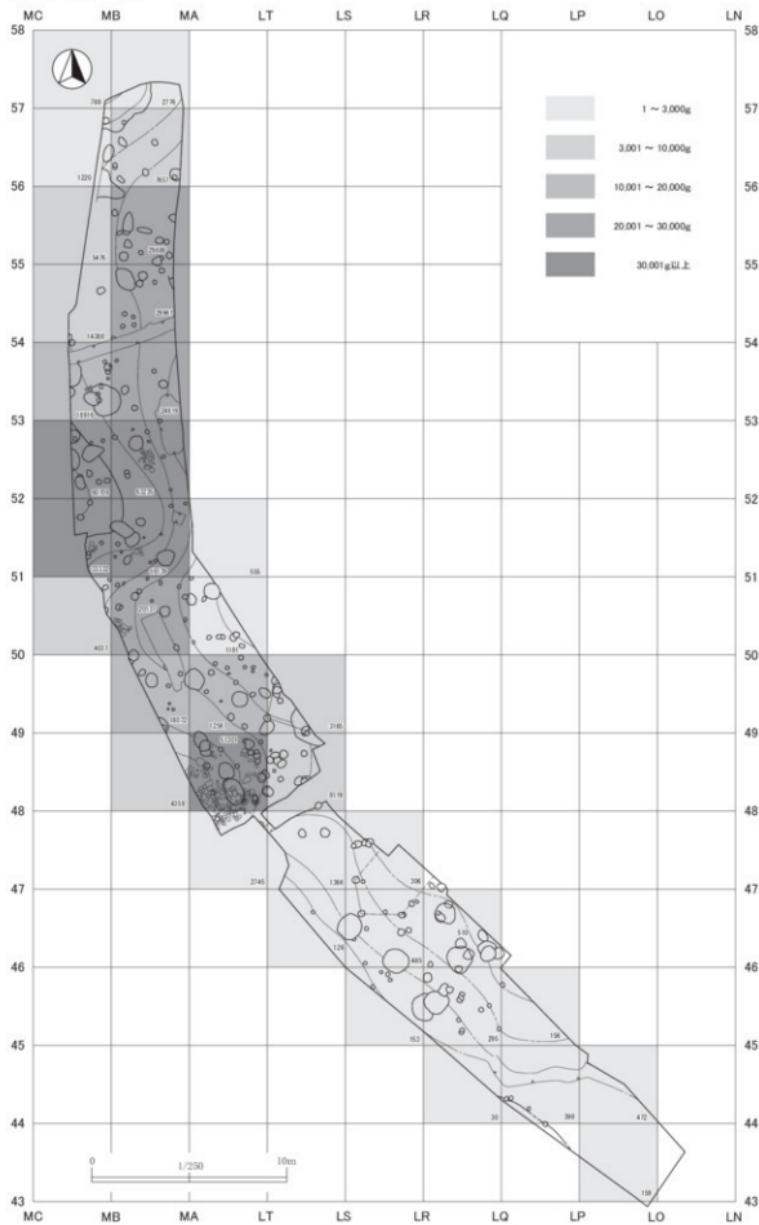
磨製石斧	A類	B1類	B2類	B類	B1類	B2類	C類	C2類	C3類	D類	総計	櫛器	A類	B類	C類	D類	E類	総計
遺構外	2	1	1	3	8	2	1	2	2	22	10	64	58	21	8	6	157	
遺構内	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	6	6	2	1	0	1	10	
合計	3	1	1	3	9	2	1	2	2	24	14	70	60	22	8	7	167	

石皿	A1類	A2類	B1類	C1類	C2類	D類	総計	砥石	A1類	B2類	B類	総計	石皿	A類	B類	C類	総計
遺構外	77	5	58	2	50	192	367	遺構外	3	13	6	22	遺構外	7	2	2	11
遺構内	29	2	14	0	10	55	98	遺構内	0	0	0	0	遺構内	0	0	0	0
合計	106	7	72	2	60	247	401	合計	3	13	6	22	合計	7	2	2	11

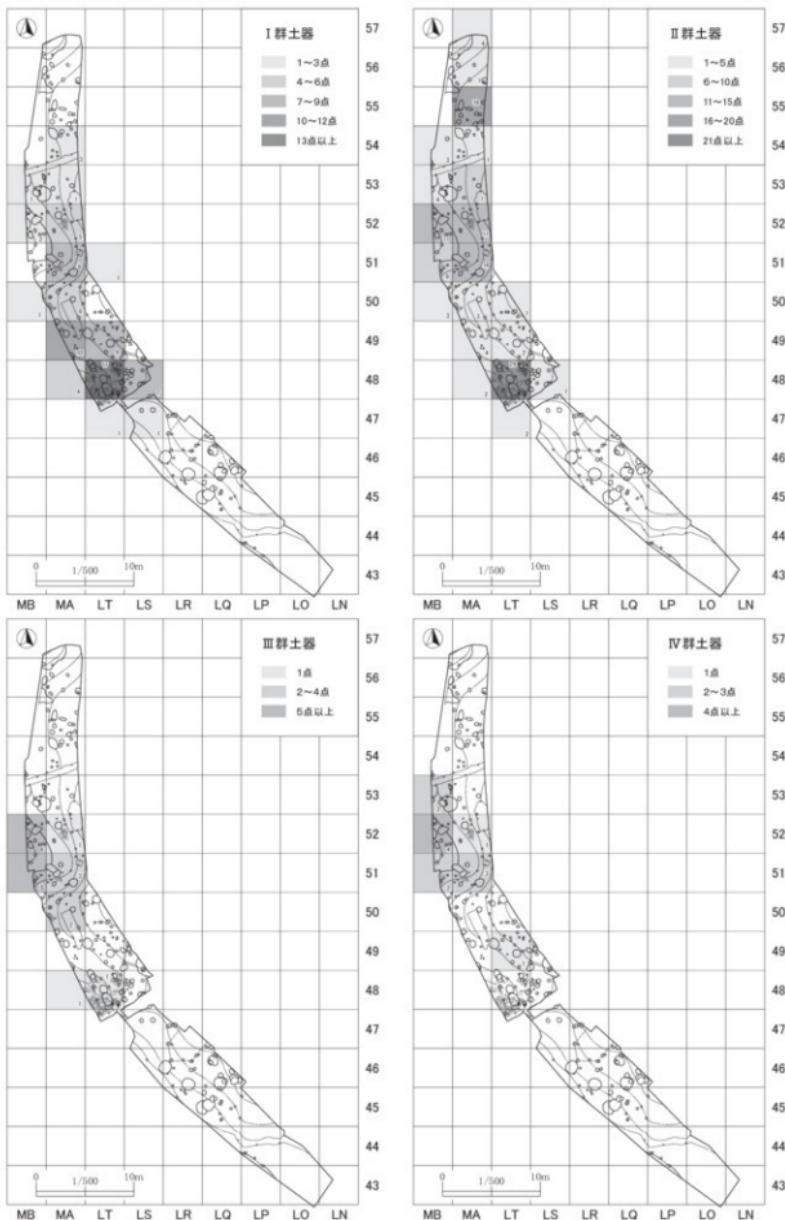
磨・凹石類	A1類	A2類	C1類	B1類	B2類	B3類	C2類	C3類	総計	石棒	A類	B1類	B2類	B3類	B4類	総計
遺構外	349	77	71	10	27	4	1	1	540	遺構外	15	9	2	2	2	28
遺構内	52	15	14	3	4	2	1	0	91	遺構内	3	0	1	0	0	4
合計	401	92	85	13	31	6	2	1	631	合計	18	9	3	2	32	

第15表 土製品の器種別出土点数

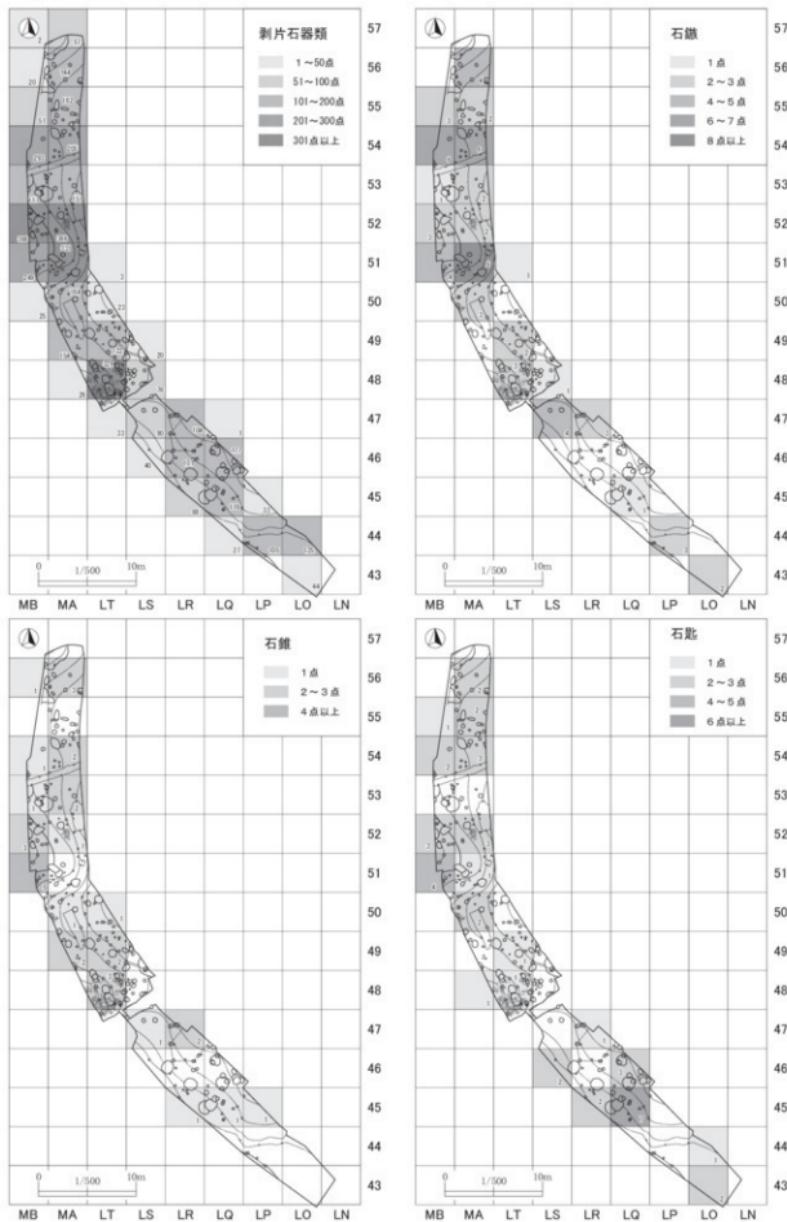
土製耳飾	土偶	土器片円盤	その他	合計	石棒	円錐状石製品	有孔石製品	その他	合計
遺構外	5	22	26	55	遺構外	15	9	2	28
遺構内	1	0	1	2	遺構内	3	0	1	4
合計	6	22	27	56	合計	18	9	2	32



第53図 造構外出土縄文土器重量分布図



第54図 造構外出土縄文土器時期別分布図



第55図 遺構外出土石器分布図(1) 剥片石器類、石鏃、石錐、石匙